

令和4年度 入学生

共通教育 履修案内

令和4年4月

 鹿児島大学共通教育センター

令和4年度（2022年度）共通教育行事予定表

授業日（第1ターム、第3ターム）

授業日（第2ターム、第4ターム）

月	曜 日							行 事
	日	月	火	水	木	金	土	
R4年 2022年 4					1	2		1日(金) 既修得単位認定申請
	3	4	5	6	7	8	9	1日(金)～20日(水) 技能審査(外国語技能検定試験) 合格者等の認定申請
	10	11	12	13	14	15	16	4日(月)～5日(火) 新入生の履修申請(前期:1T、2T、1T～2T) ※一部の集中講義は別途案内
	17	18	19	20	21	22	23	7日(木) 入学式
	24	25	26	27	28	29	30	7日(木) 午前:抽選もれ科目の発表 午後:履修申請(前期:1T、2T、1T～2T) 2回目
								7日(木) 教室発表
								8日(金) 授業開始(前期)
								14日(木)～15日(金) 履修申請(前期:1T、2T、1T～2T) 3回目
	1	2	3	4	5	6	7	9日(月) 4月18日以降の履修科目取消し申請期限(前期)
	8	9	10	11	12	13	14	30日(月) 予備日
5	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
6	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			
				1	2	3	4	
	3	4	5	6	7	8	9	1日(金)～7日(木) 既修得単位認定申請
7	10	11	12	13	14	15	16	29日(金) 予備日
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
		1	2	3	4	5	6	9日(火) 試験予備日
8	7	8	9	10	11	12	13	10日(水)～9月30日(金) 夏季休業(集中講義あり)
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
				1	2	3	4	2日(金) 成績発表(前期:1T、2T、1T～2T)
9	4	5	6	7	8	9	10	2日(金)～9日(金) 成績開示(異議申し立て)期間 ※9月卒業生と進級判定に関わる人は9月5日(月)まで
	11	12	13	14	15	16	17	7日(水)～9日(金) 履修申請(後期:3T、4T、3T～4T) ※一部の集中講義は別途案内
	18	19	20	21	22	23	24	5日(月)～9日(金) 科目等履修生の願書受付(後期)
	25	26	27	28	29	30		14日(水) 抽選もれ科目の発表、履修申請(後期:3T、4T、3T～4T) 2回目
								30日(金) 卒業式(9月卒業生)
10						1		3日(月) 授業開始(後期)
	2	3	4	5	6	7	8	3日(月)～20日(木) 技能審査(外国語技能検定試験)合格者等の認定申請
	9	10	11	12	13	14	15	11日(火)～12日(水) 履修申請(後期:3T、4T、3T～4T) 3回目
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
11						1	2	3
	6	7	8	9	10	11	12	2日(水) 10月13日以降の履修科目取消し申請期限(後期)
	13	14	15	16	17	18	19	11日(金)～14日(月) 終日休講(大学祭)
	20	21	22	23	24	25	26	15日(火) 鹿児島大学記念日
	27	28	29	30				22日(火) 予備日
12				1	2	3		20日(火) 金曜日の振替授業
	4	5	6	7	8	9	10	28日(水)～1月3日(火) 冬季休業
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
R5年 2023年 1	1	2	3	4	5	6	7	11日(水) 月曜日の振替授業
	8	9	10	11	12	13	14	13日(金) 終日休講(窓口休業) 大学入学共通テスト会場設営
	15	16	17	18	19	20	21	14日(土)～15日(日) 大学入学共通テスト
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
2				1	2	3	4	2日(木) 予備日
	5	6	7	8	9	10	11	10日(金) 試験予備日
	12	13	14	15	16	17	18	22日(水) 成績発表(後期:3T、4T、3T～4T)
	19	20	21	22	23	24	25	22日(水)～3月1日(水) 成績開示(異議申し立て)期間 ※卒業・進級判定に関わる人は2月24日(金)まで
	26	27	28					25日(土)～26日(日) 個別試験(前期日程)
3				1	2	3	4	1日(水)～7日(火) 科目等履修生の願書受付(前期)
	5	6	7	8	9	10	11	12日(日) 個別試験(後期日程)
	12	13	14	15	16	17	18	13日(月)～15日(水) 履修申請(次年度前期:1T、2T、1T～2T) ※一部の集中講義は別途案内
	19	20	21	22	23	24	25	24日(金) 卒業式
	26	27	28	29	30	31		

※1 行事日程が変更された場合は、掲示板等でお知らせします。

※2 休講に伴い授業時間数が不足する場合は、原則として予備日に補講を行います。自然災害等により予備日が不足する場合は、各ターム7回目の6时限、土日祝日に補講を行う場合もあります。

※3 各タームの週1コマ授業(1単位科目)は、各タームの最終日を授業45分、期末試験45分とします。

※4 各タームの週2コマ授業(2単位科目)は、各タームの最終日を期末試験日とします。

※5 第1～2ターム、第3～4の週1コマ授業(2単位科目)は、第2ターム、第4タームの最終日を期末試験日とします。

目 次

	頁
I 鹿児島大学の教育課程と共通教育の概要 -----	1
II 共通教育の教育目標と編成・実施方法 -----	2
〔1〕共通教育の教育目標	2
〔2〕共通教育の編成・実施方法	3
III 授業を受ける前に知っておくこと -----	4
〔1〕学年・学期・4ターム制・授業時間	4
1 学年	4
2 学期	4
3 4ターム制	4
4 授業時間	4
〔2〕学籍番号と学部別クラス編成	4
〔3〕授業方法に応じた学修時間	6
〔4〕授業中のマナーについて	6
〔5〕共通教育に関する連絡	7
IV 共通教育科目の履修基準 -----	8
〔1〕卒業要件単位数	8
〔2〕各期の履修申請単位数の上限設定	9
〔3〕グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度	10
V 共通教育の教育科目と単位の取り方 -----	12
○初年次教育科目 【必修科目】	
〔1〕初年次セミナーI -----	13
1 内容	13
2 単位の取り方	13
〔2〕初年次セミナーII -----	13
1 内容	13
2 単位の取り方	13
〔3〕大学と地域 -----	14
1 内容	14
2 単位の取り方	14
〔4〕体育・健康 -----	15
<1>理論	15
1 内容	15
2 単位の取り方	15
<2>実習	15
1 内容	15
2 単位の取り方	15
〔5〕情報活用 -----	16
1 内容	16
2 単位の取り方	16

○グローバル教育科目 【必修科目】	17
〔1〕英語 -----	17
1 内容	17
2 単位の取り方	17
〔2〕異文化理解 -----	20
1 内容	20
2 単位の取り方	20
○教養教育科目（教養基礎科目）【選択必修科目】	21
〔1〕人文・社会科学分野	21
<1>初修外国語 -----	21
1 内容	21
2 単位の取り方	21
<2>選択科目 -----	23
1 内容	23
2 単位の取り方	23
・ 開設授業科目一覧	23
〔2〕自然科学分野	26
<1>教育職員免許状取得に係る実験科目 -----	26
1 内容	26
2 単位の取り方	26
3 履修学年	26
<2>選択科目 -----	27
1 内容	27
2 単位の取り方	27
・ 開設授業科目一覧	27
<3>基礎教育入門科目 -----	29
1 内容	29
2 単位の取り方	29
・ 開設授業科目一覧	29
○教養教育科目（教養活用科目）【選択必修科目】	30
〔1〕統合Ⅰ（課題発見）-----	30
1 内容	30
2 単位の取り方	30
・ 開設授業科目一覧	30
〔2〕統合Ⅱ（課題解決）-----	31
1 内容	31
2 単位の取り方	31
・ 開設授業科目一覧	31
VI 外国人留学生のための科目の概要と単位の取り方-----	33
〔1〕日本語・日本事情	33
1 学習目標	33
2 内容	33
3 単位の取り方	33
〔2〕外国人留学生の単位の取り方	34
1 教養基礎科目、教養活用科目の読み替え	34
2 外国語について	34

VII 履修手続きをする前に知っておくこと	-----	3 6
〔1〕入学前に修得した単位の認定		3 6
〔2〕技能審査（外国語技能検定試験）合格者等の単位認定		3 6
〔3〕教員免許状の取得		3 6
〔4〕学芸員資格の取得		3 6
〔5〕高度共通教育科目		3 7
VIII 履修手続	-----	3 9
〔1〕シラバス		3 9
〔2〕履修計画		3 9
〔3〕履修申請		3 9
〔4〕履修手続きの流れ		4 0
IX 共通教育に関する授業アンケート（授業評価）	-----	4 4
X 試験及び単位認定	-----	4 5
〔1〕試験		4 5
〔2〕単位認定とGPA制度		4 5
〔3〕追試験		4 7
〔4〕再試験		4 7
〔5〕受験上の注意		4 7
〔6〕不正行為の措置		4 8
〔7〕成績評価等に対する開示請求と異議申立て		4 8
〔8〕単位互換制度		4 9
XI 学生生活	-----	5 1
〔1〕学生生活上の相談		5 1
1 修学及び学生生活一般		5 1
2 担任教員等		5 2
〔2〕諸願・届及び注意事項		5 5
1 学生の身分異動等		5 5
2 証明書などの発行		5 5
3 車両等による通学		5 6
4 健康の維持		5 6
5 共通教育棟の施設の利用（パソコンの利用など）		5 7
6 その他		5 7
〔3〕自然災害等非常時における授業・学期末試験等の取扱い		6 0
XII 転学部について	-----	6 2
【規則等一覧】		
○ 鹿児島大学共通教育科目履修規則		6 3
○ 鹿児島大学共通教育科目試験規則		6 8
○ 鹿児島大学共通教育センター科目等履修生に関する細則		7 0
○ 鹿児島大学共通教育科目既修得単位認定規則		7 1
○ 鹿児島大学共通教育グローバル教育科目群及び教養基礎科目群における技能審査 合格者等の単位認定規則		7 4
○ 鹿児島大学共通教育グローバル教育科目群及び教養基礎科目群に係る技能審査等 の認定基準に関する申合せ		7 6

【他の表・図】	7 8
・鹿児島大学配置図（郡元キャンパス）	7 8
・鹿児島大学共通教育棟配置図（共通教育棟講義室等略図）	7 9
 【共通教育科目時間割表】	 8 1
・履修申請表（ワークシート）	8 7
・欠席届	8 8
 【令和4年度前期分共通教育シラバス】	 8 9

※共同獣医学部の共通教育に関する詳細は、共同獣医学部共通教育履修案内に記載しております。

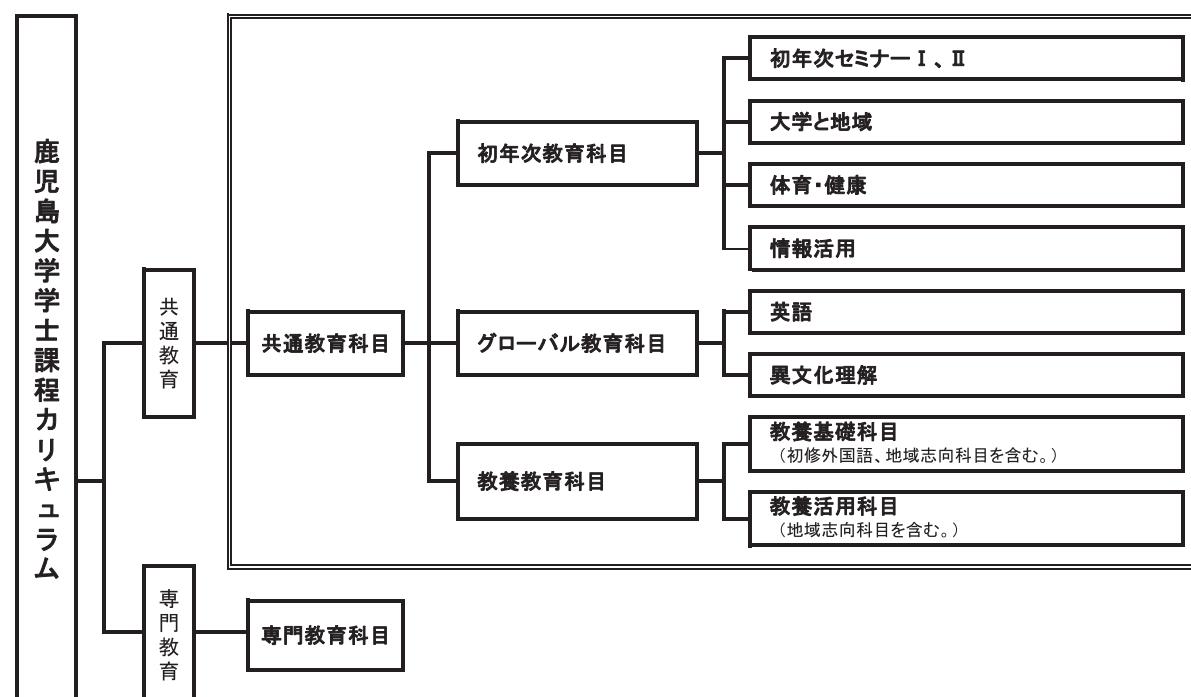
I 鹿児島大学の教育課程と共通教育の概要

鹿児島大学は、大学憲章において、「学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす。」と明示しています。特に、教育に関しては、「学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養う。真理を愛し、高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍しうる人材を育成する。」ことに取り組んでいます。そのために、鹿児島大学では4（6）年一貫教育体制のもとで、共通教育と専門教育との相互の有機的な連携を図りつつ、地域社会との協力や国際化にも対応する視点をもって、総合大学としての幅広い教育を進めます。

鹿児島大学の教育課程は、共通教育における共通教育科目と専門教育における専門教育科目で構成されています。共通教育科目は共通教育センターで企画・運営されており、全学部の教員による支援体制のもとで、初年次教育科目、グローバル教育科目、教養教育科目で構成しています。初年次教育科目は、大学での学び方の特徴や大学と地域との関わりを理解し、自主自律的に学び続けるための基盤となる思考法や学修技術、自己管理能力を身につけるための科目です。グローバル教育科目は、グローバル化が進む社会で貢献するための基盤となる語学力や異文化を理解する能力を育てるための科目です。そして、教養教育科目は、地域や国際社会における課題を発見し、追究、解決することをとおして社会に貢献できる能力を養成するための科目です。

なお、共通教育科目として2年次以上を対象とした「高度共通教育科目」が開講されます。
(p. 37を参照)「高度共通教育科目」は共通教育センターで開講しますが、卒業要件上は専門教育の単位となり、認められる単位数は学部によって異なります。

専門教育科目は、各学部の専門的な知識や技能を修得するとともに、豊かな人間性、論理的な思考力や課題解決能力などを養成するための科目です。



II 共通教育の教育目標と編成・実施方法

〔1〕共通教育の教育目標

共通教育では、鹿児島大学憲章と鹿児島大学教育目標に基づき、次のような理念と教育目標を設定します。

理 念	教 育 目 標
1. 自己理解	①自身の関心・能力・価値観を踏まえて行動できる。 ②必要な知識・技能の獲得に向けて行動できる。
2. 情報収集・精査・統合	①必要な情報を収集できる。 ②集めた情報を信頼性や必要性に基づき精査できる。 ③個別の知識を統合して課題の解決策を提案できる。
3. 論理的思考	①幅広い視野から課題の解決策を考えることができる。 ②多様な情報の信頼性を論理的に説明できる。 ③自分の考えを論理的に話し、書くことができる。
4. 科学的思考	①科学的根拠に基づく仮説を立てることができる。 ②事実やデータに基づき、仮説を検証できる。
5. 倫理	①社会生活の基盤となる倫理について、考えを述べられる。 ②倫理を弁えた表現、行動ができる。
6. 実践	①状況に応じた方法で必要な行動ができる。 ②課題の解決に向けて主体的に行動できる。
7. 他者との協働	①自身の責任や立場を理解し、自覚的に行動できる。 ②他者と協力して課題の解決を図ることができる。

〔2〕共通教育の編成・実施方法

共通教育では「初年次教育科目」、「グローバル教育科目」及び「教養教育科目」を開設し、教育目標の達成を目指します。それぞれの科目や分野は以下のとおりです。

○「初年次教育科目」

- (A) 大学での学修に必要となる自主自律的な学び方の修得を主な目的として、「初年次セミナーⅠ」と「初年次セミナーⅡ」を設けます。教育目標のうち、特に、自己理解、論理的思考、科学的思考、他者との協働の達成を目指します。
- (B) 地域における知の拠点としての鹿児島大学において学修する意義を明確にし、地域貢献に関する意識の向上を主な目的として、「大学と地域」を設けます。教育目標のうち、特に、情報収集・精査・統合、論理的思考の達成を目指します。
- (C) 心身の育成や健康の管理法の修得を主な目的として、「体育・健康（理論）」と「体育・健康（実習）」を設けます。教育目標のうち、特に、自己理解、実践の達成を目指します。
- (D) 情報に関する基本的・実践的な学修技術の修得を主な目的として、「情報活用」を設けます。教育目標のうち、特に、科学的思考、実践の達成を目指します。

○「グローバル教育科目」

- (E) 文化の異なる他者とのコミュニケーション能力を高めるとともに、異文化の理解を主な目的として、「英語」と「異文化理解」を設けます。教育目標のうち、特に、自己理解、論理的思考の達成を目指します。

○「教養教育科目」

- (F) 幅広い視野や思考力の育成などを主な目的として、「教養基礎科目」に2つの分野（「人文・社会科学」と「自然科学」）を設けます。教育目標のうち、特に、論理的思考、科学的思考、倫理の達成を目指します。
- (G) 地域社会や環境問題など現代社会が抱える諸問題について、課題を発見する能力や解決する能力の育成を主な目的として、「教養活用科目」に2つの分野（「統合Ⅰ」と「統合Ⅱ」）を設けます。教育目標のうち、特に、自己理解、論理的思考、科学的思考、他者との協働の達成を目指します。

地域志向科目とは

教養教育科目の中に「地域志向科目」として位置付けられている科目があります。この科目は、地域の諸課題を発見・探究・解決し、地域社会の発展に貢献できる行動力を養い、地域課題の解決に向けて果敢に立ち向かう行動力と地域貢献マインドを備えた人材、地域課題を把握・分析し、その解決方法を導き、将来ビジョンを描ける人材グローバルに通用する専門知と地域課題とをリンクさせて、科学的な知見に基づく多角的視点を持った人材の育成を目的としています。

III 授業を受ける前に知っておくこと

〔1〕学年・学期・4ターム制・授業時間

1 学年

4月1日に始まり翌年3月31日に終わる1年間を学年と定めています。(学則第23条)

入学後の進行年数に応じて、1年次、2年次、・・・と呼びます。

2 学期

学年を、前期、後期の2学期に分けます。(学則第24条)

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

また、入学年次から各学期を積算して、1年次前期を1期、後期を2期、2年次前期を3期、
・・・とも呼びます。

3 4ターム制

前期と後期の各授業期間を、さらに前半と後半に分けます。(第1～4ターム)

多くの授業は、第1～2ターム、第3～4タームの期間で実施しますが、1つのタームのみの
期間で完結する授業もあります。

<前期> 4月中旬～6月上旬を「第1ターム」、6月中旬～8月上旬を「第2ターム」

<後期> 10月～11月下旬を「第3ターム」、12月～2月上旬を「第4ターム」

4 授業時間

本学における授業は、90分を単位として、下記の時限、時間区分によって行われます。

(なお、桜ヶ丘キャンパスは、各時限開始時間が郡元キャンパスの10分遅れです。)

時限	1	2	3	4	5
時間	8：50～ 10：20	10：30～ 12：00	12：50～ 14：20	14：30～ 16：00	16：10～ 17：40

〔2〕学籍番号と学部別クラス編成

授業は、原則として授業時間割で示される範囲内で授業クラスを編成して行います。

学部別クラス編成は、次頁に記載されているとおりですので、学部・学科等のコード番号を確認してください。また、学部・学科等のコード番号は、学生証に記載されている学籍番号でも確認できます。

みなさんの学籍番号は、以下のように10桁の数値から成り立っています。

○○ ○○ ○○ ○○○ ○

学部 入学年度 学科等 番号 チェックデジット

なお、入学年度は、西暦の下2桁の数値です。また、チェックデジットとは電算処理上必要な
ものです。

クラス編成

学部[コード]	学科等名称[学籍番号の学科等コード2桁] (学籍番号の番号3桁)	組
法文学部 [1 1]	法経社会学科(法学) [6 2]	1
	法経社会学科(地域社会・経済) [6 3]	2
	人文学科(多元地域文化) [6 4]	3
	人文学科(心理学) [6 5]	
教育学部 [0 7]	学校教育教員養成課程 初等教育コース一般[4 1]	
	学校教育教員養成課程 初等教育コース音楽[4 2]	1
	学校教育教員養成課程 初等教育コース保健体育[4 3]	
	学校教育教員養成課程 中等教育コース国語[6 8]	
	学校教育教員養成課程 中等教育コース社会[6 9]	2
	学校教育教員養成課程 中等教育コース英語[7 4]	
	学校教育教員養成課程 中等教育コース数学[7 0]	
	学校教育教員養成課程 中等教育コース理科[7 1]	3
	学校教育教員養成課程 中等教育コース技術[7 2]	
	学校教育教員養成課程 中等教育コース家政[7 3]	
	学校教育教員養成課程 中等教育コース音楽[4 4]	
	学校教育教員養成課程 中等教育コース美術[4 5]	4
	学校教育教員養成課程 中等教育コース保健体育[4 6]	
	学校教育教員養成課程 特別支援教育コース[6 3]	
理学部 [2 2]	理学科[6 0] (0 0 1 ~ 0 9 5)	1
	理学科[6 0] (0 9 6 ~)	2
医学部 [4 2]	医学科[1 0]	1
	保健学科(看護学専攻) [2 1]	
	保健学科(理学療法学専攻) [2 2]	2
	保健学科(作業療法学専攻) [2 3]	
歯学部 [4 3]	歯学科[1 0]	1
工学部 [2 5]	先進工学科(機械工学プログラム) [3 2]	1
	先進工学科(電気電子工学プログラム) [3 3]	2
	先進工学科(海洋土木工学プログラム) [3 4]	3
	先進工学科(化学工学プログラム) [3 5]	4
	先進工学科(化学生命工学プログラム) [3 6]	4
	先進工学科(情報・生体工学プログラム) [3 7]	2
	先進工学科(工学系共通クラス) [3 8]	5
	建築学科(建築学プログラム) [4 0]	3
農学部 [3 4]	農業生産科学科[3 1]	1
	食料生命科学科[3 2]	2
	農林環境科学科[3 3]	3
	国際食料資源学特別コース[4 1]	水産学部2組と混合
水産学部 [3 8]	水産学科[5 0] (0 0 1 ~ 0 7 5)	1
	水産学科[5 0] (0 7 6 ~)	2
	国際食料資源学特別コース[7 0]	
共同獣医学部 [3 6]	獣医学科[1 0]	1

〔3〕授業方法に応じた学修時間

授業科目の学修を数量的に表すために「単位」という概念を用いています。単位の計算の方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、共通教育においては次のように定められています。この場合、90分の授業を2時間として計算します。

授業の方法	単位	授業時間数 (週2時間×15週)	予習・復習 (週4時間×15週)	学修時間
講義	2	30時間 (週2時間×15週)	60時間 (週4時間×15週)	90時間
講義（初修外国語：必修）	2	60時間 (週4時間×15週)	30時間 (週2時間×15週)	90時間
講義（英語、初修外国語： 選択必修）	1	30時間 (週2時間×15週)	15時間 (週1時間×15週)	45時間
講義（体育・健康理論等）	1	15時間 (週2時間×7.5週)	30時間 (週4時間×7.5週)	45時間
演習	1	30時間 (週2時間×15週)	15時間 (週1時間×15週)	45時間
演習（高度共通教育科目）	2	30時間 (週2時間×15週)	60時間 (週4時間×15週)	90時間
実習	1	30時間 (週2時間×15週)	15時間 (週1時間×15週)	45時間
実験	1	30時間 (週4時間×7.5週)	15時間 (週2時間×7.5週)	45時間

〔4〕授業中のマナーについて

共通教育センターでは、学生の皆さんがあつめに励むことができるよう、快適な学習環境の維持に努めています。授業中の以下の行為については、真面目に授業を受けている学生や、授業を担当する教員にとって大変迷惑となります。快適な授業環境を保つために授業中のマナーを守るようお願いします。

（1）授業の撮影・録画・録音について

特別な理由がある場合を除き、授業の撮影・録画・録音は原則禁止です。必要な場合は必ず授業担当教員の許可を得てください。

（特別な理由の一例）

障害等を理由に合理的配慮を希望される方は、修学支援室（障害学生支援センター）にて、一括して修学支援を申し出ることが可能です。

（2）スマートフォン（携帯電話）などの使用

授業担当教員の指示により、もしくは授業担当教員の許可を得て授業のために使用する場合を除き、これらの機器を使用することは原則禁止です。

〔5〕共通教育に関する連絡

共通教育の主な連絡事項（行事予定、履修、成績、集中講義、学芸員資格科目、学部からの案内等）は、原則として共通教育掲示板に掲示します。

登校の都度、必ず掲示板を見る習慣を身につけ、掲示の見忘れによる不都合が生じないようしてください。

また、鹿児島大学ホームページや電子メールでも通知・連絡を行いますので、定期的に確認をしてください。

（1）共通教育掲示板

共通教育棟1号館1階南側（p. 79の「鹿児島大学共通教育棟配置図」を参照）

（2）鹿児島大学ホームページ

- ①「在学生」の「インフォメーション」に最新のお知らせを掲載しています。
- ②「在学生」の「共通教育」に開設授業科目、行事予定、授業が行われる教室等の情報を掲載しています。

（3）電子メール

休講や補講などの通知を電子メールで行います。

電子メールを受信するためには、「学務Webシステム」の「学生カード」でメールアドレスなどの連絡先を登録する必要がありますので、必ず「学生カード」の登録を行ってください（「鹿児島大学 学務系 portal サイト」の「学生カードの登録方法」を参照）。

IV 共通教育科目の履修基準

〔1〕卒業要件単位数

鹿児島大学を卒業するには、専門教育科目だけでなく、「鹿児島大学共通教育科目履修規則」第7条の規定（p. 63参照）により、各学部・学科等の共通教育科目の卒業要件単位数を修得しなければなりません（p. 11参照。ただし、外国人留学生はp. 35を参照。）

卒業要件単位数は、各科目あるいは全体として、最低何単位以上を修得しなければならないという履修基準を定めたもので、規則のなかではもっとも重要な事項です。所属する学部・学科等の履修基準を十分に確かめてください。

注意

- (1) 学部・学科等によって、同じ授業科目であっても卒業要件単位数に算入される場合と算入されない場合がありますので注意してください。
- (2) 履修申請に際しては、履修申請単位数の上限設定があるので、次の「〔2〕各期の履修申請単位数の上限設定」をよく読んでください。

よくある質問

卒業要件単位数に算入されない場合とは？

- ①グローバル教育科目の英語で指定（p. 18）された以外の英語科目を履修した場合です。
- ②基礎教育入門科目で指定（p. 29）された以外の基礎教育入門科目を履修した場合です。

〔2〕各期の履修申請単位数の上限設定

授業科目の1単位は、授業時間外の予習、復習に要する時間（III-〔3〕「授業方法に応じた学修時間」p. 6参照）を考慮に入れて定められていることにより、下表のように、学部毎に、各期の履修申請単位数の上限を設定しています。

学 部	履修申請単位数の上限	学 部	履修申請単位数の上限
法 文 学 部	24単位	教 育 学 部	24単位
理 学 部	20単位	医学部医学科 医学部保健学科	30単位 24単位
歯 学 部	30単位	工 学 部	20単位
農 学 部	24単位	水 産 学 部	24単位
共同獣医学部	50単位（年間）		

表中の履修申請単位数とは、各期における共通教育科目及び専門教育科目を含めた総履修申請単位数を意味し、その上限数を表しています。ただし、学部によって、成績優秀者等について、上限を緩和する措置があります。緩和条件は各学部で異なりますので、詳細は、所属学部の履修要項等で確認してください。

注意

- (1) 履修申請単位数の上限枠に含まれない（対象外）科目などは学部により異なりますので、詳細は所属学部の履修要項や学部オリエンテーション等で確認してください。
- (2) 共通教育において夏季休業中等に行われる集中講義は、すべての学部生に対して履修申請単位数の上限枠に含まれません。なお、これらの履修申請は、他の科目とは別の時期に行われます。
- (3) 外国人留学生で、教育学部、理学部、工学部、農学部、水産学部の学生に対しては、日本語科目が履修申請単位数の上限枠に含まれませんので、注意してください。

みなさんは所属学部の上限数を考慮に入れて履修計画を立てる必要があります。履修申請単位数の上限数に対して、共通教育科目及び専門教育科目の履修申請単位数の総合計が上限数を超えないように申請しなければなりません。共通教育科目と専門教育科目のすべての履修申請が終了した段階で、学務Webシステムで閲覧・確認し、もしも履修申請単位数合計が上限数を超過していた場合には、所定の手続きで履修申請科目の一部を取り消してください。万が一、この手続きをしなかった場合には、当期の成績処理が行えなくなるので、必ず取り消しを行ってください。履修手続きの詳細については、「VIII 履修手続」p. 39を参照してください。

履修単位数の上限を設定している理由は、授業時間とともに予習・復習時間も必要としているからです。受講生がそのように有効に時間を使えば、必然的に受講科目数に限界が生じます。したがって、履修申請が確定した科目の単位を確実に修得（試験等に合格）しなければ4（6）年間で卒業要件を満たせず、卒業延期になる場合もあります。このことから、たとえ履修申請した科目が選択科目であっても、受講が確定した科目については、必修科目と同じ意味を持ちますので、必ず合格するように勉学に努めてください。なお、専門教育科目については、成績優秀者に対する履修単位数の上限を緩和する制度が設けられている学部があります。詳しくは、所属学部の履修要項等を参照してください。

【3】グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度

共通教育科目の成績の評価は、GPA制度により行います。従来、大学での学修は単位が修得できたかどうかが重要視されてきましたが、この制度は、履修した科目的理解度の平均値を示すことにより、みなさんが自分の学習成果について自己点検できる利点があります。また、共通教育センターでは、主としてGPAをもとに成績優秀者の表彰と成績不振者に対する助言・指導を行い、勉学意欲の向上や生活環境の改善に目配りをします。

さらに、授業の実施結果を共通教育科目の厳格な成績評価や授業運営の点検にも利用し、授業改善に役立てるとともに、留年対策などにも役立てていきます。

GPA制度に関する詳細は、「X 試験及び単位認定」 p. 45 を参照してください。

【GPAの具体例】

学年：1年前期

○○学部 ○○学科

000000011 共通 太郎

学業成績表の例示

授業科目名	評点	評価	G P	単位
キャリアデザイン	95	A	4	2
体育・健康科学実習	90	A	4	1
英語IA	88	B	3	1
日本国憲法	85	B	3	2
初年次セミナーI	83	B	3	2
大学と地域	82	B	3	2
基礎数学入門	80	B	3	2
生物学入門	78	C	2	2
情報活用	75	C	2	2
初級独語I	74	C	2	2
基礎物理学入門	72	C	2	2
体育・健康科学理論	65	D	1	1
異文化理解入門	60	D	1	2
基礎統計学入門	50	F	0	2

評価のA～Fの総単位数

Aは、3単位

Bは、9単位

Cは、8単位

Dは、3単位

Fは、2単位

1年前期のGPAは、上表のG Pと単位数により、以下のように計算します。

$$\frac{4 \times 3_A + 3 \times 9_B + 2 \times 8_C + 1 \times 3_D + 0 \times 2_F}{3_A + 9_B + 8_C + 3_D + 2_F} = 2.32$$

共通太郎君のGPAは、2.32（小数点以下第3位を四捨五入）になります。もし、A評価のキャリアデザインが評点0～59点でF評価であったら、G Pは4から0に下がるため、再計算するとGPAは2.00に減少します。GPAは4から0までの間で、学習達成度を測る数値となります。GPAを4に近付けるように頑張りましょう。

なお、履修登録した全ての科目が計算の対象になり、履修を放棄するとF評価（G P : 0）になりGPAは下がります。履修を放棄する場合は、取消期間内に必ず履修登録取消の手続きを行ってください。ただし、単位認定科目及び他大学等単位互換科目の成績評価はP（認定）で表し、GPA算出の対象外になります。

令和4年度入学生 共通教育科目卒業要件単位数(一般学生)(規則第7条関係)

科目枠組			必修科目								選択必修科目								合計単位数				
			初年次教育科目					グローバル教育科目			必修科目単位数小計	教養基礎科目				教養活用科目		自由選択科目					
			初年次セミナーⅠ	初年次セミナーⅡ	大学と地域	体育・健康		情報活用	英語	異文化理解		人文・社会科学		自然科学分野		統合Ⅰ(課題発見)	統合Ⅱ(課題解決)						
						理論	実習					初修外国語	選択科目	実験科目	選択科目	入基礎教育科目							
学部学科			法文	法経社会学科		2	2	2	1	1	2	4	2	16	4	2	-	4	-	14 30			
			人文学科			2	2	2	1	1	2	4	2	16	4	2	-	4	-	14 30			
教育	学校教育教員養成課程	初等教育コース	2	2	2	1	1	2	5	2	17	2	4	-	4	-	4	-	14 31				
		中等教育コース(英語以外)	2	2	2	1	1	2	5	2	17	2	4	-	4	-	4	-	14 31				
		中等教育コース(英語)	2	2	2	1	1	2	5	2	17	4	2	-	4	-	4	-	14 31				
		特別支援教育コース	2	2	2	1	1	2	5	2	17	2	4	-	4	-	4	-	14 31				
理	理学科		2	2	2	1	1	2	6	2	18	-	4	(4) (注10)	4	-	4	-	12 30				
医	医学科		2	2	2	1	1	2	4	2	16	-	4	-	2	-	4	-	10 26				
	保健学科(看護)		2	2	2	1	1	2	4	2	16	-	4	-	2	-	4	-	10 26				
	保健学科(理学療法)		2	2	2	1	1	2	4	2	16	-	6	-	2	4 (注1)	4	-	16 32				
	保健学科(作業療法)		2	2	2	1	1	2	4	2	16	-	6	-	4	2 (注2)	4	-	16 32				
歯	歯学科		2	2	2	1	1	2	4	2	16	2 (注3)	2	-	4	-	4	-	12 28				
工	先進工学科		2	2	2	1	1	2	6	2	18	-	4	-	2	2 (注4)	4	-	12 30				
	建築学科		2	2	2	1	1	2	6	2	18	-	4	-	2	2 (注4)	4	-	12 30				
農	農業生産科学科		2	2	2	1	1	2	6	2	18	-	4	(4) (注10)	4	4	4 (注5)	4	2 (注6) 18 36				
	食料生命科学科		2	2	2	1	1	2	6	2	18	-	4	(4) (注10)	4	4	4 (注5)	4	2 (注6) 18 36				
	農林環境科学科		2	2	2	1	1	2	6	2	18	-	4	(4) (注10)	4	4	4 (注5)	4	2 (注6) 18 36				
	国際食料資源学特別コース	農学系サブ	2	2	2	1	1	2	5	2	17	-	4	-	2	6 (注7)	4	-	16 33				
水産		水産系サブ	2	2	2	1	1	2	5	2	17	-	4	-	2	6 (注7)	4	-	16 33				
水産学科		2	2	2	1	1	2	5	2	17	-	4	(4) (注10)	-	10 (注8)	4	-	18 35					
共同獣医	獣医学科		2	2	2	1	1	2	8	2	20	-	2 (注9)	-	2	-	4	-	8 28				

(注1) 基礎統計学入門(2単位)必修、基礎物理学入門(2単位)、基礎生物学入門(2単位)から1科目選択。ただし、物理学及び生物学に関しては受験時に選択しなかった科目を受講することが望ましい。

(注2) 基礎統計学入門、基礎数学入門、基礎物理学入門、基礎化学入門A、基礎化学入門B、基礎生物学入門の6科目から1科目選択

(注3) 初修外国語は独語又は仏語を修得する。

(注4) 基礎統計学入門(2単位)必修

(注5) 基礎統計学入門、基礎数学入門、基礎物理学入門、基礎化学入門A、基礎化学入門B、基礎生物学入門の6科目から2科目選択

(注6) 農学部における教養教育科目(自由選択科目)の単位は、教養教育科目(教養基礎科目)(ただし、初修外国語及び実験科目を除く。)及び教養教育科目(教養活用科目)の所定の単位を超えて修得した単位が該当する。

(注7) 基礎生物学入門、基礎化学入門A、基礎統計学入門を必修

(注8) 基礎生物学入門、基礎化学入門A、基礎物理学入門、基礎数学入門、基礎統計学入門を必修

(注9) 共同獣医学部は導入系科目として、生命倫理学、コミュニケーション論を必修

(注10) 実験科目(4単位)については、共通教育科目の卒業要件単位数に含まれないが、中学校教諭一種免許状(理科)、高等学校教諭一種免許状(理科)の免許状取得に必要な科目として、基礎物理学実験(1単位)、基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)及び基礎地学実験(1単位)を理学部、農学部及び水産学部の学生を対象に開講する。(p.26参照)

V 共通教育の教育科目と単位の取り方

本学の共通教育は、「必修科目」及び「選択必修科目」を大分類とし、「初年次教育科目」、「グローバル教育科目」、「日本語・日本事情科目」、「教養教育科目（教養基礎科目）」、「教養教育科目（教養活用科目）」及び「教養教育科目（自由選択科目）」の6つの中分類と18の小分類（以下の表を参照）に分類されています。

共通教育の分類表

大分類	中 分 類	小 分 類
必修科目	初年次教育科目	初年次セミナーⅠ
		初年次セミナーⅡ 【注意1】
		大学と地域
		体育・健康（理論）
		体育・健康（実習）
		情報活用
	グローバル教育科目	英語
		異文化理解
	日本語・日本事情科目	日本語 【注意2】
		日本事情 【注意2】
選択必修科目	教養教育科目 (教養基礎科目)	人文・社会科学分野（初修外国語）
		人文・社会科学分野（選択科目）
		自然科学分野（実験科目）
		自然科学分野（選択科目）
		自然科学分野（基礎教育入門科目）
	教養教育科目 (教養活用科目)	統合Ⅰ（課題発見）
		統合Ⅱ（課題解決）
	教養教育科目 (自由選択科目)	教養基礎科目及び教養活用科目に対応する小分類 【注意3】
卒業要件外科目	学芸員資格科目	学芸員資格

【注意1】原則として一般学生を対象とする。

【注意2】原則として外国人留学生を対象とする。

【注意3】農学部の学生（外国人留学生を含む）を対象とする。

○初年次教育科目 【必修科目】

〔1〕初年次セミナーI

1 内容

初年次セミナーIは、大学生としての基本的姿勢と市民性の理解を目指した「スチューデント・スキル」を題材としながら、基礎的なプレゼンテーション力を身につけることを目的とする科目です。スチューデント・スキルでは、大学生としてのキャリアデザインのほか、科学や研究に関する倫理、労働・消費者問題や人権といった現代社会が抱える諸課題について扱います。約30人程度の学部混成型クラス編成で、多様な興味・関心を持つ他者とのグループ活動を基盤とするアクティブ・ラーニング型授業です。

大学での学習は、様々な問題の中から自ら課題を発見し、適切な情報を収集・精査して活用し、合理的な解決策を導き出していくことが求められます。この科目は、そのための基礎の基礎を育成する科目といえます。

まずは、大学での学びをより意義のあるものにするための力を養いましょう。

2 単位の取り方

全学共通の必修科目です。受講するクラスが指定されますので、掲示板等で事前に確認してください。

〔2〕初年次セミナーII

1 内容

初年次セミナーIIは、論理的思考の基本を理解したうえで、学術文章の読み方と書き方のスキルを身につけることを目指す科目です。論理的思考は、大学生活だけでなく、社会生活においても必要になります。そして、学術文章のスキルも、大学でレポートや論文を読み書きする際に必要なのはもちろんのこと、社会に出てからも様々な場面で活きる技術です。この授業では、実際に「論証型レポート」を執筆し、客観的事実や信頼性のある情報に基づいて自分の考えを述べるスキルを身につけます。

レポート作成の過程では、ピア活動を取り入れています。ピア(peer)とは同輩、仲間を意味する言葉で、ピア活動とは仲間同士で話し合いながら協働で学んでいくことを意味します。レポート作成において、文章を実際に書くのは個人です。しかし、実際に書き始める際には、自分の考えを整理したり、どのように表現したら良いかを考えたりすることが必要です。こうした過程を、ピア活動を通じて行うことにより、自分とは異なる視点から意見をもらうことで多面的な考え方を身につけていくことができます。

2 単位の取り方

全学共通の必修科目です。受講するクラスが指定されますので、掲示板等で事前に確認してください。

〔3〕大学と地域

1 内容

鹿児島大学は「地域と共に歩む大学」として、地域に貢献する思いや能力を育む教育を取り組んでいます。学部横断的教育プログラムの枠組みである「地域人材育成プラットフォーム」(※)はこうした教育を体系化したものです。「大学と地域」は、この「地域人材育成プラットフォーム」の核となる授業であると同時に、鹿児島大学の全ての学生が学ぶべき必修科目となっています。

「大学と地域」では、鹿児島の様々なテーマを取り扱います。よって、鹿児島についてより詳しく「知る」ことができます。しかしながら、「大学と地域」は単に鹿児島を「知る」ことを目的とし、全学必修科目となっているわけではありません。鹿児島に関連するリアリティある事項を広く題材として取り扱うを通じ、大学で学ぶための基礎的な能力の獲得を目指します。具体的には、注目すべき地域の課題を発掘し、その解決案を提示しつつ、それについて他者と意見交換しながら、自ら論理的に思考する能力、多くの情報から重要なものを見極める能力、課題を発見し合理的な解決策の提案をする能力などを身につけます。

鹿児島大学は鹿児島に立地し、鹿児島に関連する資源や情報を最も身近に取り扱うことができる大学の1つです。興味深い歴史を有する地域であり、また南北600kmにも及ぶ県土を有している他、固有の自然環境や気象、動植物、食、生活習慣、文化等が特徴として挙げられます。鹿児島が誇る幅広い、また奥深い様々な題材を活用することは、鹿児島大学での学びをより豊かなものにしてくれるでしょう。

※地域人材育成プラットフォームの詳細は、別冊のパンフレットを参照してください。

2 単位の取り方

全学共通の必修科目です。受講するクラスが指定されますので、掲示板等で事前に確認してください。

〔4〕体育・健康

学生時代はもとより生涯にわたって充実した生活を行っていくためには、心身の健全な育成と健康が基礎となります。そのためには何に注意を払い、どのような営みを継続していくのがよいかについて次のような授業科目を設け、講義および実習を通じて学習します。この講義と実習は互いに関連が図られています。

<1>理論

1 内容

心身の基本的な機能やその適応能力について理解し、心身の育成や健康づくりのために重要な運動の行い方をはじめ、栄養や休養の取り方などのライフスタイルのあり方について講義します。

2 単位の取り方

全学共通の必修科目です。なお、各学部の学科・課程等の単位でクラスが編成され、受講するクラスが指定されますので、掲示板等で事前に確認してください。

卒業要件単位数 1 単位	体育・健康科学理論	全学部
-----------------	-----------	-----

<2>実習

1 内容

実習では、心身の育成や健康づくりに効果的な運動の行い方、それらの生活への取り入れ方などに関する実習します。

また、各自が年齢や身体の特徴に応じて運動を日常生活に取り入れ、生涯に渡って心身の育成や健康づくりの運動を実践できる能力を養うことを目的に、日常生活における身体活動の活用法や、新しく考案されたスポーツ（ニュースポーツ）を含めた多様なスポーツ種目について実習します。

2 単位の取り方

全学共通の必修科目です。なお、各学部の学科・課程等の単位でクラスが編成され、受講するクラスが指定されますので、掲示板等で事前に確認してください。

卒業要件単位数 1 単位	体育・健康科学実習	全学部
-----------------	-----------	-----

〔5〕情報活用

1 内容

「情報活用」は、情報化社会およびグローバル化が進展する中で、重要性を増しているコンピュータやインターネットについての基礎的知識や技能、数理・データサイエンスについての初步的知識を身に付け、本学の情報ネットワークやコンピュータの教育環境を有効に活用する能力を修得することを目指す科目です。

各学生の所属学部・学科等の教員が主に担当し、パソコンの機能を充分に活用するための基本的な知識・技術、プレゼンテーション技能、インターネットの適切な利用方法、情報セキュリティ及び数理データサイエンスに関する初步的な技術などについて学修します。専用のパソコン教室（主に共通教育棟1号館2、3階の情報教育教室）において、パソコンを一人一台ずつ利用し、講義と演習（パソコンの操作）を組合せた授業形態となります。学修効果の向上のために、必要に応じて大学院生のティーチング・アシスタント（TA）が講義時間中に在室し、受講学生の学修を支援します。また、入学生全員に配付される鹿児島大学IDにより、本学在籍期間中、パソコン教室のパソコンが自由に利用できます。利用の方法や利用上の注意などは、「XI 学生生活、[2] 諸願・届及び注意事項、5 共通教育棟の施設の利用（パソコンの利用など）」（p. 57 参照）を参照してください。新型コロナウイルス感染症の流行の状況によっては、授業形態がパソコン教室利用から配信授業になる可能性もあります。

2 単位の取り方

「情報活用」は1期（1年前期）に開講される必修科目です。卒業するためには必ず修得しなければならない重要な科目であり、単位数は2単位です。各学部の学科・専修等の単位でクラスが編成され、1期の授業時間割に記載されていますので、時間割に記載されている曜日・時限の「情報活用」を履修してください。なお、教員免許状取得希望者は、「情報機器の操作（2単位）」を必ず修得しなければなりませんが、「情報活用」がこの科目に該当します。

○グローバル教育科目 【必修科目】

〔1〕英語

1 内容

多様な世界観の共存を認め合う社会が求められている現在、諸文化の人的交流や情報交換がますます必要になっています。そのようなグローバル化が進む社会の中で、外国語教育の学習目標は、諸言語によって表現された内容を、正確に理解し、その言語による表現能力を高め、諸文化と価値体系の多様性に対する理解を深め、自己の文化的基盤を自覚し、国際理解と国際交流の能力を養うことにあります。このような目標を見据えながら、共通教育における英語教育の基本的な目標は、各自の専門的学修のための基礎力を養成することとします。

この目標を達成するために、共通教育における英語科目として、1年次から2年次にかけて（1期から4期）、英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡB、英語Ⅲ、英語Ⅳの6科目を開講します（各1単位。学部・学科により卒業要件単位数が異なります）。

全学部・学科必修の1年次の1期と2期に開講される英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡBについて、その内容を簡単に記します。英語ⅠAと英語ⅡAは、いわゆる教養を念頭におきながら、主に読むこと、聞くことに焦点を当てた理解面の英語力を修得します。英語ⅠBは、一般的な学術に係る内容を吟味しながら、主に書くこと、英語ⅡBは、一般的な学術に係る内容を吟味しながら、主に話すことに焦点を当てた伝達面の英語力を修得します。1期では、英語ⅠAと英語ⅠBを組み合わせて開講し、英語の理解面と伝達面を活かしながら学びます。2期では、1期同様に、英語ⅡAと英語ⅡBを組み合わせて開講し、1期を土台として英語の運用力をさらに高めていきます。

このように英語ⅠA、英語ⅠB、並びに英語ⅡAと英語ⅡBで大学生としての英語コミュニケーション力の基礎を身に付けながら、その学習過程で、大学生としての自覚を育み、教養を深めながら、客観的な分析態度に基づく批判的思考力などを養います。

それらを学部・学科選択の英語Ⅲで応用し、学部・学科選択の英語Ⅳで発展させ、その後の学部・学科選択の専門英語などにおいて学術英語を中心に学部・学科での専門的学修への橋渡しとします。

2 単位の取り方

全学部・学科必修の英語科目として、1期に英語ⅠA、英語ⅠB、2期に英語ⅡA、英語ⅡBを開講します。3期に英語Ⅲ、4期に英語Ⅳをそれぞれ開講します。各期の各科目、週一回の授業をもって1単位となります。3期以降は、学部・学科により卒業要件単位数が異なります。次の表を見てください。

グローバル教育科目(英語)

履修学年	1年次		2年次		共通教育卒業要件単位数	
履修期	1期	2期	3期	4期		
科目名	英語ⅠA	英語ⅡA	英語Ⅲ	英語Ⅳ		
	英語ⅠB	英語ⅡB				
学部(学科)	単位数	単位数	単位数	単位数		
法文	2	2			4	
教育	2	2	1		5	
理	2	2	1	1	6	
医(医)	2	2			4	
医(保健)	2	2			4	
歯	2	2			4	
工(先進工学)	2	2	1	1	6	
工(建築)	2	2	1	1	6	
農(農業生産)	2	2	1	1	6	
農(食料生命)	2	2	1	1	6	
農(農林環境)	2	2	1	1	6	
農・水(国際食料資源)	2	2	1		5	
水産(水産)	2	2	1		5	

※共同獣医学部は別に定める。

習熟度別のクラス

英語の授業は、1期から4期に開講される科目（英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡB、英語Ⅲ、英語Ⅳ）が習熟度別クラス編成になります。どのクラスで授業を受けるかは、1期から4期それぞれの開始前に発表されます。

英語の再履修

やむを得ず英語を再履修しなければならなくなった場合は、不合格となった科目を、翌年度（以降）に、原則として同じ学部・学科の正規クラスで履修し直します。英語科目の再履修は、Web登録できませんので、履修申請期間内に、共通教育係窓口において履修登録手続きをしてください。

英語の外部試験

英語の授業では、全学1年次に2回（1期と2期）、英語の外部試験を実施します。授業や課外の予習、復習等を中心とする自学自習を行い、日頃から実力養成を図り、その取り組み結果を評価する目安のひとつとします。この試験結果は、学期ごとの成績評価の10%に反映させます。残りの90%は、試験等での評価となります。また、スコアレポート（個人成績表）によって、自己の英語力の状況が具体的に把握出来るので、以後の英語学習の貴重な指針としてください。

英語の技能審査（外国語技能検定試験）合格者等の単位認定

「鹿児島大学共通教育科目履修規則」第12条の規定により、実用英語技能検定に合格した者、及びTOEIC、TOEFL、IELTS、ケンブリッジ英語検定において一定の成績を修めた者は、所定の手続きに従って申請すると、本学における授業を履修したものとして単位の認定を受けることができます。認定を受けようとする者は、「外国語技能審査合格者等の単位認定申請書」に必要事項を記入し、必ず学生証と検定試験の合格証書又は成績認定証を持参して共通教育係窓口に申請してください。なお、単位認定申請期間は、前期は4月の指定期間、後期は10月の指定期間とします。手続きの詳細及び単位認定の確認等に関しては、共通教育係の指示に従ってください。（p. 74 参照）

〔2〕異文化理解

1 内容

現代はグローバル社会です。人・もの・情報などが国境を越えて行きかうグローバル社会に生きるということは、多文化が共存する社会に生きるということでもあります。文化的背景が異なる人々と共に生活していくには、私たちになじみのない異質なものを排除したり、自分たちの考え方や価値観を押し付けたりするのではなく、他者を認め、理解し、受け入れようとする寛容な精神と態度がとても重要になります。

世界には多種多様な文化が存在することを認識し、複眼的にものを見る力や判断する能力を獲得して、自文化を相対化しながら他者の文化を受容する姿勢を、これからは身に付けていかなくてはなりません。このような目標を達成するための第一歩となるのが「異文化理解入門」です。この授業では、テーマを「ドイツ語文化圏」「フランス語文化圏」「中国語文化圏」「韓国・朝鮮語文化圏」「イスラーム文化圏」の5つの文化圏に分け、それぞれの文化圏における言語的側面（あいさつや簡単な日常表現、言語の特徴など）や文化・社会的側面（人々の生活習慣や考え方・価値観、現代事情など）について、日本の言語文化や日本事情との比較を織り交ぜながら、各3回ずつのリレー形式で講義を行います。

2 単位の取り方

全学部2単位必修の授業で、週1回開講されます。工学部を除くすべての学部では1期に、工学部では3期に授業が開講されます（学部ごとに曜日・時限が指定されています）。単位を修得できなかった場合は、次年度に、自分が所属する学部・学科等のクラスで再履修しなければなりません。

○教養教育科目（教養基礎科目）【選択必修科目】

〔1〕人文・社会科学分野

<1>初修外国語

1 内容

多様な世界観の共存を認め合う国際環境が求められている現在、諸文化間の人的交流や情報交換がありますます必要になっています。外国語教育の目標は、諸言語によって表現された内容を正確に理解し、その言語による表現能力を高め、諸文化と価値体系の多様性に対する理解を深め、自己の文化的基盤を自覚し、国際理解と国際交流の能力を養うことにあります。このような目標を達成するため、1年次に初修外国語の基本的な文法や運用能力を修得する初級の授業が、2年次に初級で修得した能力を応用・発展させる中級の授業がそれぞれ開講されます。下記に初級と中級の単位の取り方について説明します。

2 単位の取り方

初級の授業

必修の初修外国語科目として、1期に「初級独語I」「初級仏語I」「初級中国語I」「初級韓国語I」(以下、「初級I」)、2期に「初級独語II」「初級仏語II」「初級中国語II」「初級韓国語II」(以下、「初級II」)が開講されます。いずれの初修外国語も「初級I」と「初級II」は週2回の授業をもって2単位となります。ただし、歯学部で仏語を選択する学生に対しては、1期と2期に週1回「初級仏語I」を開講し、通年で2単位となります。1期1単位・2期1単位のような単位の分割は行いませんので、注意してください。

学部・学科により卒業要件単位数が異なります。下の表をみてください。

履修学年	1年次		必修 単位	受講可能な言語
	1期	2期		
学部等	科目名(単位数)			
法文学部	初級I(2)	初級II(2)	4	独・仏・中・韓
教育学部(中等教育コース英語科)	初級I(2)	初級II(2)	4	独・仏・中・韓
教育学部(上記を除くすべて)	初級I(2)	初級II(2)	2	独・仏・中・韓
歯学部(独語選択者)	初級I(2)		2	独・仏
歯学部(仏語選択者)	初級I(2)		2	

法文学部・教育学部(中等教育コース英語科)は「初級I」2単位と「初級II」2単位の計4単位が卒業・進級に必要な単位数です。この場合「初級I」と「初級II」は言語を変えて履修することはできず、同一言語を履修して単位を取得しなければなりません。

教育学部(中等教育コース英語科)を除くすべての学生・歯学部は「初級I」2単位が卒業・進級に必要な単位数です。

歯学部で選択できる初修外国語は、独語又は仏語のみです。歯学部以外は独語・仏語・中国語・韓国語から1言語を選択できます。なお、言語種によっては受講希望者が多数の場合、抽選により受講者数を制限することがあります。

2単位必修の学部・学科にあっては、2期の「初級II」で修得した2単位を、人文・社会科学分野の「選択科目」の単位に含めることができます（上表の②で表示）。また、「初級II」の2単位を必修である「初級I」の単位に読み替えることもできます。なお、歯学部には「初級独語II」「初級仏語II」は開講されません。

中級の授業

中級の授業科目として、3期に「中級独語A」「中級仏語A」「中級中国語A」「中級韓国語A」（以下、「中級A」）が、4期に「中級独語B」「中級仏語B」「中級中国語B」「中級韓国語B」（以下、「中級B」）が開講されます。「中級A」と「中級B」には難易度の差はありません。「中級A」も「中級B」も週1回の授業で1単位となり、この単位は人文・社会科学分野の「選択科目」の単位に含まれます。なお、中級の授業を受講できるのは、「初級I」と「初級II」の計4単位を修得した者又は同等の能力を持つ者に限られます。

技能審査（外国語技能検定試験）合格者等の単位認定

「鹿児島大学共通教育履修規則」第12条の規定により、ドイツ語技能検定試験、ゲーテ・インスティトゥート検定試験、オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験、テスト・ダフ(TestDaf)、実用フランス語技能検定試験、フランス国民教育省・フランス語学力テスト(TCF)、フランス国民教育省・フランス語資格試験(DELF/DALF)、中国語検定試験、漢語水平考試(HSK)、ハングル能力検定試験、韓国語能力試験に合格した者は、所定の手続きに従って申請すると、本学における授業を履修したものとして単位の認定を受けることができます。認定を受けようとする場合は、「外国語技能審査合格者等の単位認定申請書」に必要事項を記入し、必ず学生証と検定試験の合格証書又は成績認定証を持参して共通教育係窓口に申請してください。なお、単位認定申請期間は、前期は4月の指定期間、後期は10月の指定期間とします。手続きの詳細及び単位認定の確認等に関しては、共通教育係の指示に従ってください。（p.74参照）

<2>選択科目

1 内容

教養教育科目において教養基礎科目は幅広い教養と高度な専門知識、及びこれらに基づいた論理的思考力を育む科目となります。

その中で人文科学は哲学・文学・史学・語学など広く人類の創造した文化を対象として研究する学問で、社会科学は人間の社会的行為と関連付けながら、社会生活・社会組織・社会問題などのしくみを明らかにしようとする学問です。これらの科目は人文・社会科学の各学問分野に属する科目として、人文・社会科学に関連する専門教育にも深く関わってくる科目です。

2 単位の取り方

卒業に必要な単位数については共通教育科目卒業要件単位数（p. 11 参照。ただし、外国人留学生は p. 35 を参照。）に示されていますので必要な単位数を確認後、下表に掲載されている科目を選択して履修してください。

また、選択科目における全学部対象の初修外国語科目として、1期及び2期に「独語入門Ⅰ」、「中国語入門Ⅰ」、「韓国語入門Ⅰ」が、2期及び3期に「独語入門Ⅱ」、「中国語入門Ⅱ」、「韓国語入門Ⅱ」が開講されます。また、「仏語入門Ⅰ」は2期、「仏語入門Ⅱ」は3期に開講されます。これらは週1回の授業をもって1単位です。初修外国語が必修の学生は、必修と同じ言語の入門科目を履修することはできませんので注意してください。

なお、言語種によっては受講希望者が多数の場合、抽選により受講者数を制限することがあります。

・開設授業科目一覧（令和4年度）

<前期>

科 目 名	単位	備 考
アメーバ経営	2	
医学・行動心理学入門	2	
稻盛和夫の経営哲学（Ⅰ）	2	
稻盛和夫のベンチャー企業論	2	
鹿児島探訪－歴史－	2	地域志向科目※1
韓国語入門Ⅰ	1	
韓国語入門Ⅱ	1	
教育社会学入門	2	
現代の日本政治	2	
行動科学	2	
古代東アジアの王陵	2	
自然学校へ行こう	2	地域志向科目※1
自然学校へ行こう 実践編Ⅰ	2	地域志向科目※1
実験医学・行動心理学	2	

科 目 名	単位	備 考
障害児教育入門	2	
貞觀政要を読む—帝王学入門—	2	
スポーツ心理学	2	
世界の中のイスラーム	2	
中国語入門 I	1	
中国語入門 II	1	
東南アジア研究入門	2	
独語入門 I	1	
独語入門 II	1	
仏語入門 II	1	
方言コンテンツを作ろう	2	地域志向科目※ 1
日本国憲法	2	
人間と環境の心理学	2	
How Language and Music Influences Society	2	
美術への誘い	2	
簿記入門	2	

<後期>

科 目 名	単位	備 考
アメーバ経営	2	
稻盛和夫の経営哲学（II）	2	
大人になるための政治学	2	
鹿児島探訪－歴史－	2	地域志向科目※ 1
韓国語入門 I	1	
韓国語入門 II	1	
「起業」—ビジネスの発見と創出	2	地域志向科目※ 1
グローバル人材育成（雲南）	2	海外研修科目※ 2
現代社会を考える	2	
行動科学	2	
コーポレート・ファイナンス	2	
自然学校へ行こう 実践編II	2	地域志向科目※ 1
社会学の世界	2	
障害児教育入門	2	
初級フィリピン語講座	2	
税と法律	2	
戦後日本外交史	2	
地域ブランドを学ぶ	2	地域志向科目※ 1

科 目 名	単位	備 考
中国語入門 I	1	
中国語入門 II	1	
独語入門 II	1	
仏語入門 I	1	
日本国憲法	2	
文化人類学の世界	2	
方言学入門	2	地域志向科目※ 1
陽明学入門	2	
知的財産制度の基礎	2	

※ 1 地域志向科目については、 p. 3 をご参照ください。

※ 2 海外研修科目は渡航先の状況によっては開講しない場合があります。

〔2〕自然科学分野

<1>教育職員免許状取得に係る実験科目

1 内容

共通教育科目的卒業要件単位数に含まれませんが、中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科）の免許状授与の資格を取得するために必要な科目として、教育職員免許法施行規則に定める「教科に関する専門的事項」の実験科目（物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験）の単位を修得しなければなりません。理科の教育職員免許状取得希望者は、共通教育センターで開講される以下の実験科目を履修してください。

2 単位の取り方

学部	免許状の学校種	授業科目	単位	履修方法	免許状取得に必要な単位数
理学部 ^{※1} 農学部 ^{※2} 水産学部 ^{※2}	中学校教諭一種 免許状（理科）	基礎物理学実験	1	必修	4
		基礎化学実験	1		
		基礎生命科学実験	1		
		基礎地学実験	1		
	高等学校教諭一種 免許状（理科）	基礎物理学実験	1	1科目以上 選択	1以上
		基礎化学実験	1		
		基礎生命科学実験	1		
		基礎地学実験	1		

※1 理学部生は、所属するプログラムで開講する実験科目を優先して履修すること。

詳細については専門科目の履修の手引きを必ず確認すること。

※2 国際食料資源学特別コースは除く。

3 履修学年

授業科目	履修学年
基礎物理学実験	2年次
基礎化学実験	2年次
基礎生命科学実験	2年次
基礎地学実験	2年次

指定された学年で履修できない場合は、4年次までに履修することができます。

開講時期については、入学時に掲示等にてお知らせします。

<2>選択科目

1 内容

自然科学の選択科目は、数学、物理学、化学、生物学等の学問分野科目となります。これらの科目は、自然科学に関連する専門教育にも深く関わってくる科目です。

2 単位の取り方

卒業に必要な単位数については共通教育科目卒業要件単位数（p. 11 参照。ただし、外国人留学生は p. 35 を参照。）に示されていますので必要な単位数を確認後、下表に掲載されている科目を選択して履修してください。

・開設授業科目一覧（令和4年度）

<前期>

科 目 名	単位	備 考
遺伝のしくみ	2	
宇宙のすがた	2	
鹿児島の自然史	2	
教養線形代数学	2	
教養の物理学入門	2	
暮らしの中のバイオ	2	
焼酎	2	地域志向科目※
初心者のためのサバイバル生物学	2	
生物学入門	2	
動物の病気	2	
脳と心の生物学	2	
乗り物の物理学	2	
ヒトの産み育てを考える	2	
エッセイから物理学（科学）的な思考を学ぶ	2	
理系ジャーナリズム	2	

<後期>

科 目 名	単位	備 考
遊び心と科学	2	
化学と環境	2	
家畜の歴史	2	
焼酎	2	地域志向科目※
情報セキュリティ入門	2	
食品・化粧品・医薬品の有機化学	2	
生化学実験 I	2	
生命科学情報活用 1	2	

科 目 名	単位	備 考
世界を変えた有機分子	2	
くらしの化学	2	
電気電子工学入門	2	
動物の感覚・脳・行動	2	
保健学入門	2	
古典物理学の限界と量子論	2	
データサイエンスのための教養統計学	2	

※地域志向科目については、p. 3をご参照ください。

<3>基礎教育入門科目

1 内容

基礎教育入門科目は高校において自然科学の諸分野（数学・物理学・化学・生物学等）を履修していない、あるいは、十分な学習をしていない学生を対象に、大学の理系学部における専門教育を学んでいくうえで必要な知識や理解を修得することを目的とした科目となります。

2 単位の取り方

基礎教育入門科目は理系学部の卒業に必要な科目として開講されます。卒業に必要な単位数については共通教育科目卒業要件単位数（p. 11 参照。ただし、外国人留学生は p. 35 を参照。）に示されていますので必要な単位数を確認後、下表に掲載されている学部(学科等)指定の科目を選択して履修してください。また、卒業要件となっていない学部学科等（理学部を除く。）の学生は受講できませんので、注意してください。

・開設授業科目一覧（令和4年度）

学部	学科等	授業科目	開講期	単位	履修方法	卒業に必要な単位数
理学部	理学科	基礎統計学入門	後期	2	(注1)	—
医学部	保健学科 (理学療法学専攻)	基礎統計学入門	後期	2	必修	2
		基礎物理学入門	後期	2	1科目選択 (注2)	2
		基礎生物学入門	前期	2		
工学部	先進工学科 建築学科	基礎数学入門	前期	2	1科目選択	2
		基礎化学入門A	前期	2		
		基礎化学入門B	前期	2		
		基礎生物学入門	前期	2		
		基礎物理学入門	後期	2		
		基礎統計学入門	後期	2		
農学部	農業生産科学科 食料生命科学科 農林環境科学科	基礎数学入門	前期	2	2科目選択	4
		基礎化学入門A	前期	2		
		基礎化学入門B	前期	2		
		基礎生物学入門	前期	2		
		基礎物理学入門	後期	2		
		基礎統計学入門	後期	2		
水産学部	国際食料 資源学特 別コース	基礎統計学入門	前期	2	3科目必修	6
		基礎化学入門A	後期	2		
		基礎生物学入門	後期	2		
	水産系サブ	基礎数学入門	前期	2	5科目必修	10
		基礎統計学入門	前期	2		
		基礎物理学入門	前期	2		
		基礎化学入門A	後期	2		
		基礎生物学入門	後期	2		

(注1) 理学部生は、受講はできるが、卒業要件単位数には含まれないので注意すること。

(注2) 受験時に選択しなかった科目を選択することが望ましい。

○教養教育科目（教養活用科目）【選択必修科目】

〔1〕統合Ⅰ（課題発見）

1 内容

教養教育科目の教養活用科目は、自ら課題を発見・探究・解決する能力を育成する実践的な科目となります。その中で教養基礎科目にて学んだ人文・社会科学および自然科学で得た知識をもとに地域社会や環境問題等、現代社会が抱える諸問題について理解を深めて課題発見を目指す科目が統合Ⅰ（課題発見）となります。

2 単位の取り方

各学部とも統合Ⅰと統合Ⅱを合わせて4単位を取得することが必要になっていますので、統合Ⅰの科目のみで4単位を修得しても問題はありません。しかし、位置付けとしては統合Ⅰで発見した課題を統合Ⅱで解決することを目指していますので、統合Ⅰ・統合Ⅱの科目を2単位ずつ修得することが望ましい単位の取り方になります。

・開設授業科目一覧（令和4年度）

＜前期＞

科 目 名	単位	備 考
稻盛哲学：稻盛研究の最高峰が伝授	2	
いのちと地域を守る防災学Ⅰ	2	地域志向科目※1
Intercultural Understanding and Acceptance	2	
かごしま教養プログラム	2	地域志向科目※1
キャリアデザイン	2	
九州学	2	
自然体験活動入門講座	2	
進取の精神を学ぶ	2	
大学で学ぶ	2	

＜後期＞

科 目 名	単位	備 考
キャリアデザイン	2	
グローバル社会を生きる	2	
Intercultural Communication for Global Citizens	2	海外研修科目※2 地域志向科目※1
手話入門	2	
人生における出会いの意義と役割	2	
地域リサーチ・スタートアップ	2	
防災フィールドワーク	2	
身近な話題の生物学	2	
身の周りの男女共同参画	2	
倫理学入門	2	

科 目 名	単位	備 考
地域防災学実践	2	地域志向科目※ 1
九州学	2	
Capturing Kagoshima Regional Issues from SDGs	1	海外研修科目※ 2 地域志向科目※ 1

※ 1 地域志向科目については、p. 3をご参照ください。

※ 2 海外研修科目は渡航先の状況によっては開講しない場合があります。

〔2〕統合Ⅱ（課題解決）

1 内容

統合Ⅰにて学習した現代社会が抱える諸問題についての内容を踏まえて、実際に課題解決を試みる科目が統合Ⅱ（課題解決）となります。

2 単位の取り方

各学部とも統合Ⅰと統合Ⅱを合わせて4単位を取得することが必要になっていますので、統合Ⅱの科目のみで4単位を修得しても問題はありません。（p. 30の単位の取り方を参照）

・開設授業科目一覧（令和4年度）

<前期>

科 目 名	単位	備 考
奄美の民俗文化	2	地域志向科目※ 1
稻盛和夫のリーダー論	2	
海外研修基礎コース in カリフォルニア	2	海外研修科目※ 2 地域志向科目※ 1
鹿児島探訪－文化－	2	地域志向科目※ 1
かごしまフィールドスクール	2	地域志向科目※ 1
環境と進化の科学	2	
がんはなぜおこるのか	2	
口と顔の科学	2	
グローバル人材育成（米国ノースダコタ）	2	海外研修科目※ 2
最先端医療を創出するバイオ研究	2	
自然学校インターンシップ I	2	地域志向科目※ 1
島のしくみ	2	地域志向科目※ 1
社会システム・政策研究（タイ研修）	2	海外研修科目※ 2
進取の精神海外研修 in ベトナム	2	海外研修科目※ 2
地域環境論	2	
農家民泊体験講座	2	地域志向科目※ 1
派遣留学 I	1	
派遣留学 II	1	
ヒトの身体の仕組みと働き	2	

科 目 名	単位	備 考
ヒトの病気の成り立ちと予防 I	2	
南太平洋多島域	2	
屋久島の環境文化 II－生き物－	2	地域志向科目※ 1
屋久島の環境文化 III－産業－	2	地域志向科目※ 1
有機農業 I 新しい食と農のかたち	2	地域志向科目※ 1
留学生のための異文化理解	2	

＜後期＞

科 目 名	単位	備 考
奄美の民俗文化	2	地域志向科目※ 1
医学・脳科学入門	2	
いのちと地域を守る防災学 II	2	地域志向科目※ 1
宇宙・地球における計測・計量	2	
口と顔の科学	2	
国際感覚を持つバイテク人材育成	2	海外研修科目※ 2
自己理解・他者理解と障害理解	2	
自然学校インターンシップ II	2	地域志向科目※ 1
自然環境保全と世界遺産	2	地域志向科目※ 1
実験医学・脳科学	2	
派遣留学 I	1	
派遣留学 II	1	
ピアカウンセリング入門	2	
ヒトの病気の成り立ちと予防 II	2	
森・ひと・体験	2	
屋久島の環境文化 I－植生－	2	地域志向科目※ 1
屋久島の環境文化 IV－生活と文化－	2	地域志向科目※ 1
価値創造の場	2	
留学生のための異文化理解	2	
海外異文化体験実習（台湾研修）	2	海外研修科目※ 2 地域志向科目※ 1
鹿児島から見た台湾の歴史と地域を学ぶ	2	海外研修科目※ 2 地域志向科目※ 1

※ 1 地域志向科目については、p. 3をご参照ください。

※ 2 海外研修科目は渡航先の状況によっては開講しない場合があります。

VI 外国人留学生のための科目の概要と単位の取り方

〔1〕日本語・日本事情科目

1 学習目標

日本語・日本事情科目は、外国人留学生を対象として、日本文化と日本社会に対する理解を深め、大学において学業を遂行するに十分な日本語能力をつけることを目標にして開講しています。

2 内容

日本語

大学生活に必要な日本語の4技能「話す・聞く・読む・書く」の運用能力を養う目的で日本語I、日本語II、日本語III、日本語IVの4科目を開講しています。

各科目、授業時間30時間と予習・復習15時間で1単位です。

日本事情

外国人留学生にとっての異文化としての日本文化を中心に、日本の社会構造、日本社会で生活していく上での必要な知識、慣習などを含め、多面的に学習します。日本事情A、日本事情Bの2科目を開講しています。

各科目、授業時間30時間と予習・復習60時間で2単位です。

3 単位の取り方

外国人留学生は日本語I、II、III、IVの4科目4単位と日本事情A、Bの2科目4単位を必ず修得しなければなりません。日本事情として修得した単位は教養基礎科目「人文・社会科学分野」、又は教養活用科目「統合I・統合II」の単位に読み替えることができます。

日本語・日本事情科目的開講期は以下の表のとおりです。

日本語・日本事情科目の開講期

<日本語科目>

1期（1年：前期）	2期（1年：後期）	
	第3ターム	第4ターム
日本語I、日本語II	日本語III	日本語IV

<日本事情科目>

1期（1年：前期）	2期（1年：後期）
日本事情A	日本事情B

〔2〕外国人留学生の単位の取り方

外国人留学生の各学部・学科ごとの卒業要件単位数はp. 35のとおりです。日本人学生と同じように「初年次教育科目」「グローバル教育科目」を履修しなければなりません。ただし、外国人留学生は「初年次教育科目」の「初年次セミナーII」は受講しません。

日本語・日本事情科目は外国人留学生には必修科目です。履修にあたっては、担当教員などに必ず相談してください。

※共同獣医学部の外国人留学生の場合、単位の取り方は日本人学生と同じです。そのため、日本語・日本事情科目は必修ではありません。単位を修得しても卒業要件にならない自由科目となります。外国人留学生にとって日本語・日本事情科目は履修することが望ましい授業科目です。

1 教養基礎科目、教養活用科目と日本事情科目の読み替え

日本事情科目的単位を教養基礎科目「人文・社会科学分野」、又は教養活用科目「統合I・統合II」の単位に読み替えることができます。読み替えの際、日本事情科目的4単位をどの選択科目として読み替えるかは、自分で決めることができます。

2 外国語について

「グローバル教育科目」の「英語」は必修科目です。ただし、TOEIC、TOEFL、IELTS、ケンブリッジ英語検定などの検定試験を受け、その得点が一定の基準を超えている場合は、その得点に応じて英語の単位が認定されます。得点と認定される単位数についてはp. 74「鹿児島大学共通教育グローバル教育科目群及び教養基礎科目群における技能審査合格者等の単位認定規則」に書いてあります。単位認定を希望する場合は、決められた期間内に申請を行ってください。

また、初修外国語を選択必修科目としている学部・学科であっても、外国人留学生の場合は、定められた英語の単位数を修得すれば、卒業要件が満たされます。

よくある質問

Q1 プレースメントテストがありますか？

学期の初めに必ずプレースメントテストを行うので、その結果にしたがって履修してください。

前期のプレースメントテストは、日本語Iの第1日目に行います。後期のプレースメントテストは、日本語IIIの第1日目に行います。

日本事情A・Bは文系・理系に分かれて受講します。

Q2 3、4年生になってから、日本語・日本事情科目を履修してもいいでしょうか？

日本語・日本事情科目は、全学部の留学生が履修できるような時間帯に授業があります。

3、4年生になると、専門科目的授業が多くなってくるので、日本語・日本事情の授業時間と重なってしまうことがあります。できるだけ1年生のうちに履修しましょう。p. 33の表「日本語・日本事情科目的開講期」を参照してください。

令和3年度入学生 共通教育科目卒業要件単位数(外国人留学生)(規則第7条関係)

科目枠組		必修科目										選択必修科目								合計単位数 選択科目単位数小計	
		初年次教育科目					グローバル教育科目		日本語・日本事情		必修科目単位数小計	教養教育科目				教養基礎科目		教養活用科目		自由選択科目	
		初年次セミナーⅠ	初年次セミナーⅡ	大学と地域	体育・健康	情報活用	英語	異文化理解	日本語	日本事情		分人文・社会科学	自然科学分野	統合I(課題発見)	統合II(課題解決)	実験科目	選択科目	基礎教育科目	自由選択科目		
学部学科		理	工	農	水産	共同獣医	法文	教育	医	歯	農	水産	共同獣医	理	工	農	水産	共同獣医	合計		
法文	法経社会学科	2	-	2	1	1	2	4	2	4	(4)	18	-	4	-	4	0	4	0	12 30	
	人文学科	2	-	2	1	1	2	4	2	4	(4)	18	-	4	-	4	0	4	0	12 30	
教育	学校教育教員養成課程	2	-	2	1	1	2	5	2	4	(4)	19	-	4	-	4	0	4	0	12 31	
理	理学科	2	-	2	1	1	2	6	2	4	(4)	20	-	4	(4)(注12)	4	0	4	0	12 32	
医	医学科	2	-	2	1	1	2	4	2	4	(4)	18	-	4	-	2	0	4	0	10 28	
	保健学科(看護)	2	-	2	1	1	2	4	2	4	(4)	18	-	4	-	2	0	4	0	10 28	
	保健学科(理学療法)	2	-	2	1	1	2	4	2	4	(4)	18	-	4	-	2	4(注3)	4	0	14 32	
	保健学科(作業療法)	2	-	2	1	1	2	4	2	4	(4)	18	-	4	-	4	2(注4)	4	0	14 32	
歯	歯学科	2	-	2	1	1	2	4	2	4	(4)	18	-	4	-	4	0	4	0	12 30	
工	先進工学科	2	-	2	1	1	2	6	2	4	(4)	20	-	4	-	2	2(注5)	4	0	12 32	
	建築学科	2	-	2	1	1	2	6	2	4	(4)	20	-	4	-	2	2(注5)	4	0	12 32	
農	農業生産科学科	2	-	2	1	1	2	6	2	4	(4)	20	-	4	(4)(注12)	4	4(注6)	4	2(注7)	18 38	
	食料生命科学科	2	-	2	1	1	2	6	2	4	(4)	20	-	4	(4)(注12)	4	4(注6)	4	2(注7)	18 38	
	農林環境科学科	2	-	2	1	1	2	6	2	4	(4)	20	-	4	(4)(注12)	4	4(注6)	4	2(注7)	18 38	
	国際食料資源学特別コース	農学系サブ	2	-	2	1	1	2	5	2	4	(4)	19	-	4	-	2	6(注8)	4	0	16 35
水産	水産系サブ	2	-	2	1	1	2	5	2	4	(4)	19	-	4	-	2	6(注8)	4	0	16 35	
	水産学科	2	-	2	1	1	2	5	2	4	(4)	19	-	4	(4)(注12)	0	10(注9)	4	0	18 37	
共同獣医	獣医学科	2	2	2	1	1	2	8	2	-	-	20	-	2	(注10)	-	2	0	4	0	8 28

(注1) 日本事情(4単位)は、人文・社会科学分野(選択科目)または、教養活用科目(統合I・統合II)の単位に読み替えることができる。

(注2) 日本語(4単位)は、履修申請単位数の上限枠に含まれない。

(注3) 基礎統計学入門(2単位)必修、基礎物理学入門(2単位)、基礎生物学入門(2単位)から1科目選択。ただし、物理学及び生物学に関しては受験時に選択しなかった科目を受講することが望ましい。

(注4) 基礎統計学入門、基礎数学入門、基礎物理学入門、基礎化学入門A、基礎科学入門B、基礎生物学入門の6科目から1科目選択

(注5) 基礎統計学入門(2単位)必修

(注6) 基礎統計学入門、基礎数学入門、基礎物理学入門、基礎化学入門A、基礎科学入門B、基礎生物学入門の6科目から2科目選択

(注7) 農学部における教養教育科目(自由選択科目)の単位は、教養教育科目(教養基礎科目)(ただし、初修外国語及び実験科目を除く。)及び教養教育科目(教養活用科目)の所定の単位を超えて修得した単位が該当する。

(注8) 基礎生物学入門、基礎化学入門A、基礎統計学入門を必修

(注9) 基礎生物学入門、基礎化学入門A、基礎物理学入門、基礎数学入門、基礎統計学入門を必修

(注10) 共同獣医学部は導入系科目として、生命倫理学、コミュニケーション論を必修

(注11) 英語母語話者の場合、日本語又は初修外国語を修得することで、英語の単位を修得したものとして読み替えることができる。ただし、教育職員免許状の取得を目指す者は除く。

(注12) 実験科目(4単位)については、共通教育科目の卒業要件単位数に含まれないが、中学校教諭一種免許状(理科)、高等学校教諭一種免許状(理科)の免許状取得に必要な科目として、基礎物理学実験(1単位)、基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)及び基礎地学実験(1単位)を理学部、農学部及び水産学部の学生を対象に開講する。(p.26参照)

VII 履修手続きをする前に知っておくこと

〔1〕入学前に修得した単位の認定

「鹿児島大学共通教育科目履修規則」第11条の規定（p. 63参照）により、大学又は短期大学を卒業又は中途退学し、新たに本学の1年次に入学した学生の既修得単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがあります。

共通教育科目的既修得単位認定を希望する学生は、共通教育係で所定の手続きを取ってください。

〔2〕技能審査（外国語技能検定試験）合格者等の単位認定

p. 19、p. 22、p. 74をみてください。

〔3〕教員免許状の取得

本学では、法文・教育・理・工・農・水産の各学部で、教育職員免許状（以下「教員免許状」と略称）を取得することができます。教員免許状には、いくつもの種類があります。自分が所属する学部・学科では、どのような種類の教員免許状が取得できるかを確認し、取得する教員免許状の種類を決めておくことが必要です。

教員免許状を取得できる種類、取得のために必要な科目・単位数などについては、所属学部の学生担当窓口に尋ねてください。教員免許状を取得するために必要な科目の中には、「日本国憲法」、「実験」などの共通教育科目も含まれます。共通教育科目について、所属学部の学生担当窓口に尋ねてください。

〔4〕学芸員資格の取得

本学では、法文・教育・理・水産（国際食料資源学特別コース（農・水）を除く）の各学部で学芸員の資格を取得することができます。

資格を取得するために必要な科目・単位数などについては、所属学部の学生担当窓口に尋ねてください。

また、資格を取得するために必要な科目の一部（下記の表参照）を共通教育センターで開講していますが、卒業要件単位数には含まれませんので注意してください。（詳細はシラバス（学芸員資格科目）を参照）

科目名	単位	科目名	単位
生涯学習概論	2	博物館資料保存論	2
博物館概論	2	博物館展示論	2
博物館経営論	2	博物館教育論	2
博物館資料論	2	博物館情報・メディア論	2

〔5〕高度共通教育科目

「地域人材育成プラットフォーム」は、地域人材育成を目的とした学部横断型の教育を開設する土台となるもので、「かごしまキャリア教育プログラム」、「かごしま地域リサーチ・プログラム」、「かごしまグローバル教育プログラム」の3つの教育プログラムからなります。

「地域人材育成プラットフォーム」を構成する共通教育科目として、2年次以上の学生を対象とした「高度共通教育科目」があります。ここには、「地域人材育成プラットフォーム」の構成科目である「プログラム・コア科目」、「プログラム・スキル科目」、「実地体験事前演習」「実地体験」「プログラム修了演習」が含まれます。

「高度共通教育科目」は共通教育センターが開講する科目ですが、卒業要件上は専門教育の単位となります。ただし、認められる単位数は学部によって異なりますので、受講前に所属学部の学生担当窓口で確認してください。また、「地域人材育成プラットフォーム」の詳細についてはパンフレットをご覧ください。

・開設授業科目一覧（令和4年度）

科目名	単位	プログラム	科目区分
社会人基礎力演習	2	かごしまキャリア教育 プログラム	プログラム・コア科目
チャレンジ・ビジネス1	2	かごしまキャリア教育 プログラム	プログラム・スキル 科目
チャレンジ・ビジネス2	2	かごしまキャリア教育 プログラム	プログラム・スキル 科目
地域キャリア・インターンシップ 事前演習	1	かごしまキャリア教育 プログラム	実地体験事前演習
地域キャリア・インターンシップ	2	かごしまキャリア教育 プログラム	実地体験
地域キャリア修了演習	1	かごしまキャリア教育 プログラム	プログラム修了演習
地域リサーチ・トライアル	2	かごしま地域リサーチ・ プログラム	プログラム・コア科目
大隅フィールドワーク講座	1	かごしま地域リサーチ・ プログラム	プログラム・スキル 科目
地域リサーチ実習事前演習	1	かごしま地域リサーチ・ プログラム	実地体験事前演習
地域リサーチ実習	2	かごしま地域リサーチ・ プログラム	実地体験
地域リサーチ修了演習	1	かごしま地域リサーチ・ プログラム	プログラム修了演習
Confronting Kagoshima Regional Issues	2	かごしまグローバル教育 プログラム	プログラム・コア科目
海外インターンシップ	2	かごしまキャリア教育 プログラム／かごしまグ ローバル教育プログラム	プログラム・スキル 科目
Kagoshima de SDGs I (Lecture)	1	かごしまキャリア教育 プログラム／かごしまグ ローバル教育プログラム	プログラム・スキル 科目

科目名	単位	プログラム	科目区分
Kagoshima de SDGs II (Field Study)	1	かごしまキャリア教育 プログラム／かごしまグローバル教育プログラム	プログラム・スキル科目
Sustainable Development Goals and Their Impact on Society	2	かごしまグローバル教育 プログラム	プログラム・スキル科目
Basic Statistics	2	かごしまグローバル教育 プログラム	プログラム・スキル科目
Preparatory Seminar for Overseas Study	1	かごしまグローバル教育 プログラム	実地体験事前演習
Study Abroad at Allied Universities	2	かごしまグローバル教育 プログラム	実地体験
グローバル実地研修	2	かごしまグローバル教育 プログラム	実地体験
Completion Seminar for Overseas Study	1	かごしまグローバル教育 プログラム	プログラム修了演習

VIII 履修手続

〔1〕シラバス

授業科目ごとに担当教員名、授業概要、授業計画、成績評価基準、教科書などを詳しく記載したものを作成したものをシラバスといいます。履修申請日までに、シラバス、共通教育履修案内等をよく読んで予め自分が受講したい授業を選んでください。シラバスは、インターネットにつながったパソコン又はスマートフォンであれば、どこからでも閲覧できます。次の順にアクセスしてください。

シラバスの閲覧要領

- ① 「鹿児島大学」トップページにアクセスし、「在学生」→「学部等の講義概要（シラバス）」→「共通教育センター」をクリックします。
- ② 「共通教育科目一覧」が表示されるので、科目名等の入力欄に検索キーワードを入力し、検索ボタン（ のアイコン）をクリックします。
※科目名の一部を入力しても検索できます。
- ③ 検索キーワードに一致する科目情報が表示されるので、シラバス欄に表記されているアイコンをクリックします。

〔2〕履修計画

p. 1 1 の卒業要件単位数を満たすためには、各期に、科目区分ごとに、何単位を修得していくべきよいか、「シラバス」、及び4期までの「授業時間割表」も参照しながら、履修計画を立てることが大切です。また、2年次になってから開講される科目については、「授業時間割表」に記載されている科目以外に、若干の追加開設を予定しています。なお、変更する場合もあるので注意してください。

履修は、「授業時間割表」と「開設授業科目表」をよく参考して計画してください。また、開設授業科目表の中には受講対象「学部・学科・学年等」が指定されているものもあります。

なお、選択必修科目は「授業時間割表」に記載されていないものもありますので、当該期の「開設授業科目表」をよくみてください。

〔3〕履修申請

申請日

履修申請は、「共通教育行事予定表」で指定された期日に行われます。
「共通教育行事予定表」や履修方法などの詳細事項は、共通教育掲示板（p. 79 参照）などで知らせます。また、専門教育科目の申請日時が異なる場合があるので注意してください。

申請方法

履修科目の申請は、インターネットを利用して行います。指定された期日であれば、みなさんはインターネットにつながったパソコン又はスマートフォンで、どこからでも鹿児島大学の履修登録システムにアクセスして、履修科目の申請ができます。

履修申請時に用意しておくもの

「令和4年度入学生 共通教育履修案内」・・・この冊子です。

「開設授業科目表」・・・受講対象や受講制限、選択必修科目などが確認できます。

「新入生オリエンテーション資料（共通教育）」・・・履修申請要領が記載されています。

「鹿児島大学IDパスワード設定コード通知書」

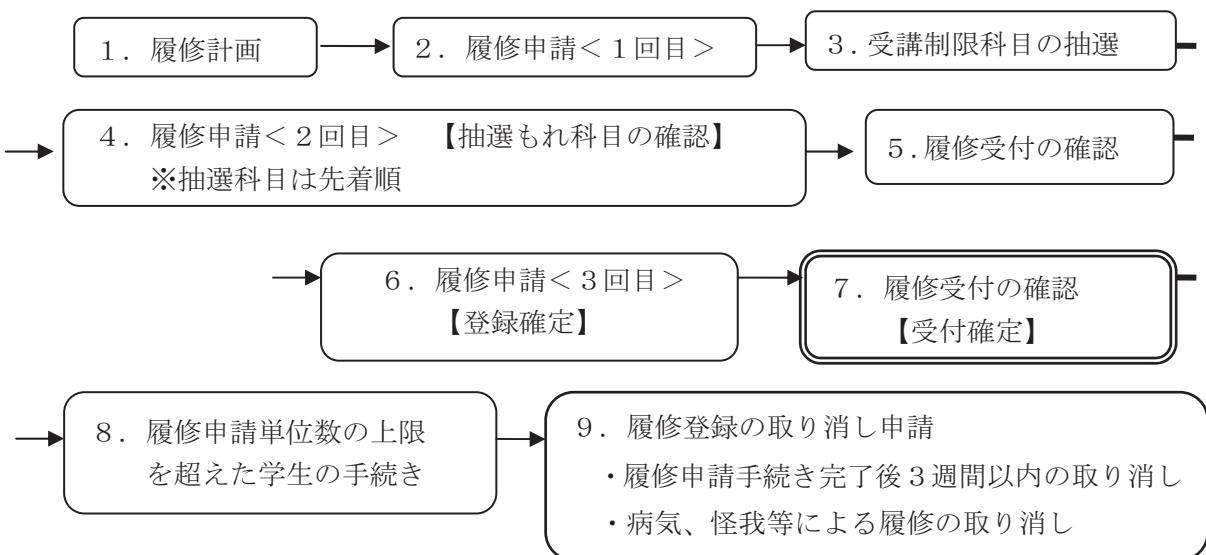
「履修申請表（ワークシート）」

集中講義

夏季休業中などに、集中講義を開講します。開講する科目、履修申請については掲示板及び大学ホームページで知らせますので、履修希望者は掲示に注意してください。なお、履修登録できるのは特に指定された場合を除き、各期1人1科目のみとなり、履修申請単位数の上限には含まれません。

〔4〕履修手続きの流れ

履修手続きは、下図のような流れになります。それぞれの項目について詳細な説明がありますのでよく読んでください。



1 履修計画

「共通教育履修案内」、「シラバス」、「開設授業科目表」を参考にして履修計画を立て、申請する授業科目を履修申請表（ワークシート）に記入してください。Web入力のための下書きになります。

共通教育科目的単位の取り方は複雑です。「V共通教育の教育科目と単位の取り方」を必ず熟読してください。（p. 12～p. 32参照。ただし、外国人留学生はp. 33～p. 35を参照）

履修計画の立て方

① 授業時間割表の確認

各学部・学科で、共通教育科目が開講される時間帯が異なります。「共通教育履修案内」に掲載している「令和4年度入学生授業時間割表」をみて、どの時間帯にどの科目が開講されているのか確認してください。なお、授業時間割表に記載のない選択必修科目などは「開設授業科目表」を、参考にして履修計画を立ててください。

② 必修科目の確認

「初年次セミナーI」、「初年次セミナーII」、「体育・健康」、「情報活用」、「英語」、「異文化理解」は、あらかじめ授業クラスが割り当てられています。開設授業科目表又は掲示板で担当教員、時間割コードを確認してください。割り当てられた授業クラス以外での受講は原則として認められません。

③ 選択必修科目の確認

教養教育科目で卒業に必要な科目として指定されていない科目は、自分でどの講義を受講するかを選択することができます。シラバスを参考にして、受講したい科目を選択してください。ただし、共通教育ではGPA制度を導入していますので、選択必修科目を履修し、もし単位を修得できなかった場合は、その科目の評価F (=0点) がGPAを算出する際にその数値を下げる要因になります。したがって、安易な履修登録はGPAに悪影響を及ぼします。すなわち、選択必修科目でも履修すれば必修科目と同じ重みを持ちますので、真剣に取り組んでください。

2 履修申請<1回目>

履修科目の申請は、パソコン又はスマートフォンから履修登録システムにアクセスして行います。受講制限科目（受講許可申請が別途必要なものを除く）は、この時点では申請どおり受け付けます。担当教員の受講許可申請が必要な科目については、掲示等に注意してください。履修登録の方法については、入学時に配付される「新入生オリエンテーション資料（共通教育）」を参照してください。

3 受講制限科目の抽選

履修申請終了後、受講人数の上限を超過した授業科目はコンピュータによる無作為抽選を行います。

受講制限を行う授業科目

講義室や実験室等の収容定員や授業の内容により、受講制限をせざるを得ない場合があります。受講制限の内容については、当該期の「開設授業科目表」を参照してください。

抽選もれとなった場合、その科目の登録は自動的に無効となります。履修申請日 < 2・3回目 > に追加登録できますが、履修登録は先着順となり、定員に達すると登録が打ち切られます。

授業科目によっては、担当教員の受講許可が必要な場合があります。それらについては、当該期の「開設授業科目表」や掲示板などを参照してください。

4 履修申請<2回目>【抽選もれ科目の確認】

パソコン又はスマートフォンから履修登録システムにアクセスして、抽選もれ科目がないか必ず確認してください。抽選結果に応じて、履修科目を変更することができます。

5 履修受付の確認

授業開始までに学務Webシステムに抽選結果や履修規則違反等の情報を反映させた履修受付確認表を公開します。例年、授業クラスの間違いや登録したつもりなのに実際は登録されていなかったということがありますので、学務Webシステムの登録内容に誤りがないか必ず確認してください。

(履修受付確認は、履修登録システムではなく、学務Webシステムで確認してください。)

6 履修申請<3回目>【登録確定】

授業開始後に、履修申請を変更する機会が1回だけ与えられ、その後の変更は、原則として認められません。履修申請を変更した際は、登録内容に誤りがないか必ず確認してください。また、新たな科目を追加する場合は、履修申請単位数の上限を超えないように注意してください。

7 履修受付の確認【受付確定】

3回目の履修申請日以降、再び学務Webシステムで、履修違反等の情報を反映させた履修受付確認表を公開します。未登録科目及び履修申請単位数の上限を超えた単位は一切認められませんので注意してください。万が一、誤りがあれば、共通教育係に相談してください。履修申請単位数の超過などの特別な場合を除き、履修登録は確定となります。

8 履修申請単位数の上限を超えた学生の手続き

単位数上限を超えた場合は、履修受付確認表にエラーとして表示されます。所属する学生担当窓口で超過単位数の取り消しの手続きを行ってください。手続きを行わなかった場合には、強制的に履修申請が取り消されるので注意してください。(上限設定については、p. 9 参照)

9 履修登録の取り消し申請

履修申請の手続き完了後、申請内容の変更は原則として認められません。しかし、受講中の科目で履修を取り止めたい科目があった場合には、履修登録確定後3週間以内であれば、共通教育係で履修登録取消申請をすることができます。また、病気や怪我などで長期欠席となる事態が発生した場合は、医師の診断書を添付して履修登録取消申請ができます。この場合は、学期中であれば申請可能です。これらの手続きは、意に添わない受講や怪我などの不測の事態により、受講科目の単位修得を放棄し、GPAが低くならないようにする特例措置です。

よくある質問

Q 1 現在2年生ですが、1年生で開講されている科目を履修できますか？

上級生でも、1年生のみを対象にしている科目以外であれば履修できます。ただし、授業クラスが学部・学科・番号等で指定されている科目については、該当するクラスで履修してください。受講対象・受講制限については、当該期の開設授業科目表を参考にしてください。

Q 2 IDとパスワードが分からないので、履修登録画面にログインできません。

IDは鹿児島大学ID（kで始まる8文字の文字列）です。

鹿児島大学IDマイページにて[連絡先メールアドレス]又は[秘密の質問]を設定している場合、自身でパスワードを再設定できます。設定していない場合は、各学部学生係で手続きが必要です。

Q 3 外国語技能検定の単位認定をしたいのですが、単位認定を申請する科目的履修申請はどうすればよいですか？

単位認定を申請する科目的履修申請は不要です。単位認定の申請方法は、「技能審査（外国語技能検定試験）合格者等の単位認定について」をみてください。（p. 19、22参照）

Q 4 共通教育科目と専門教育科目的履修申請日は同じですか？

共通教育科目と専門教育科目的履修申請日は異なる場合があります。専門教育科目的履修申請日については、所属学部の掲示板等に注意してください。

Q 5 共通教育科目を欠席した場合はどうすれば良いですか？

所定の欠席届（p. 88参照）に必要事項を記入して担当教員に事後報告でも構いませんので直接提出してください。欠席していたことを証明できるもの（医師の診断書、公共交通機関の遅延の証明書、忌引きのお札状等）があれば欠席届と一緒に担当教員に提出してください。なお、欠席届の取り扱いは担当教員の裁量によります。

IX 共通教育に関する授業アンケート

鹿児島大学の授業を、素晴らしいものへと発展させるための原動力は、授業を受ける学生の声です。共通教育センターでは、授業に対する学生の意見、感想、要望などを集め、個々の授業をより良いものへするために授業アンケートを実施しています。アンケートの結果は授業担当教員や共通教育全体にフィードバックされ、授業内容や授業方法の改善のための貴重な資料となります。

また、学期末に実施する「授業改善に資するアンケート」では、みなさんの授業に対する姿勢や教員の授業運営、授業全体の満足度などを質問し、その結果は担当教員にフィードバックされるほか、科目分野ごとに集計され、より良い共通教育のカリキュラム編成のための資料として利用されます。

アンケートの回答がみなさんの成績を左右することは決してありませんので、率直な意見を書いてください。ただし、授業改善のために誠実に回答してください。

X 試験及び単位認定

〔1〕 試験

授業科目の成績評価は、シラバスに記載された「学習目標」と「成績の評価基準」に基づく学習達成度の確認により行います。試験は、筆記試験、小テスト、レポート、実技、作品などの方法により行い、総合的に評価します。試験は、各学期末において、共通教育行事予定表（表紙裏面）に記載してある試験日（原則各ターム最終日）に実施する試験（主に筆記試験）や授業中に実施される小テストや授業で課されるレポートなどがあります。

〔2〕 単位認定とGPA制度

共通教育においては、共通教育科目の学習達成度を測るためにグレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度による成績評価を行います。成績は、下表に示すように、学習達成度90%以上をA、80%以上90%未満をB、70%以上80%未満をC、60%以上70%未満をD、60%未満をFと評価します。評価のグレード・ポイント（GP）は、A=4点、B=3点、C=2点、D=1点、F=0点（不合格）となります。

学習達成度	評 点	評 語	認 定
90%以上	100点～90点	A	合 格
80%以上90%未満	89点～80点	B	合 格
70%以上80%未満	79点～70点	C	合 格
60%以上70%未満	69点～60点	D	合 格
60%未満	59点～ 0点	F	不 合 格

各学期、1年間及び入学後のGPAをそれぞれ、学期GPA・年間GPA・通算GPAと呼び、当該履修期間に履修した科目のGPを用いて、以下のような単位平均値により求めます。

$$(\text{学期} \cdot \text{年間} \cdot \text{通算}) \text{ GPA} = \frac{4 \times n_A + 3 \times n_B + 2 \times n_C + 1 \times n_D + 0 \times n_F}{n_A + n_B + n_C + n_D + n_F}$$

ただし、 $n_A \sim n_F$ はそれぞれ当該期間のGPがA～Fの総単位数です。この式から明らかのように、評価F (=0点) で不合格となった科目があるとGPAが下がり、共通教育科目における学習達成度が低いことを意味します。

GPAの具体例についてはp. 10を参照してください。

1 GPA制度の対象外科目

単位認定科目及び他大学等単位互換制度により単位を修得した科目（成績評価はP（認定））と卒業要件外の科目が対象外となります。

2 履修申請科目の取り消し

履修登録確定後に放棄した科目の評価はF（不合格）となります。評価Fも成績原簿に記録されますので、GPAを算出する場合に、評価F（=0点）はGPAを下げる事となります。ただし、次の場合には、事前に履修を取り消すことができます。

- ・病気や怪我などで長期欠席となるために、医師の診断書を添付して履修登録取消申請をした場合
- ・履修登録の確定後3週間以内に、履修登録取消申請を行った場合

3 不合格科目及び単位修得後に成績更新をする科目の再履修

不合格になった科目の評価F（=0点）は、GPAを下げる事になります。したがって、選択科目であっても、不合格になった科目は再履修をして、GPの値を改善する事ができる手続きがあります。また、単位を修得した場合でも、GPの値が低いときには、GPAが下がります。それゆえ、単位を修得した科目でも、成績を更新するために再履修をすることが可能です。

不合格科目あるいは単位を修得した後にGPの値を更新しようとする科目については、成績更新のための再履修手続きを行うことができます。この場合、共通教育係で再履修申請を行います。なお、再履修申請は、原則として通常の履修申請よりも優先して登録されます。

再履修申請を行った場合、再履修が確定した時点で以前の評価は取り消されます。したがって、再履修科目の学習に励まなかつたりすると、かえって評価が悪くなりGPAが以前よりも低下することもあるので、注意してください。

また、成績評価の認定が不合格となった科目又は単位を修得した後に成績を更新しようとする科目が未開講となり、在学期間に再履修できない場合は、当該科目と同一の学問分野の授業科目を代替科目として履修し、成績を更新することができます。ただし、当該科目と同一の学問分野の授業科目がない場合は、成績を更新することはできないので、注意してください。

4 GPAに基づく表彰と助言・指導

共通教育の通算GPAが優秀な学生には、「共通教育センター長賞」の表彰を行います。また、学期GPAが低い学生に対しては、クラス担任教員等が面談を行い、修学及び学生生活全般にわたり助言・指導を行います。その他、所属学部において、GPAによる賞罰や進級制度などが設けられている場合がありますので、所属学部の履修要項などを参照してください。

共通教育センター長賞表彰基準

1～3期（ただし、医学部医学科、歯学部、共同獣医学部は1～2期）の通算GPA3.5以上の者で各学部上位2名とし、かつ卒業要件を満たした者。

助言・指導基準

1～2期の各学期GPAが1.5未満、又は1期の修得単位数が10単位未満（歯学部は15単位未満）、2期の修得単位数が6単位未満の者。

（p. 63 「鹿児島大学共通教育科目履修規則」）

（p. 68 「鹿児島大学共通教育科目試験規則」）

〔3〕追試験

- (1) やむを得ない理由により試験等を受けることができなかつた者に対して、追試験を行うことがあります。
- (2) 追試験を希望する場合、当該科目の試験等の終了後に共通教育係で追試験願を受け取り、当該科目の担当教員の許可を得た後、原則として1週間以内に共通教育係に提出してください。
- (3) 担当教員の許可を受けるときには、確認のため以下の書類が必要です。
 - ・病気、交通事故・・・・・医師の診断書
 - ・交通機関の運休、遅延・・・各機関の発行する証明書
 - ・その他・・・・・・・・・やむを得ない事由を証明するもの

〔4〕再試験

- (1) 試験の結果、不合格の者に対して、再試験を行うことがあります。
- (2) 再試験の実施科目、日程などについては、掲示により通知します。
- (3) 再試験においては、70点以上の成績は認定されません。
- (4) 再試験の成績判定は、当該授業科目が行われた学期の次の学期に行われます。ただし、再試験に合格した場合の単位は、当該授業科目が行われた学期の単位として認定されます。そのため、各学部における進級判定や卒業判定が行われる学期の再試験授業科目の場合、それらの判定の単位としては算定されませんので、特に注意が必要です。

〔5〕受験上の注意

- (1) 試験科目、試験時間、試験場等は掲示します。事前に確認してください。
なお、科目によっては小テストなどが行われますが、その場合には担当教員の指示に従ってください。
- (2) 受験に際しては、学生証を必ず持参してください。学生証が受験票の役割を持ちます。
- (3) 試験当日、学生証を持っていない者は、理由を書いた仮受験票発行願を共通教育係に提出し、仮受験票を発行してもらって受験してください。学生証を持参しないことが度重なった場合、仮受験票を発行しない場合もありますので十分注意してください。
- (4) 学生証又は仮受験票を持参しない者は、試験場への入室を拒否され受験できません。
- (5) 筆記用具以外の筆箱等の持物は、特に指示のある場合を除き、机上においてはいけません。携帯電話、スマートフォン、時計型端末などの通信機器や電子辞書等の情報検索が可能な機器を使用することはできませんので、必ず電源を切ってカバンなどに入れてください。
- (6) 学生証は、机の通路側においてください。
- (7) 試験開始時刻に遅れた場合、試験開始後20分以内は入室を認めますが、20分を超えて遅れた場合には、入室を認めません。また、25分以上経過しなければ退室することはできません。

〔6〕不正行為の措置

不正行為は、試験の際に、代理受験、カンニングペーパーの持込、答案用紙の交換、携帯電話、スマートフォン等の使用、他人の答案の盗み見等の行為が該当します。また、レポートの盗用（他人の文章を引用なしにあたかも自分の文章として記載すること。）も不正行為にあたります。

不正行為を行った場合は「鹿児島大学共通教育科目試験規則」第9条（p. 68 参照）により、原則として、当該期の共通教育科目の全受験科目を不合格（0点）とする措置がとられます。なお、不正行為は、共通教育センターによるこの措置とは別に、学則第60条による懲戒処分を受けることとなります。

〔7〕成績評価等に対する開示請求と異議申立て

共通教育科目に係る成績評価等の開示請求ができる制度があります。

また、開示結果だけでなく、普段の授業等における成績判定などについて異議がある場合、異議を申立てできる制度もあります。

これらの概要を次に示しますが、開示請求等を行わずに解決する場合もありますので、共通教育係に相談してください。

●成績等の開示請求について

成績評価や成績評価の基礎となる試験の答案について、開示請求が可能です。

●異議・再異議申立てについて

- (1) 成績評価の結果が予想と大きく異なる場合など、成績評価等について異議申立てができます。
- (2) 履修・受験したにもかかわらず、成績通知表に成績が記載されていないなど、誤った処理の疑いがある場合、問い合わせができます。
- (3) 異議申立ての回答について、納得がいかない場合、再度異議申立てをすることが可能です。

●成績等開示請求と異議・再異議申立ての手順

- (1) 開示請求と申立ては、原則として本人が行います。ただし、やむを得ない事由がある場合は、代理人を通じて行うことができます。
- (2) 共通教育科目の成績等開示請求の受付期間は、原則として前・後期の成績発表の日から7日以内とされています。また、異議申立ては、履修科目的授業開始日に始まり、成績が発表された日から原則として7日以内までの期間に行えます。再異議申立ての場合も、異議申立てに対する回答書を受理してから原則として7日以内です。
- (3) 成績等開示請求をする場合は成績等開示請求書に、申立てをする場合は異議申立書・再異議申立書に必要事項を記入の上、共通教育係に提出してください。以上の内容について、詳しく知りたい場合は、共通教育係に問い合わせてください。

〔8〕単位互換制度

単位互換制度とは、他の大学、短期大学又は高等専門学校において授業科目を履修し、単位を修得した場合、一定の範囲内で本学の単位として認定する制度です。

本学では、以下の単位互換制度を設けていますが、それ以外に学部で行っている単位互換制度もありますので、所属学部の窓口で確認してください。

単位互換制度を利用して、履修可能な単位数及び卒業要件単位として認定される単位数は、各自の所属する学部によって取扱いが異なりますので、所属学部の学生担当窓口で確認してください。

1 鹿児島県における大学等間の授業交流（単位互換）「K R I C E キャンパス鹿児島」

(※①)

鹿児島県内の6大学、4短期大学及び1高等専門学校(※②)が提供している授業科目の中から、科目開設校(※③)で履修し単位を修得すれば、鹿児島大学の単位として認定されます。

※①「K R I C E（クライス）」とは、Kagoshima（鹿児島）Regional（地域）Intercollegiate（大学間）Credit（単位）Exchange（互換）の頭文字による名称です。

※②参加大学等名：鹿児島大学・鹿屋体育大学・鹿児島国際大学・鹿児島純心女子大学・志學館大学
・第一工科大学・鹿児島県立短期大学・鹿児島純心女子短期大学・鹿児島女子短期大学・第一幼
児教育短期大学・鹿児島工業高等専門学校

※③授業科目を提供する大学等。

2 鹿児島大学と放送大学との間における単位互換

この単位互換制度は、鹿児島大学及び放送大学で開講する授業科目を双方の大学の規則に定めることにより、両大学の学生が相手大学の授業科目を履修し、単位を修得することを認める制度です。

時間に縛られず、場所の制約を受けずに本学にない内容の授業科目を履修したい、自分に深く関連する授業科目を履修したいなどの活用方法がありますので、積極的に利用してください。

放送大学の授業が行われる科目は、印刷教材（テキスト）が用意され、インターネットによる放送授業の視聴と印刷教材による学習を併せて進めます。単位認定試験は、定められた期間のうちの1コマを使い、学内で実施されます。

放送大学の入学料の徴収はありません。また、授業料に関しても予算の都合上、年間100名までは自己負担がありませんが、学生1人当たり、前・後期各1科目を限度とします。

なお、単位互換制度を利用して放送大学の授業科目を履修しようとする場合は、所定の期日までに、「出願票」、「入学願書（鹿児島大学学生用）」を共通教育係に提出してください。

詳細は、「鹿児島大学ホームページ」→「教育・学生生活」→「単位互換制度（県内大学等・放送大学）」を参照してください。

令和4年度の共通教育科目として履修できる単位互換科目は次頁のとおりです。

1年生は、出願時期の関係上、令和4年度後期から受講できます。

令和4年度放送大学科目

No.	分類	科目名	単位	備考
1	人文・社会科学（選択）	日本語リテラシー（'21）	2	
2	人文・社会科学（選択）	日本語アカデミックライティング（'22）	2	
3	人文・社会科学（選択）	日本語リテラシー演習（'18）	1	
4	人文・社会科学（選択）	問題解決の進め方（'19）	2	
5	人文・社会科学（選択）	市民自治の知識と実践（'21）	2	
6	人文・社会科学（選択）	環境問題のとらえ方と解決方法（'17）	2	
7	人文・社会科学（選択）	西洋哲学の起源（'22）	2	
8	人文・社会科学（選択）	世界文学への招待（'22）	2	
9	人文・社会科学（選択）	生活経済学（'20）	2	
10	人文・社会科学（選択）	人間にとって貧困とは何か（'19）	2	
11	人文・社会科学（選択）	発達科学の先人たち（'16）	2	
12	人文・社会科学（選択）	社会調査の基礎（'19）	2	
13	人文・社会科学（選択）	技術経営の考え方（'17）	2	
14	人文・社会科学（選択）	心理学概論（'18）	2	
15	自然科学（選択）	遠隔学習のためのパソコン活用（'21）	2	
16	自然科学（選択）	自然科学はじめの一歩（'22）	2	
17	自然科学（選択）	初歩からの数学（'18）	2	
18	自然科学（選択）	身近な統計（'18）	2	
19	自然科学（選択）	疾病の成立と回復促進（'21）	2	
20	自然科学（選択）	初歩からの生物学（'18）	2	
21	自然科学（選択）	生物環境の科学（'16）	2	
22	自然科学（選択）	初歩からの物理（'22）	2	
23	自然科学（選択）	初歩からの化学（'18）	2	
24	自然科学（選択）	ダイナミックな地球（'21）	2	
25	自然科学（選択）	入門線型代数（'19）	2	
26	自然科学（選択）	計算の科学と手引き（'19）	2	
27	自然科学（選択）	情報学へのとびら（'22）	2	
28	自然科学（選択）	はじめての気象学（'21）	2	
29	自然科学（選択）	初歩からの宇宙の科学（'17）	2	

XI 学生活動

[1] 学生活動上の相談

学生活動で何か困っていること、悩んでいることがあれば、気軽に「学生何でも相談室」へ申し出てください。相談内容により、所属する学部の担任教員、教務委員、学生活動委員などと連携して対応しています。

1 修学及び学生活動一般

修学及び学生活動一般に関する総括的な指導・助言を担当する教員が各学部にいますので、所属学部の学生担当窓口を通して相談することもできます。

＜学生何でも相談室等の案内＞

充実した学生活動が送れるように、悩みや迷いに対する相談窓口として、共通教育棟1号館2階に「学生何でも相談室」があります。相談室では、学生活動課の職員が相談者の話を聞き、相談内容に応じて、相談員（各学部学生活動委員）、クラス担任等の教員、ハラスメント相談員、保健管理センター、また、学内外の相談窓口等と連携しながら対応します。

相談内容について、秘密は厳守しますので、気軽に相談してください。

「学生何でも相談室」 電話 099-285-7311

また、次のような相談は下記の部署で応じています。

共通教育科目等の履修・成績に関する相談 「共通教育課共通教育係」
電話 099-285-3452・8825

奨学金の相談 「学生活動課経済支援係（奨学金担当）」
電話 099-285-7329・8154

授業料免除の相談 「学生活動課経済支援係（免除担当）」
電話 099-285-7033・7312

就職関係の相談 「キャリア形成支援センター」
電話 099-285-7341・7321

＜修学支援室（障害学生支援センター）＞

「修学支援室（障害学生支援センター）」では、学生活動につまずきを感じている学生や障害のある学生からの修学に関わる相談に応じています。必要に応じ配慮申請の手続きを行っています。

修学の相談・支援の申請 「修学支援室（障害学生支援センター）」
電話 099-285-3287

2 担任教員等

各クラス又はクラス内の一定人数ごとに担任教員・助言指導教員が配置されており、修学に関する諸事項、授業料免除や奨学金に関する諸事項、休・退学や進路に関する諸事項などについて助言・指導を行います。とくに学期末にG P Aが低い成績不振者に対する助言・指導を行うなど、適切な学生生活を維持するための良きアドバイザーとして活動しますので、学生は進んで遠慮なく担任教員等に相談してください。

令和4年度入学生 クラス担任教員等

学部	学科等	組	学籍番号 (学科等、番号)	担任教員等
法文学部	法経社会学科(法学)	1	62001～	米田 憲市・齋藤 善人
				大野 友也・森尾 成之
				鳥飼 貴司・原田いづみ
				中島 宏・植本 幸子
				上原 大祐・平井 一臣
	法経社会学科(地域社会・経済)	2	63001～	王 鏡凱
				片桐 資津子
				北崎 浩嗣
				城戸 秀之
				桑原 司
				林田 吉恵
				西村 知
				松川 太一郎
				大芝 周子
教育学部	人文学科(多元地域文化・心理学)	3	64001～	大田 由紀夫
				尾崎 孝宏
				竹岡 健一
			65001～	横山 春彦
	学校教育教員養成課程 初等教育コース一般	1	41001～	平野 拓朗
				下木戸 隆司
				瀬筒 寛之
				日隈 正守
				有家 雄介
				濱崎 孔一郎
				浅野 陽樹
				瀬戸 房子
	学校教育教員養成課程 初等教育コース音楽	1	42001～	今 由佳里
			43001～	中島 友樹
	学校教育教員養成課程 初等教育コース保健体育			

教育学部	学校教育教員養成課程 中等教育コース国語	2	6 8 0 0 1 ~	原田 義則
	学校教育教員養成課程 中等教育コース社会		6 9 0 0 1 ~	佐藤 宏之
	学校教育教員養成課程 中等教育コース英語		7 4 0 0 1 ~	石原 知英
	学校教育教員養成課程 中等教育コース数学	3	7 0 0 0 1 ~	山口 武志
	学校教育教員養成課程 中等教育コース理科		7 1 0 0 1 ~	
	学校教育教員養成課程 中等教育コース技術		7 2 0 0 1 ~	深川 和良
	学校教育教員養成課程 中等教育コース家政		7 3 0 0 1 ~	瀬戸 房子
	学校教育教員養成課程 中等教育コース音楽		4 4 0 0 1 ~	山下 晋
	学校教育教員養成課程 中等教育コース美術		4 5 0 0 1 ~	小江 和樹
	学校教育教員養成課程 中等教育コース保健体育	4	4 6 0 0 1 ~	興儀 幸朝
	学校教育教員養成課程 特別支援教育コース		6 3 0 0 1 ~	雲井 未歛
理学部	理学科	1	6 0 0 0 1 ~	<ul style="list-style-type: none"> ・数理情報科学プログラム 松本 詔 ・物理・宇宙プログラム 新永 浩子 ・化学プログラム 鬼束 聰明 ・生物学プログラム 池永 隆徳 ・地球科学プログラム 礼満 ハフィーズ ・C P Uクラス 内海 俊樹
	理学科	2	6 0 0 9 6 ~	
医学部	医学科	1	1 0 0 0 1 ~	(助言指導教員)
	保健学科 (看護学専攻)	2	2 1 0 0 1 ~	根路銘安仁、山本直子、 兒玉慎平、中尾優子、 松成裕子、沖利通、 清水佐智子、井上尚美、 西尾育子、山下亜矢子、 八代利香、水田明子、 宮田昌明、山口さおり、 若松美貴代、李慧瑛、 西本大策、益満智美、 日隈利香、橋元久美子、 水野昌美、佐々木八千代

医学部	保健学科（理学療法学専攻）		22001～	木山 良二	
				川田 将之	
保健学科（作業療法学専攻）			23001～	築瀬 誠	
				井上 和博	
歯学部	歯学科	1	10001～	笛平 智則	
				長谷川 梢	
工学部	先進工学科 (機械工学プログラム)	1	32001～	熊澤 典良 佐藤 紘一	
	先進工学科 (電気電子工学プログラム)	2	33001～	野見山 輝明	
	先進工学科 (海洋土木工学プログラム)	3	34001～	加古 真一郎	
	先進工学科 (化学工学プログラム)	4	35001～	武井 孝行	
	先進工学科 (化学生命工学プログラム)	4	36001～	中島 常憲	
	先進工学科 (情報・生体工学プログラム)	2	37001～	松元 隆博	
	先進工学科 (工学系共通クラス)	5	38001～	堀江 雄二	
	建築学科 (建築学プログラム)	3	40001～	小山 雄資	
農学部	農業生産科学科	1	31001～	大住 あづさ	
	食料生命科学科	2	32001～	濱中 大介	
	農林環境科学科	3	33001～	神田 英司	
	国際食料資源学 特別コース	農学系 サブコース	41001～	遠城道雄、坂上潤一、 Mun' de C.M Vestergaard 藪田伸	
水産学部	水産学科		70001～	石崎宗周、 VAZQUEZ ARCHDALE, Miguel (ミゲル)	
		50001～	遠藤 光		
		50016～	安樂 和彦		
		50031～	石川 学		
		50046～	加藤 早苗		
	水産学科		50061～	鈴木 崇史	
			50076～	小針 統	
			50091～	土井 航	
			50106～	塩崎 一弘	
			50121～	奥西 将之	
共同獣医学部	獣医学科	1	10001～	矢吹 映	

※学籍番号は、以下のように10桁の数値から成り立っています。

○○ ○○ ○○ ○○○ ○
学部 入学年度 学科等 番号 チェックデジット

〔2〕諸願・届及び注意事項

学生生活を送る上で必要な事項や諸手続きは、「学生便覧」にも記載されています。詳細については、指定された学生担当窓口に問い合わせください。

1 学生の身分異動等

(1) 学生カード

本学在学生は、学生カードの登録が必要となっていますので、学務Webシステムから登録してください。

また、登録後、住所・メールアドレスや電話番号等の変更があった場合は、学生カードの登録内容の変更も忘れずに行ってください。

(2) 学生証の再交付

学生証は必ず携帯しなければなりません。

学生証を紛失、汚損したときは、直ちに学務Webシステムで再発行の申請を行い、生協本部又は生協桜ヶ丘店で購入してください。(費用は自己負担となります。)

(3) 休学

正当な事由によって2ヶ月以上修学できない場合は、所属学部の学生担当窓口に申し出た後、担任教員に相談した上、「休学願」(所定の用紙)を提出してください。病気の場合は、医師の診断書が必要です。

(4) 復学

休学期間にその事由が解消されたときは、所属学部の学生担当窓口に「復学願」を提出してください。病気で休学した場合は、医師の診断書が必要です。

(5) 退学

退学を願い出るときは、所属学部の学生担当窓口に申し出た後、担任教員に相談した上、所定の書類により手続きを取ってください。病気の場合は、医師の診断書が必要です。

(6) 欠席届

やむを得ず講義を欠席する(した)ときは、欠席届を各自で受講している講義の担当教員に提出してください。(様式はp.88にあります)また、連続して3週間以上欠席する場合は、所属学部の学生担当窓口に理由書(病気の場合は医師の診断書)を添付して欠席届を提出してください。

2 証明書などの発行

(1) 在学証明書、卒業(修了)見込証明書、成績証明書、健康診断証明書、学割証の発行

I C学生証を用いて証明書発行機で発行してください。

学生カード未登録、学生証不携帯や有効期限切れの場合は利用できません。

<証明書発行機設置場所>

(郡元)大学会館、中央図書館、教育学部第一講義棟、農・獣医共通棟

(下荒田)水産学部講義棟 (桜ヶ丘)桜ヶ丘会館

(2) 学校学生生徒旅客運賃割引証(学割証)の発行

実習、見学、教育活動、就職試験、帰省等の目的でJR各社の区間を片道100kmを超えて乗車する場合、1人あたり1年間(4月～翌年3月)10枚を限度として証明書発行機で学割証の交付を受けることができます。有効期限は3ヶ月です。学割証を使用する

際は、学割証裏面の使用上の注意をよく読み、絶対に不正に使用しないでください。

なお、1年間（4月～翌年3月）10枚を超える場合は、所属学部の学生担当窓口に理由を付して申し出てください。

（3）通学証明書の発行

市電、市バス、JR、南国交通、鹿児島交通、その他の交通機関の定期券購入希望者は、通学証明書を共通教育係窓口で発行します。3期（ただし、医学部医学科、歯学部、共同獣医学部は2期）までは共通教育係窓口で、4期以降は所属学部の学生担当係窓口で手続きしてください。

3 車両等による通学

やむを得ず自動車で通学しようとする学生は、所属学部の学生担当窓口で手続を行い、所属学部長から入構許可を受けてください。自動二輪車又は原動機付自転車で通学しようとする学生は、指定された二輪車専用駐輪場に駐輪してください。

（1）入構許可申請のできる者

- ① 在籍する学部4年生、博士前期課程学生（修士課程含む。）、専門職大学院学生等。
- ② 通学距離が10km以上の者。
- ③ 本人が当該自動車の保有者である者。
- ④ 公共交通機関による通学が著しく不便である、又は実験・実習等で自動車が特に必要であると認められた者。
- ⑤ 身体の障害で自動車によらなければ通学が困難な者。

（2）入構許可申請時の添付書類

自動車検査証の写し。

（3）構内での遵守事項

- ① 自動二輪車及び原動機付自転車は、構内で運転することは禁止します。駐輪場は、外部の道路から直接入れる場所に設置されているので、必ず利用すること。
- ② 入構許可証は、所定の位置に掲示すること。
- ③ 本学の行事、又は緊急事態等に際して臨時に車両の運行を規制する時は、それに従うこと。

（4）その他

遵守事項に違反し、交通指導員の指示に従わない時は、入構許可を取り消すことがあります。

4 健康の維持

（1）学生定期健康診断（4月）

学生の定期健康診断は、「鹿児島大学学生規則」に基づき実施しているので、必ず受診してください。実施上の詳細については、オリエンテーション資料や保健管理センターのホームページを必ず確認してください。また、メール・掲示板等も確認してください。

（2）健康相談

大学内で急に気分が悪くなったり、ケガをしたり、休養などの必要がある場合は、保健管理センターに相談してください。

5 共通教育棟の施設の利用（パソコンの利用など）

(1) パソコン教室の案内と利用について

共通教育棟1号館2階と3階には123・134・135・136・137号情報教育教室（以下、パソコン教室）があり、約200台のパソコンが設置されています。自習利用時間及び自習利用に開放する教室は、共通教育係にご確認ください。

パソコン教室は鹿児島大学の重要な教育施設です。また、多くの学生が教育や研究で活用していますので、基本的なマナーを守り、大切に使用してください。

なお、同様に利用できるパソコンが情報基盤統括センターや附属図書館（中央図書館、桜ヶ丘分館、水産学部分館）にも設置されています。開館時間についてはそれぞれ施設のWebサイトをご確認ください。

(2) 利用方法や利用するときの注意とマナーについて

- ①パソコンを利用するためには、鹿児島大学IDとパスワードが必要です。入学時、各学部オリエンテーションで「鹿児島大学ID・パスワード設定コード通知書」が配付されます。パスワード設定コードの有効期限内に各自でパスワードを設定し、鹿児島大学IDを有効にしてください。設定したパスワードは、他人に知られることがないように厳重に管理してください。
- ②鹿児島大学IDのパスワードを忘れた場合は、事前に鹿児島大学IDマイページにて[連絡先メールアドレス]又は[秘密の質問]を設定していると、自身でパスワードを再設定できます。設定されていなかった場合は、学生証を持参の上、各学部学生係にお越し下さい。
- ③パソコン教室の自由利用について、利用するときの手続きは特に必要ありません。ただし、授業が行われておらず、かつ利用が許可されている部屋に入室してください。
- ④共通教育棟のパソコン教室は土足のまま入室できますが、教室の美化に協力してください。また、教室内は、機器保護のため飲食物持ち込み及び飲食は禁止です。
- ⑤パソコンの故障が疑われる場合は、共通教育係に連絡してください。
- ⑥教育・研究以外でのパソコンの利用やパソコン等を用いての違法行為（ファイル交換ソフトや違法コピーによる著作権侵害、不正アクセスなど）は当然禁止です。もし発覚した場合は、利用資格の停止や制限、さらに懲戒処分などの措置をとることもあります。

6 その他

(1) 遺失物について

共通教育係に遺失物が届けられることがありますので、心当たりがある場合は申し出てください。

(2) 共通教育係の窓口

業務時間は午前8時30分から午後5時までとなります。（土日祝日、年末年始等の大学の休業日を除く）

共通教育科目及び学芸員資格の成績や履修に関する重要なことは、直接窓口で問い合わせてください。また、学生の電話口への呼び出しには応じられません。

(3) 奨学金について

①日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構は、学業成績が優秀であり、経済的な理由により修学が困難な学生に対し、学資の貸与・給付などを行っている団体です。貸与奨学金には、第一種奨学金（無利子）と第二種奨学金（有利子）があり、併用貸与も可能です。給付奨学金は、家計基準に応じた月額が給付されます。給付奨学金の受給と併せて第一種奨学金の貸与を受けている場合、第一種奨学金の貸与月額に制限がかかります。

【貸与奨学金（2021年4月現在）】

種類	通学形態	月額
第一種 (無利子)	自宅	20,000、30,000、40,000、45,000、51,000円
	自宅外	20,000、30,000、45,000円
第二種 (有利子)	自宅・自宅外	20,000、30,000、40,000、50,000、60,000、70,000、80,000、90,000、100,000、110,000、120,000円 (利率は年最大3.0%)
入学時特別増額貸与（有利子）		100,000、200,000、300,000、400,000、500,000円 (入学時1回のみ、利率は年最大3.2%)

【給付奨学金（2021年4月現在）】

世帯の所得金額に基づく区分	通学形態	月額	制限月額（第一種奨学金） ※第一種奨学金の併用貸与を受ける場合
第I区分	自宅	29,200円（33,300円）	0円
	自宅外	66,700円	0円
第II区分	自宅	19,500円（22,200円）	0円
	自宅外	44,500円	0円
第III区分	自宅	9,800円（11,100円）	20,300円（25,000円）
	自宅外	22,300円	13,800円

注1 奨学金の給付期間は、奨学生に採用された時からその者の在学する学部及び学科・課程の最短修業年限の終期となっています。給付奨学金の受給と併せて第一種奨学金の貸与を受けている場合は、第一種奨学金の貸与月額に制限がかかります。この制度は、給付にあたり条件がありますので、奨学金窓口（学生部学生生活課経済支援係）へ問い合わせてください。

注2 生活保護（扶助の種類を問いません）を受けている生計維持者と同居している人及び児童養護施設等から通学する人は、上表のカッコ内の金額となります。

②鹿児島大学離島高等学校出身者支援スタートアップ奨学金

鹿児島県内の離島地域に所在する高等学校を卒業し、現役で本学に入学した学生のうち、入学年度の前期分授業料免除を申請した上で、許可された学生を対象に予算の範囲内で250,000円を給付する制度です。

③その他の奨学金

日本学生支援機構奨学金以外にも、都道府県市町村奨学金や各種団体奨学金があり、本人が直接出願するものと、大学を通して出願するものがあります。なお、団体によっては日本学生支援機構やその他の奨学金との重複採用を認めないことがあります。

(4) 授業料免除

授業料免除については、「高等教育の修学支援新制度」に定める授業料等減免制度に基づき実施しております。

具体的には、日本学生支援機構（JASSO）の給付奨学金に採用された者に対して、採用時に決定した支援区分に基づき、授業料の免除額を決定します。

(5) 教室の使用

課外活動のため教室の使用を希望する場合は、使用する3日前までに共通教育係へ使用願を提出し、承認を得てください。使用できる教室と時間は原則として次のとおりです。

使用できる教室 共通教育棟1号館及び2号館

使用できる時間 月曜日～金曜日 18時～21時

〔3〕自然災害等非常時における授業・学期末試験等の取扱い

以下の「申合せ」を授業等休講の判断の目やすにしてください。

大学が休講措置を決定した場合は、直ちに「申合せ」の3の方法で周知します。本学ホームページのトップページ「INFORMATION」欄に掲載します。

自然災害等非常時における授業・学期末試験等の取扱いに関する申合せ

平成16年4月1日

学長裁定

平成19年1月12日一部改正

平成22年10月1日一部改正

平成29年4月1日一部改正

令和元年7月9日一部改正

令和3年6月8日一部改正

この申合せは、鹿児島市及びその周辺の自治体に避難指示等が発令され又は警戒レベル相当の防災気象情報が発表された場合及び不測の事態が生じた場合に、学生の安全確保を最優先とした対応を前提とした授業・学期末試験等（以下「授業等」という。）の取扱いに関し、必要な事項を定める。

1 休講等措置の決定

- (1) 休講等の措置は、学長が指名する理事及び共通教育センター長が2に定める判断基準に基づく協議により決定し、学長に報告する。
- (2) 前号の規定にかかわらず、学部等は特別の事情がある場合には、学部長等の判断により休講等の措置を決定することができる。ただし、この場合には学長及び前号の理事に報告するものとする。

2 授業等の取扱い

(1) 授業等開始前

午前6時30分の時点で次のアからウまでのいずれかの状況が確認された場合は、午前中(1、2時限目)の授業等を休講とする。

なお、午前11時時点でのアからウまでのいずれかの状況が継続している場合は、午後の授業等も休講とする。

【避難情報等(警戒レベル)】

ア 鹿児島市に警戒レベル4(避難指示)以上が発令されている場合

【防災気象情報(警戒レベル相当情報)】

イ 鹿児島市に警戒レベル4相当(氾濫危険情報、土砂災害警戒情報)以上の防災気象情報が発表されている場合

【公共交通機関情報】

ウ 市電又は路線バスが運行を見合わせている(運休を含む。)場合

(2) 授業等開始後

前号の判断基準に準じて、取り扱う。

なお、休講の措置をとる場合で学生が帰宅困難と判断される時は、学生の避難について併せて協議を行い決定する。

(3) 居住地又は通学経路に係る取扱い

前2号の取扱いにより、授業等が休講とならなかった場合でも、居住地又は通学経路にかかる地域で警戒レベル4(避難指示)以上が発令され若しくは警戒レベル4相当以上の防災気象情報等が発表され、又は公共交通機関(鹿児島中央駅発着のJR、桜島フェリー又は垂水フェリー)の運休等が生じ、学生自身が安全確保の観点から登校しないことが適當と判断し、欠席等に至った場合には、当該学生に不利益が生じないよう取り扱うものとする。

(注)

教育実習・病院実習・介護等体験実習・インターンシップ等の場合は、各実習先の指示に従うものとする。

3 休講等措置の周知方法

- (1) 学生部から各学部へ連絡し、各学部及び学生部は、学生に対して学習管理システムmanaba等により速やかに周知する。ただし、授業等時間中の場合は、担当教員を通じて周知する。
- (2) 当日の授業等担当教員(非常勤講師を含む。)に対しては、各学部及び学生部から学習管理システムmanaba等により速やかに周知する。
- (3) 学生部は、鹿児島大学のホームページに掲載する。
- (4) 前3号に定める方法により周知がない場合は、2の取扱いに基づき、各自で判断するものとする。

4 その他

- (1) 地震等不測の事態が生じた場合も、上記に準ずる。
- (2) 学長及び学長が指名する理事が必要と判断した場合には、1の(1)及び2の規定にかかわらず、休講等の措置等について決定し、実施することができる。

<参考>

避難情報等 (警戒レベル)				河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)		
警戒 レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報(警戒レベル相当情報)		
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保	5 相当	氾濫発生情報	大雨特別警報 (土砂災害)
~~~~~<警戒レベル4までに必ず避難！>~~~~~						
4	災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4 相当	氾濫危険情報	土砂災害警戒情報
3	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難	3 相当	氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報	2 相当	氾濫注意情報	——
1	今後気象状況悪化 のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1 相当	——	——

(出典:内閣府防災ホームページ「避難情報に関するガイドラインの改定(令和3年度)」)
http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/

XII 転学部について

本学では、他の学部に転学部を志願する者があるときは、関係学部の定めるところにより、転学部を許可することができます（学則第35条）。ただし、次のとおり学部ごとに条件が異なっているので、当該学部で確認してください。

- | | |
|--------|--|
| 法文学部 | 他学部からの転入は、当該学科・コースの教育・研究に支障のない限り、教授会の議を経て認めることがある。また、他学部への転出は、特別な事情がある場合に限り、教授会の議を経て許可することがある。 |
| 教育学部 | 他学部からの転入は、入学年次の定員に欠員がある場合に限り、教授会の議を経て認めることがある。また、他学部への転出は、特別な事情がある場合に限り、教授会の議を経て認めることがある。 |
| 理学部 | 他学部からの転入は、教授会において審議の上、認めることができる。また、他学部への転出は教授会において審議の上、許可することがある。 |
| 医学部 | 他学部からの転入は原則として認めない。他学部への転出を志望する者があるときは当該学部の定めるところによりこれを許可することがある。 |
| 歯学部 | 他学部からの転入は原則として認めない。他学部への転出は、教授会の議を経て許可することがある。 |
| 工学部 | 他学部からの転入は、当該プログラムの教育・研究に支障のない限り、当該プログラムで審査の上、教授会の議を経て許可することがある。また、他学部への転出は教授会の議を経て許可することがある。 |
| 農学部 | 他学部への転出、他学部からの転入は、教授会の議を経て認める。転入については、入試の成績が志望学科の合格最低点以上の者だけ願いを受理し、当該学科の在学生の修業に支障がない限りにおいて許可することがある。 |
| 水産学部 | 他学部からの転入は、欠員がある場合に限り、選考の上、教授会の議を経て許可することがある。また、他学部への転出は、教授会の議を経て許可することがある。 |
| 共同獣医学部 | 他学部からの転入は原則として認めない。他学部への転出を志望する者があるときは当該学部の定めるところによりこれを許可することがある。 |

鹿児島大学共通教育科目履修規則

鹿児島大学共通教育科目試験規則

鹿児島大学共通教育センター科目等履修生に関する細則

鹿児島大学共通教育科目既修得単位認定規則

鹿児島大学共通教育グローバル教育科目群及び教養基礎科目群における技能審査合格者等の単位認定規則

鹿児島大学共通教育グローバル教育科目群及び教養基礎科目群に係る技能審査等の認定基準に関する申合せ

鹿児島大学共通教育科目履修規則

平成16年4月1日
規則第115号

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学学則(平成16年規則第86号。以下「学則」という。)第38条第7項の規定に基づき、鹿児島大学(以下「本学」という。)における共通教育科目の履修方法等について、必要な事項を定めるものとする。

(授業科目的開講期)

第2条 授業科目的開講期は、原則として次のとおりとする。

前期 4月1日～9月30日

後期 10月1日～翌年3月31日

(共通教育科目的区分)

第3条 共通教育科目的区分は、別表第1から別表第3までのとおりとする。

2 共通教育科目に係る授業科目名、単位数、講義内容及び開講期は、別に定める。

(開放科目)

第4条 学生は、各学部が開設する専門教育科目のうち、他学部の学生に受講を開放する授業科目(以下「開放科目」という。)を履修することができる。

2 前項の規定により学生が開放科目を履修する場合、教養教育科目として履修するものとする。ただし、共同獣医学部にあっては、卒業要件単位とならない自由単位の科目として履修するものとする。

(授業期間)

第5条 各授業科目的授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(単位の計算)

第6条 各授業科目的単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法、当該授業科目による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によるものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験及び実習については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

(学部別卒業要件単位数等)

第7条 各学部における共通教育科目的卒業要件単位数及び履修方法は、別に定める。

(外国人留学生の履修の特例)

第8条 外国人留学生(共同獣医学部の外国人留学生を除く。)に係る日本語・日本事情科目的履修については、日本語4単位及び日本事情4単位を修得しなければならない。この場合において、日本事情の4単位は、人文・社会科学分野(選択科目)、統合Ⅰ又は統合Ⅱの単位に読み替えることができる。

(授業時間割及び履修申請)

第9条 開設する授業科目的時間割及び担当教員は、各期の履修登録日の前に公示する。

2 学生は、受講する授業科目を選定のうえ履修計画を作成し、各期の始めの所定の期日に履修申請をしなければならない。

3 履修申請し受講の承認を得ていない授業科目については、単位の認定を受けることができない。

4 履修登録の変更は、原則として認めない。ただし、次の各号の一に該当する場合は、履修登録を取り消すことができるものとする。

(1) 病気や怪我などで長期欠席となるために、医師の診断書を添付して履修登録取消申請をした場合

(2) 履修登録の確定後3週間以内に、履修登録取消申請をした場合

5 同じ授業科目が、同一時間帯に複数開設される場合、指定された授業クラス以外の受講は、原則として認めない。

(再履修)

第9条の2 成績評価の認定が不合格となった科目又は単位を修得した後に第10条の2に定めるグレード・ポイント(以下「GP」という。)の値を更新しようとする科目は、再履修の申請を行うことができるものとする。

- 2 再履修の申請は、原則として前条第2項に基づく履修申請よりも優先して登録されるものとし、再履修が確定した時点で、当該科目の成績評価は削除する。
- 3 再履修登録の変更は、前条第4項第1号に定める場合を除き、認めない。
- 4 再履修に関し必要な事項は、別に定める。

(試験及び単位認定)

第10条 授業科目を履修した学生に対しては、授業総時数の3分の2以上出席した場合に限り、シラバスに記載された方法で試験を行い、合格した者には、単位を認定する。

- 2 試験及び認定単位に関し必要な事項は、別に定める。
- 3 学則第44条の2の規定により、共同獣医学部の学生が、山口大学が開設する共同教育課程に係る授業科目の履修により修得した単位は、本学の教育課程において修得したものとみなすものとする。

(GPA制度による成績評価)

第10条の2 共通教育科目の成績評価は、グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。)制度により行い、シラバスに記載された学習目標と評価基準及び方法に基づき、学習達成度を評価する。

- 2 各学期、1年間及び入学後のGPAはそれぞれ、学期GPA、年間GPA及び通算GPAと称する。
- 3 各科目の学習達成度のGPの値及びGPAの算出方法は、別表第4のとおりとする。
- 4 履修登録確定後に放棄した科目の評価は不合格とし、成績原簿に記録する。
- 5 GPA制度に基づき、成績優秀者に対する表彰及び成績不振者に対する助言・指導を行う。
- 6 前項の表彰及び助言・指導に関し必要な事項は、別に定める。

(1年次入学前の既修得単位の認定)

第11条 本学入学前に他の大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む。)において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本学における共通教育の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 本学入学前に行った大学の専攻科、短期大学の専攻科、高等専門学校の専攻科又は高等専門学校の課程における学修について、教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
- 3 前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、共通教育科目及び専門教育科目の単位について学則第45条に規定する単位と合わせて60単位を超えないものとする。
- 4 単位の認定方法等については、別に定める。
- 5 編入学、転学等の場合における共通教育科目の既修得単位の認定については、各学部において定める。

(技能審査合格者等の単位認定)

第12条 本学が認定した技能審査等に合格又は一定の成績を修めた各学部(共同獣医学部除く。)の学生について、教育上有益と認めるときは、当該技能審査等の成果を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 2 前項の本学が認定した技能審査等は、次のとおりとする。

- (1) 実用英語技能検定
- (2) TOEIC L&R及びTOEIC S&W (TOEIC L&Rに関して、IPテストを含む。)
※4技能(聞く、話す、読む、書く)試験
- (3) TOEFL(iBT)
- (4) IELTS

- (5) ケンブリッジ英語検定
- (6) ドイツ語技能検定
- (7) ゲーテ・インスティトゥート検定試験
- (8) オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験
- (9) テスト・ダフ(TestDaF)
- (10) 実用フランス語技能検定試験
- (11) フランス国民教育省・フランス語学力テスト(TCF)
- (12) フランス国民教育省・フランス語学力資格試験(DELF / DALF)
- (13) 中国語検定試験
- (14) 漢語水平考試(HSK)
- (15) ハングル能力検定試験
- (16) 韓国語能力試験

3 第1項の規定により履修とみなし、与えることができる単位数は、前条第3項に規定する単位数に含めるものとする。

4 単位の認定方法等については、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において、在学する学生は、改正後の第8条の2、第9条第4項ただし書き、第9条の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において在学する学生は、改正後の第12条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において在学する農学部獣医学科の学生については、改正後の規則(第9条を除く。)にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において在学する学生に対しては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において在学する学生については、改正後の第12条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において在学する学生については、改正後の第8条第1号の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において在学する学生に対しては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において在学する者については、改正後の第6条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日において在学する者については、改正後の第3条第1項、第10条の2第3項、別表第3及び別表第4の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 この規則の施行日の前日において在学する者については、改正後の第12条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

別表第1(第3条関係)

法文学部、教育学部、理学部、医学部、歯学部、工学部、農学部、水産学部

大分類	中分類	小分類
必修科目	初年次教育科目	初年次セミナーI 初年次セミナーII 大学と地域 体育・健康(理論) 体育・健康(実習) 情報活用
	グローバル教育科目	英語 異文化理解
	日本語・日本事情	日本語 日本事情
選択必修科目	教養教育科目 (教養基礎科目)	人文・社会科学分野(初修外国語) 人文・社会科学分野(選択科目) 自然科学分野(実験科目) 自然科学分野(選択科目) 自然科学分野(基礎教育入門科目)
	教養教育科目 (教養活用科目)	統合I(課題発見) 統合II(課題解決)
	教養教育科目 (自由選択科目)	教養基礎科目及び教養活用科目に対応する 小分類
卒業要件外科目	学芸員資格科目	学芸員資格

備考1：初年次セミナーIIは、原則として一般学生を対象とする。

備考2：日本語・日本事情は、原則として外国人留学生を対象とする。

備考3：教養教育科目（自由選択科目）は、農学部の学生（外国人留学生を含む。）を対象とする。

別表第2(第3条関係)

共同獣医学部

共通教育科目	一般教養教育科目
	体育・健康科目
	初期教育科目
	外国語科目

備考：共同獣医学部規則別表第1に規定する履修課程表にない共通教育科目の授業科目を履修し、修得した単位は、自由単位とする。

別表第3(第3条関係)

高度共通教育科目	プログラム科目
	実地体験事前演習
	実地体験
	プログラム修了演習

備考1：高度共通教育科目の単位は、共通教育科目の卒業要件外単位とする。

備考2：高度共通教育科目の単位は、各学部において、専門教育科目の卒業要件単位に認定することができる。

別表第4(第10条の2関係)

項目	学習達成度	評語	GPの値
成績評価及び評語	90%以上	A	4点
	80%以上90%未満	B	3点
	70%以上80%未満	C	2点
	60%以上70%未満	D	1点
	60%未満	F	0点
単位認定科目及び他大学等単位互換により単位を修得した科目の成績評価	認定	P	
GPAの算出方法	(学期・年間・通算)GPA=(4×n _A +3×n _B +2×n _C +1×n _D +0×n _F)/(n _A +n _B +n _C +n _D +n _F) 注) nA、nB、nC、nD、nFは、それぞれ当該期間に履修した科目のA、B、C、D、Fに対応する総単位数とする。		

鹿児島大学共通教育科目試験規則

平成16年4月1日
規則第142号

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学共通教育科目履修規則（平成16年規則第115号）第10条第2項の規定に基づき、試験に関し必要な事項を定めるものとする。

(試験の受験資格)

第2条 試験は、授業科目の授業総時数の3分の2以上出席した場合に限り、受験することができる。ただし、授業総時数の3分の2以上出席していない場合であっても、担当教員が特に必要と認めたときは、補講を受講した上で受験することができるものとする。

(単位の認定)

第3条 授業科目を履修した学生に対しては、シラバスに記載された学修目標の達成度を評価するため、当該科目の成績評価基準に基づき試験を行い、合格した者に単位を認定する。

(方法)

第4条 試験は、筆記試験、小テスト、レポート、実技及び作品等の方法により総合的に行う。

(成績の評価)

第5条 成績の評価は、評点又は評語をもって表し、合否の認定は、次の基準によるものとする。ただし、成績の報告は評点で行う。

学習達成度	評点	評語	認定
90%以上	100点～90点	A	合格
80%以上90%未満	89点～80点	B	合格
70%以上80%未満	79点～70点	C	合格
60%以上70%未満	69点～60点	D	合格
60%未満	59点～0点	F	不合格

単位認定科目及び他大学等単位互換により単位を修得した科目の成績評価は、P（認定）の評語で表す。

(発表)

第6条 試験の結果は、成績通知表によって発表する。

(追試験)

第7条 やむを得ない事情によって試験を受験できなかった者に対して、追試験を行うことがある。

2 追試験を受けようとする者は、担当教員の承認を得て追試験願を提出しなければならない。

(再試験)

第8条 試験の結果、合格しなかった者に対して再試験を行うことがある。

2 再試験を受験できる者は、成績通知表等により通知するものとする。

3 再試験においては、70点以上の成績は認定しない。

4 再試験の成績判定は、当該授業科目が行われた学期の次の学期に行う。ただし、再試験に合格した場合の単位は、当該授業科目が行われた学期の単位として認定する。

(不正行為の措置)

第9条 試験の際、不正行為の事実が確認された場合、原則として、当該期の共通教育科目の全受験科目を不合格（0点）とする措置をとる。

2 前項の不正行為を行った者については、鹿児島大学学則（平成16年規則第86号）第60条の規定により当該学部教授会の議を経て、学長が懲戒することがある。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において、在学する学生は、改正後の第5条第1項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において、在学する学生は、改正後の第5条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成21年12月24日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において在学する学生については、なお従前の例による。

鹿児島大学共通教育センター科目等履修生に関する細則

平成29年5月12日

総機細則第1号

(趣旨)

第1条 この細則は、鹿児島大学科目等履修生規則(平成16年規則第112号)第11条の規定に基づき、共通教育科目を受講する科目等履修生(以下「履修生」という。)について必要な事項を定める。

(資格)

第2条 共通教育科目の履修を志願する者の資格は、鹿児島大学学則(平成16年規則第86号)第30条の規定を準用する。

(出願方法)

第3条 共通教育科目の履修を志願する者は、次に掲げる書類を添えて共通教育センター長に願い出なければならない。

- (1) 願書
- (2) 履歴書
- (3) 最終学校の卒業証明書及び成績証明書
- (4) その他共通教育センターが必要と認めた書類

2 外国人の場合は、前項各号に掲げる書類のほか、旅券の写又は在留カードを提出しなければならない。

(出願期日)

第4条 出願は、共通教育センターの指定する期日までに行わなければならない。

(受入許可)

第5条 履修生の受入許可は、当該授業科目の担当教員の内諾を得た後、共通教育センター運営委員会の議を経て、共通教育センター長が行う。

(履修期間)

第6条 履修期間は、履修を許可された当該授業科目の開設期間とし、引き続き履修を志願する者は、その都度手続きを更新するものとする。

(単位の認定)

第7条 履修した授業科目については、別に定めるところにより試験を受けることができる。

2 前項の試験に合格した者には、所定の単位を認定する。

附 則

この細則は、平成29年5月12日から施行する。

附 則

この細則は、令和4年4月1日から施行する。

鹿児島大学共通教育科目既修得単位認定規則

平成16年4月1日
規則第143号

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学共通教育科目履修規則(平成16年規則第115号)第11条第4項の規定に基づき、1年次入学前の既修得単位の認定について必要な事項を定める。

(申請期間)

第2条 本学に入学した年度に限り、入学前の既修得単位の認定を願い出ることができる。

(認定方法)

第3条 認定方法は、別表第1-1及び別表第1-2のとおりとする。ただし、卒業要件単位数を超えないものとする。

(認定の手続)

第4条 認定を希望する者は、認定願及び成績証明書等を所定の期日までに共通教育センター長に提出しなければならない。

2 認定願及び成績証明書等の提出日は、入学年度の4月1日及び共通教育センター長が定める7月の所定の期日とする。ただし、4月1日が日曜日若しくは土曜日又は国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下この項において「日曜日等」という。)に当たる場合は、当該日の直後の日曜日等でない日とする。

3 単位の認定は、申請者の所属学部で内容の確認を行い、共通教育センター運営委員会の議を経て共通教育センター長が行う。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

別表第1-1（第3条関係）

1年次入学前の既修得単位の認定方法（法文・教育・理・医・歯・工・農・水産学部）

科目枠組	必修科目									選択必修科目						
	初年次教育科目				グローバル教育科目		日本語・日本事情		教養教育科目			教養活用科目		自由選択科目		
									教養基礎科目		教養活用科目					
初年次セミナーⅠ	初年次セミナーⅡ	大学と地域	体育・健康	情報活用	英語	異文化理解	日本語	日本事情	人文・社会科学分野	自然科学分野	統合Ⅰ（課題発見）	統合Ⅱ（課題解決）				
学部	認定方法（認定できる上限単位数）															
法文学部	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	4単位	2単位	4単位	4単位	4単位	2単位	2単位	—		
教育学部	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	4単位 ただし、英語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBに限る。	2単位	4単位	2単位	6単位 イ. 選択科目については、4単位 ロ. 独語、仏語、中国語又は韓国語については、2又は3単位修得している者には、初級Ⅰの2単位を、4単位以上修得している者には、初級Ⅰ・初級Ⅱの4単位	4単位	2単位	2単位	—	
理学部	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	6単位	2単位	4単位	4単位	4単位	4単位	4単位	—		
(医学部)	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	4単位	2単位	4単位	4単位	4単位	2単位	4単位	—		
(保健医学部)	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	認定しない	2単位	4単位	2単位	4単位	4単位	6単位 (看護学専攻は4単位)	6単位 (看護学専攻は2単位)	4単位	—		
	※教養基礎科目、教養活用科目を合わせて6単位															
歯学部	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	4単位	2単位	2単位	—		
工学部	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	6単位	2単位	4単位	4単位	4単位	4単位	認定しない	認定しない		
農学部	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	6単位	2単位	4単位	4単位	8単位	4単位	2単位	2単位		
国際特別コース	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	5単位	2単位	4単位	4単位	8単位	4単位	—			
水産学部	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	5単位	2単位	4単位	4単位	10単位	4単位	—			

備考

- 本学以外において修得した単位を、共通教育科目の既修得単位として認定する場合は、30単位（歯学部にあっては18単位）を超えることはできない。
- 本学において修得した共通教育の単位を、共通教育科目の既修得単位として認定する場合は、各学部の判断で、上記表に掲げる認定単位数を超えて認めることができる。
- 本学において修得した共通教育の単位を、共通教育科目の既修得単位として認定する場合は、上記表に掲げる認定しない科目を認めることができる。
- 教育職員免許状取得のために科目名（日本国憲法、体育・健康科学理論、体育・健康科学実習、英語ⅠA、英語ⅡA、英語ⅠB、英語ⅡB、初級独語Ⅰ、初級独語Ⅱ、初級仏語Ⅰ、初級仏語Ⅱ、初級中国語Ⅰ、初級中国語Ⅱ、初級韓国語Ⅰ、初級韓国語Ⅱ及び情報活用）を特定する必要がある場合又は卒業要件を満たすために科目名を特定する必要がある場合を除き、科目名は特定しない。
- 卒業要件外科目（学芸員資格科目）及び高度共通教育科目の単位認定は行わない。

別表第1－2（第3条関係）

1年次入学前の既修得単位の認定方法（共同獣医学部）

一般教養教育科目	初期教育科目	外国語科目	体育・健康科目
6単位以内 (必修科目を除く。)	認定しない	認定しない	体育・健康理論、体育・健康実習それぞれ1単位

備考

- 1 本学以外において修得した単位を、共通教育科目的既修得単位として認定する場合は、8単位を超えることはできない。
- 2 本学において修得した単位を、共通教育科目的既修得単位として認定する場合は、学部の判断で、上記表に掲げる認定単位数を超えて認めることができる。
- 3 本学において修得した共通教育の単位を、共通教育科目的既修得単位として認定する場合は、上記表に掲げる認定しない科目を認めることができる。
- 4 卒業要件を満たすために科目名を特定する必要がある場合を除き、科目名は特定しない。
- 5 卒業要件外科目（学芸員資格科目）及び高度共通教育科目的単位認定は行わない。

○鹿児島大学共通教育グローバル教育科目群及び教養基礎科目群における技能審査合格者等の単位認定規則

平成16年4月1日
規則第144号

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学共通教育科目等履修規則(平成16年規則第115号)第12条第4項の規定に基づき、技能審査合格者等の単位認定について必要な事項を定める。

(申請)

第2条 単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書に検定試験合格証書等の必要書類を添えて共通教育センター長に提出しなければならない。

- 2 申請できる単位数は、英語・英語以外の外国語それぞれ最大4単位までとする。
- 3 同一の級位又は得点を用いて複数回申請することはできない。
- 4 申請者が同一言語に係る複数の技能審査等の資格又は成績を有している場合、級位又は得点が同等のものを複数用いて申請することはできない。
- 5 技能審査等の資格又は成績は、申請期間の開始日において、取得した日から2年を経過しないものを有効とする。
- 6 申請期間は、原則として前期は4月1日から4月20日まで、後期は10月1日から10月20日までとする。

(認定基準)

第3条 単位認定のための認定基準については、共通教育センター運営委員会が別に定める。

(単位認定)

第4条 単位の認定は、共通教育センター外国語教育部門会議の議を経て共通教育センター運営委員会が行う。

- 2 単位を認定された者の成績は「認定」とする。
- 3 認定の結果は、申請者に通知する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において在学する学生は、改正後の第3条第4項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において在学する学生に対しては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において在学する学生については、改正後の第2条及び第3条第3項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において在学する学生については、改正後の第2条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において在学する学生については、改正後の第2条及び第3条第5項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成30年4月26日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、令和2年11月26日から施行し、令和2年10月1日から適用する。

附 則

この規則は、令和3年9月22日から施行する。

鹿児島大学共通教育グローバル教育科目群及び教養基礎科目群に係る技能審査等の認定基準に関する申合せ

令和3年7月16日
共通教育センター運営委員会決定
令和3年9月22日実施

第1 鹿児島大学共通教育グローバル教育科目群及び教養基礎科目群における技能審査合格者等の単位認定規則（規則第144号）第3条に定める各技能審査等の認定基準は次のとおりとする。

言語	技能審査等の名称	級位又は得点	認定単位
英 語	実用英語技能検定	a. 1級	4 単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
		b. 準1級	2 単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
	英検CBT及び英検S-CBT	b. 準1級	2 単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
TOEIC L&R／TOEIC S&W (TOEIC L&Rに関して、IPテストを含む) ※4技能(聞く、話す、読む、書く)試験		a. 1305～1390点 L&R 945点～ S&W 360点～	4 単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
		b. 1095～1300点 L&R 785点～ S&W 310点～	2 単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
TOEFL(iBT)		a. トータルスコア95～120点 各セクションスコア22点以上	4 単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
		b. トータルスコア72～94点 各セクションスコア17点以上	2 単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
IELTS		a. オーバーオール・バンド・スコア7.0～8.0点 各パート7.0点以上	4 単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
		b. オーバーオール・バンド・スコア5.5～6.5点 各パート5.5点以上	2 単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
ケンブリッジ英語検定		a. CAE(180～199点)	4 単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
		b. FCE(160～179点)	2 単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
独 語	ドイツ語技能検定試験	a. 3級から1級	4 単位又は2 単位(初級独語 I・II)
		b. 4級	2 単位(初級独語 I)
	ゲーテ・インスティトゥート検定試験	a. SD 2 (A2) からGDS (C2)	4 単位又は2 単位(初級独語 I・II)
		b. SD 1 (A1)	2 単位(初級独語 I)
	オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験	a. GD 2 (A2) からWD (C2)	4 単位又は2 単位(初級独語 I・II)
		b. GD 1 (A1)	2 単位(初級独語 I)
テスト・ダフ(TestDaF)		a. TDN 3 (B2) からTDN 5 (C2)	4 単位又は2 単位(初級独語 I・II)

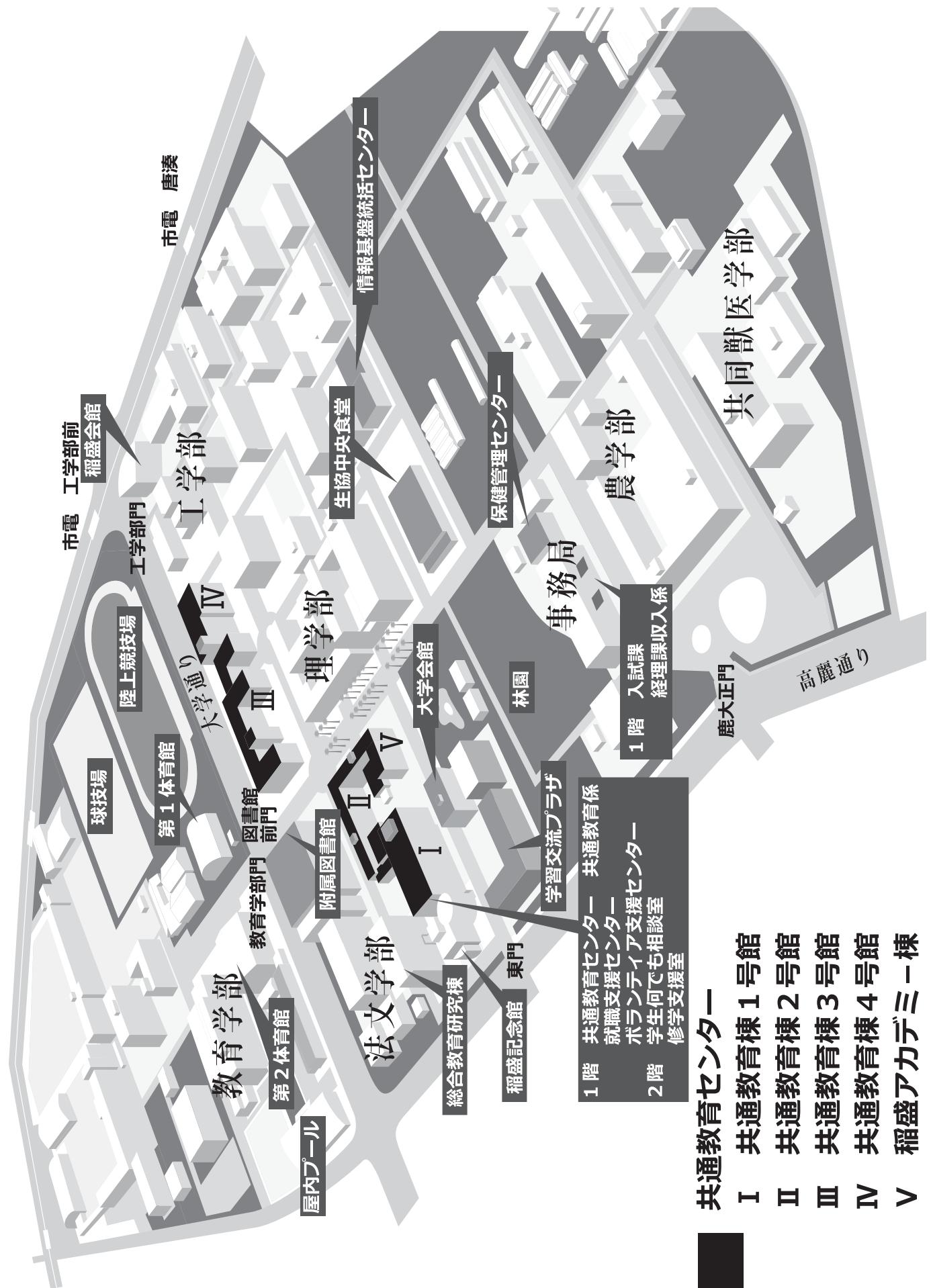
仏語	実用フランス語技能検定試験	a. 4級から1級	4単位又は2単位(初級仏語Ⅰ・Ⅱ)
		b. 5級	2単位(初級仏語Ⅰ)
フランス国民教育省・フランス語学力テスト(TCF)	a. A2、B1、B2、C1、C2	4単位又は2単位(初級仏語Ⅰ・Ⅱ)	
	b. A1	2単位(初級仏語Ⅰ)	
フランス国民教育省・フランス語学力資格試験(DELF/DALF)	a. A2、B1、B2、C1、C2	4単位又は2単位(初級仏語Ⅰ・Ⅱ)	
	b. A1	2単位(初級仏語Ⅰ)	
中国語	中国語検定試験	a. 4級から1級	4単位又は2単位(初級中国語Ⅰ・Ⅱ)
		b. 準4級	2単位(初級中国語Ⅰ)
	漢語水平考試(HSK)	a. 3級から6級	4単位又は2単位(初級中国語Ⅰ・Ⅱ)
		b. 1級、2級	2単位(初級中国語Ⅰ)
韓国語	ハングル能力検定試験	a. 4級から1級	4単位又は2単位(初級韓国語Ⅰ・Ⅱ)
		b. 5級	2単位(初級韓国語Ⅰ)
	韓国語能力試験	a. 2級から6級	4単位又は2単位(初級韓国語Ⅰ・Ⅱ)
		b. 1級	2単位(初級韓国語Ⅰ)

※ 級位又は得点欄に付されている記号(a. b.)は、同じ記号であれば級位又は得点が同一であるとみなす。

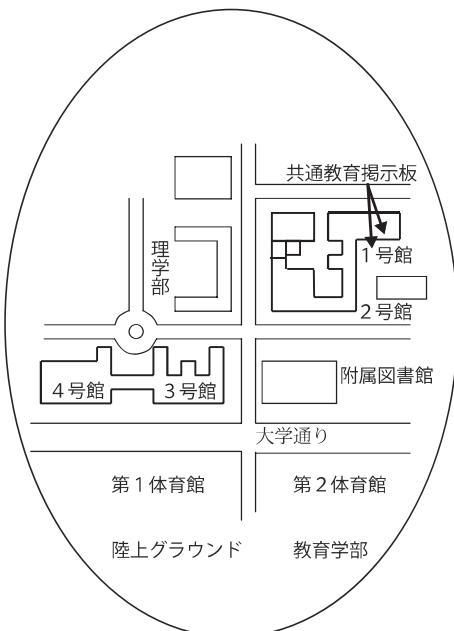
第2 第1の規定に関わらず、技能審査等を実施する団体が諸般の事情により暫定的な方法で技能審査等を実施した場合には、これに対応した一時的な認定基準を設けることができるものとする。

附 記

- 1 この申合せは、令和3年9月22日から実施する。
- 2 この申合せの規定に関わらず、令和2年度以前に入学した学生に係る第1の規定は、なお従前の例による。



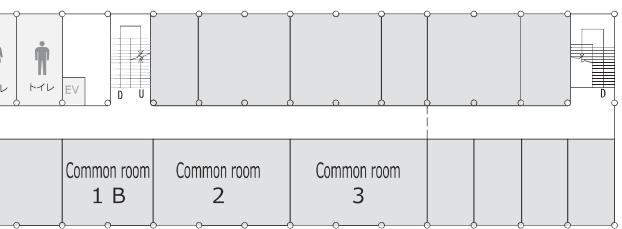
鹿児島大学共通教育棟配置図



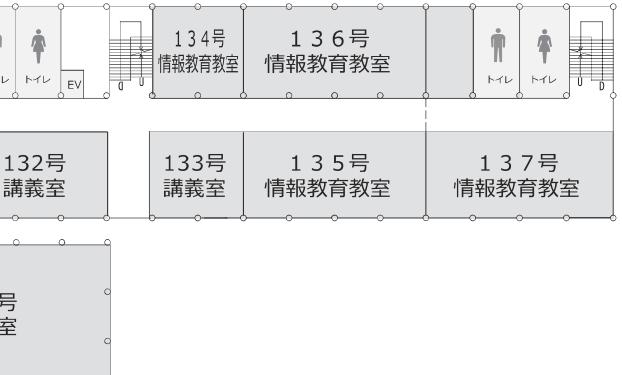
5階

国際事業課・教務課

4階



3階



2階



講義室の名称について

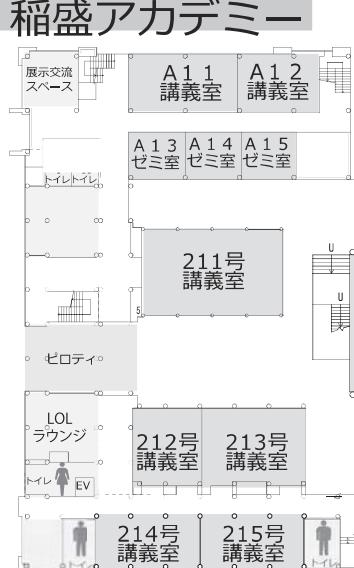
(例) 125号講義室 共通教育棟 1号館 2階
1は共通教育棟の1号館、2は階数です。



1階

稲盛アカデミー

理学部



1階

共通教育棟 1号館

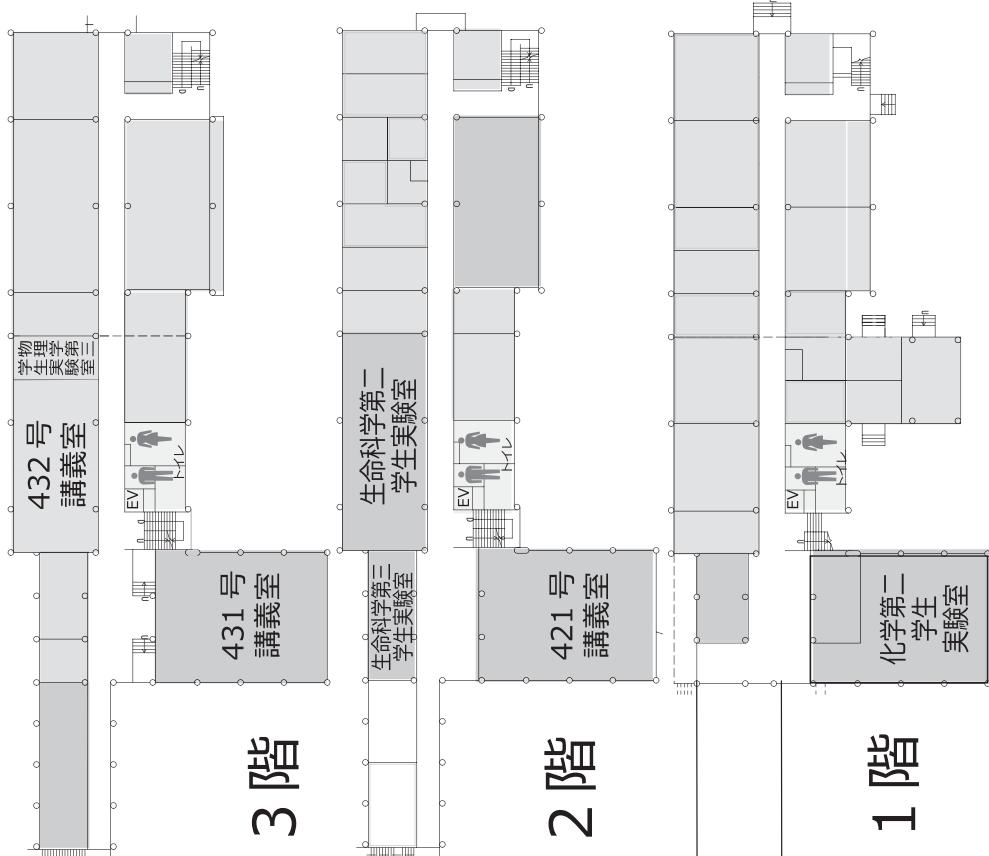
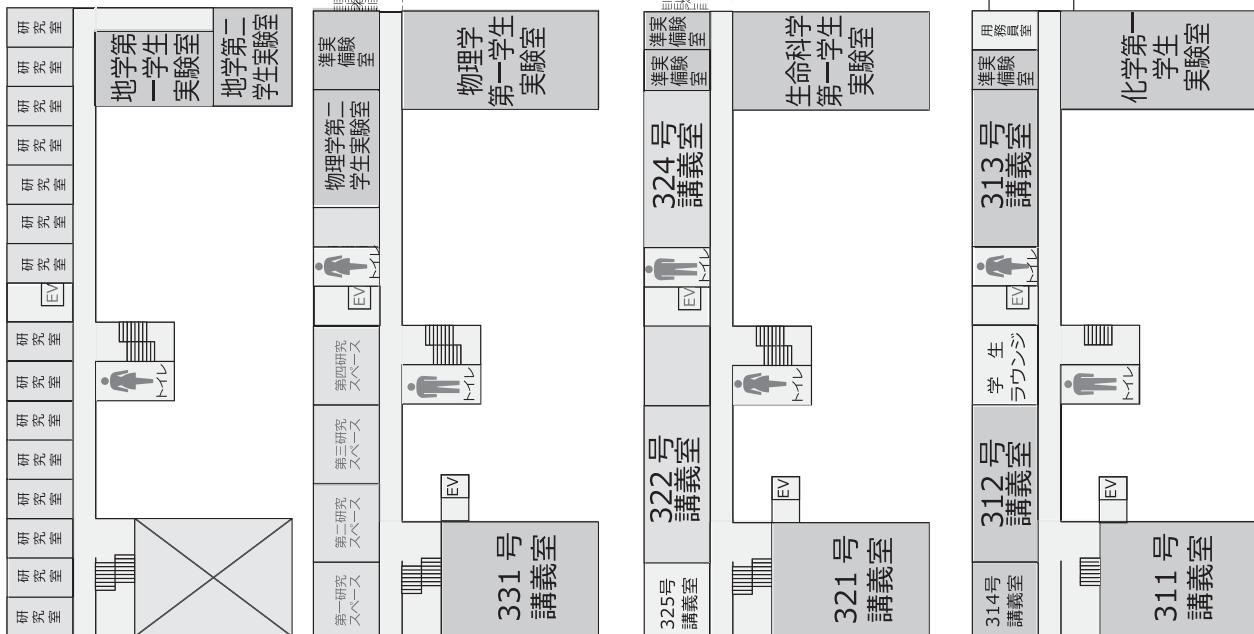
共通教育掲示板



共通教育棟 2号館

共通教育棟 4号館

共通教育棟 3号館



附属図書館

共 通 教 育 科 目 時 間 割 表

令和4年度入学 授業時間割 [1期(第1ターミン):2022年4月～2022年6月]

令和4年度入学生 授業時間割 [1期(第2ターミン):2022年6月~2022年8月]

※ [注]の料目は、第2タームのみで授業が完結します。

令和4年度入学生 授業時間割 [2期(第3ターム):2022年10月～2022年12月]

※ [連]の科目は、第3チームのみで授業が完結します。

令和4年度入学生 授業時間割 [2期(第4ターム):2022年12月～2023年2月]

※【注】の科目は、第4タームのみで授業が完結します。

令和4年度入学生 授業時間割 [3期(第1～2ターム):2023年4月～2023年9月]

令和4年度入学生 授業時間割 [4期(第3～4ターーム):2023年10月～2024年3月]

学部 組		第1回												第2回												共回数	
番号	学科・課程等	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2
月	人文科学系 (法英社会学科) ・ (法英社会学科) 経済社会学科	8:50 ~ 10:20	10:20 ~ 12:00	12:00 ~ 12:30	12:30 ~ 14:20	14:20 ~ 14:30	14:30 ~ 16:00	16:00 ~ 16:10	16:10 ~ 17:40	17:40 ~ 8:50	8:50 ~ 10:20	10:20 ~ 12:00	12:00 ~ 12:30	12:30 ~ 14:20	14:20 ~ 14:30	14:30 ~ 16:00	16:00 ~ 16:10	16:10 ~ 17:40	17:40 ~ 8:50	8:50 ~ 10:20	10:20 ~ 12:00	12:00 ~ 12:30	12:30 ~ 14:20	14:20 ~ 14:30	14:30 ~ 16:00	16:00 ~ 16:10	16:10 ~ 17:40
火	人文科学系 (法英社会学科) ・ (法英社会学科) 経済社会学科	8:50 ~ 10:20	10:20 ~ 12:00	12:00 ~ 12:30	12:30 ~ 14:20	14:20 ~ 14:30	14:30 ~ 16:00	16:00 ~ 16:10	16:10 ~ 17:40	17:40 ~ 8:50	8:50 ~ 10:20	10:20 ~ 12:00	12:00 ~ 12:30	12:30 ~ 14:20	14:20 ~ 14:30	14:30 ~ 16:00	16:00 ~ 16:10	16:10 ~ 17:40	17:40 ~ 8:50	8:50 ~ 10:20	10:20 ~ 12:00	12:00 ~ 12:30	12:30 ~ 14:20	14:20 ~ 14:30	14:30 ~ 16:00	16:00 ~ 16:10	16:10 ~ 17:40
水	人文科学系 (法英社会学科) ・ (法英社会学科) 経済社会学科	8:50 ~ 10:20	10:20 ~ 12:00	12:00 ~ 12:30	12:30 ~ 14:20	14:20 ~ 14:30	14:30 ~ 16:00	16:00 ~ 16:10	16:10 ~ 17:40	17:40 ~ 8:50	8:50 ~ 10:20	10:20 ~ 12:00	12:00 ~ 12:30	12:30 ~ 14:20	14:20 ~ 14:30	14:30 ~ 16:00	16:00 ~ 16:10	16:10 ~ 17:40	17:40 ~ 8:50	8:50 ~ 10:20	10:20 ~ 12:00	12:00 ~ 12:30	12:30 ~ 14:20	14:20 ~ 14:30	14:30 ~ 16:00	16:00 ~ 16:10	16:10 ~ 17:40
木	人文科学系 (法英社会学科) ・ (法英社会学科) 経済社会学科	8:50 ~ 10:20	10:20 ~ 12:00	12:00 ~ 12:30	12:30 ~ 14:20	14:20 ~ 14:30	14:30 ~ 16:00	16:00 ~ 16:10	16:10 ~ 17:40	17:40 ~ 8:50	8:50 ~ 10:20	10:20 ~ 12:00	12:00 ~ 12:30	12:30 ~ 14:20	14:20 ~ 14:30	14:30 ~ 16:00	16:00 ~ 16:10	16:10 ~ 17:40	17:40 ~ 8:50	8:50 ~ 10:20	10:20 ~ 12:00	12:00 ~ 12:30	12:30 ~ 14:20	14:20 ~ 14:30	14:30 ~ 16:00	16:00 ~ 16:10	16:10 ~ 17:40
金	人文科学系 (法英社会学科) ・ (法英社会学科) 経済社会学科	8:50 ~ 10:20	10:20 ~ 12:00	12:00 ~ 12:30	12:30 ~ 14:20	14:20 ~ 14:30	14:30 ~ 16:00	16:00 ~ 16:10	16:10 ~ 17:40	17:40 ~ 8:50	8:50 ~ 10:20	10:20 ~ 12:00	12:00 ~ 12:30	12:30 ~ 14:20	14:20 ~ 14:30	14:30 ~ 16:00	16:00 ~ 16:10	16:10 ~ 17:40	17:40 ~ 8:50	8:50 ~ 10:20	10:20 ~ 12:00	12:00 ~ 12:30	12:30 ~ 14:20	14:20 ~ 14:30	14:30 ~ 16:00	16:00 ~ 16:10	16:10 ~ 17:40

_____年度(前・後)期

履修申請表(ワークシート)

学部・学科	
学籍番号	
氏名	

履修申請 単位数の合計	単位
----------------	----

	月	火	水	木	金																				
1限	時間割コード <table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>				
科目名 ()	()	()	()	()																					
担当教員・授業教室																									
2限	<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table> ()					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>				
3限	<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table> ()					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>				
4限	<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table> ()					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>				
5限	<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table> ()					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					<table border="1"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>				

※()内は、単位数を記入してください。

欠席届

年 月 日提出

年度入

学部

学科

組

学籍番号：_____

ふりがな：_____

氏名：_____

授業科目	(曜日 時限)
教員名	教員
欠席期間 自 至	年 月 日 年 月 日
欠席理由	病気() その他()

上記のとおり欠席しますので、お届けします。

令和4年度前期分

共通教육シラバス

シ ラ バ ス 目 次

	ページ
◎初年次教育科目.....	8 9
○初年次セミナー I	8 9
○大学と地域	8 9
○体育・健康（理論・実習）	8 9
○情報活用	9 0
◎グローバル教育科目.....	9 1
○英語	9 1
○異文化理解	9 1
◎日本語・日本事情科目.....	9 2
◎教養教育科目（教養基礎科目）.....	9 3
○教養基礎科目（人文・社会科学分野）	9 3
・初修外国語	9 3
・選択科目	9 4
○教養基礎科目（自然科学分野）	1 0 2
・教育職員免許状取得に係る実験科目	1 0 2
・選択科目	1 0 3
・基礎教育入門科目	1 0 7
◎教養教育科目（教養活用科目）.....	1 0 9
○統合 I（課題発見）	1 0 9
○統合 II（課題解決）	1 1 2
◎学芸員資格科目（卒業要件外）.....	1 1 9
※資格取得希望者のみが対象	

(注) このシラバスは、記載項目を簡略したものですので、授業担当教員ごとの詳細なシラバスや後期科目についてはWebシラバスで確認してください。

「鹿児島大学ホームページ」→「在学生の皆さま」→「学部等の講義概要（シラバス）」
→「共通教育センター」で閲覧できます。

1-1. 初年次教育科目

授業科目名	初年次セミナーI	担当教員	1-1. 初年次教育科目	科目形態	開講区分	単位	
		富山清升 他	初年次セミナー I	講義	毎週	2	
授業概要	初年次セミナーIは、大学生としての基本的姿勢と市民性の理解を目指した「スチューデント・スキル」を題材としながら、基礎的なプレゼンテーション力を身につけることを目的とする科目です。スチューデント・スキルでは、大学生としてのキャリアデザインのほか、科学や研究に関する倫理、労働・消費者問題や人権といった現代社会が抱える諸課題について扱います。約30人程度の学部混成型クラス編成で、多様な興味・関心を持つ他者とのグループ活動を基盤とするアクティブラーニング型授業です。大学での学習は、様々な問題の中から自ら課題を発見し、適切な情報を収集・精査して活用し、合理的な解決策を導き出していくことが求められます。この科目は、そのための基礎の基礎を育成する科目といえます。まずは、大学での学びをより意義のあるものにするための力を養いましょう。						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を発見し、その解決に向けて検索・収集した資料を分析・整理し、自ら考えつつ、適切で妥当な結論に至ることができる。 グループ活動に積極的に参加し、他者と協力して作業を進めることができる。 調べた内容や自分の考えを、効果的に説明出来る。 大学生として、自立した市民性についての基本的知識や態度を理解し、身につけている。 						
成績評価	成績は、以下の割合を目安として総合的に評価する。 ・学習の取り組み方(小課題の提出):20% ・必修小テスト:10% ・グループプレゼンテーション:50%(相互評価を含む) ・最終レポート:20%	受講要件		全学の必修科目になっています。			

授業科目名	大学と地域	担当教員	1-1. 初年次教育科目	科目形態	開講区分	単位	
		今井 裕 他	大学と地域	講義	毎週	2	
授業概要	<p>▼授業形態(対面・オンライン)については後日告知する。</p> <p>▼鹿児島という地域を題材に授業を進め、鹿児島について知り、理解する。ただし、鹿児島に関する知識の暗記は求めない。</p> <p>▼本授業でより重要視されるのは、論理的思考力、情報収集・分析能力等の大学生に求められる基礎的な能力を身につけることである。知るだけで終わるのではなく、さらに考えることが求められる。</p> <p>▼第1回授業にてガイダンスを実施する。第2回授業以降は、全12回の話題提供講義に基づく個人の学び、それに続く意見交換によるグループでの学びを実施する。第15回授業終了後には最終レポートを作成する。</p>						
学習目標	Webシラバスで確認してください						
成績評価	以下の割合を目安として総合的に評価する。 毎回授業の振り返り : 52点 グループワークへの取り組み : 8点 最終レポート : 40点	受講要件		特になし			

授業科目名	体育・健康科学理論	担当教員	1-1. 初年次教育科目	科目形態	開講区分	単位	
		石走知子 他	体育・健康 (理論)	講義	毎週	1	
授業概要	1. この授業の目的は、大学において充実した生活を送り、さらに生涯にわたって豊かな人生を送るために、身心の健全な育成と健康の増進が不可欠であるため、身心の基本的な機能やその適応能力について理解し、健康づくりに重要な運動、栄養、休養、休養のライフスタイルのあり方について、生活中で実践できるようになることである。 2. 授業内容としては、まずわが国の健康の現状から、現代日本人が共通に気をつけるべき健康問題を把握し、このような健康問題への対処法を、主として運動、栄養、休養の観点から提示し、日常生活での実践に結びつけられるようアンケートやグループワークで理解を深める。 3. 授業方法は、時間ごとに内容に関わる資料をmanaba「コラボレーション」から配信し、これとスライド教材を組み合わせて、全8回の講義を遠隔講義形式（リアルタイム）で実施する。						
学習目標	(1) 日常生活における体育や健康の重要性について認識を深めることができる。 (2) 運動習慣と健康や体力の関係について理解することができる。 (3) 運動、栄養、休養などを柱とした望ましいライフスタイルを形成することができる。 (4) 自身の健康管理を行う態度と方法を身につけることができる。 (5) 現代人の健康の現状について理解することができる。						
成績評価	授業取り組み状況80%(毎回の授業後に講義後アンケート・ミニレポートを提出する)、最終レポート20%で評価する。	受講要件		特になし			

授業科目名	体育・健康科学実習	担当教員	1-1. 初年次教育科目	科目形態	開講区分	単位	
		福満博隆 他	体育・健康 (実習)	実習	毎週	1	
授業概要	「体育・健康科学理論」で学習した身体の機能とその適応性や健康と運動の関係などを背景に、本実習では実習ノートをもとに、各自の身体能力について測定し、自己の形態や体力の現状を把握する。そして、具体的な健康づくりに適した運動を安全に実施するための方法を学ぶ。健康づくりの運動を行うための知識、技能、態度・習慣を身につけることができるよう、課題レポートを提出する。						
学習目標	1) 健康に関わる運動の要素について理解し、説明することができる。 2) 自己の形態や体力について客観的に把握することができる。 3) 手軽に実施できる健康新体操と筋力を効果的に高めるトレーニング法について理解し、実施することができる。 4) 運動強度と心拍数の関係を把握し、適切な運動強度を設定する方法について理解し、説明することができる。 5) ウォーキング、ジョギングの適切な実施方法を理解し、実施することができる ※その他詳細はWebシラバスを参照						
成績評価	対面授業への取り組み態度50%、ウォーキングと筋力とスポーツのレポートの提出40%、自学自習のレポート及び、遠隔授業後のミニッツペーパーの提出10%	受講要件		運動するにあたり、特別に配慮すべき要件のある学生は、事前に障害学生支援センターへ申請すること。			

1-1. 初年次教育科目

授業科目名	情報活用	担当教員	1-1. 初年次教育科目	科目形態	開講区分	単位
		大野裕史 他	情報活用	講義	毎週	2
授業概要	パソコンコンピュータの操作、情報セキュリティに関する知識、そしてインターネットを利用した情報の発信・収集といったコンピュータおよび通信ネットワークを活用する能力は、高度情報化社会の現代に生きる我々にとって身に付けるべき重要な基本的な技能・知識の一つである。本授業では、このようなコンピュータおよび通信ネットワーク並びに情報セキュリティに関する基礎知識を修得し、加えてAI社会に対応するために必要な数理・データサイエンス・AI（以下、DS）の基礎知識を習得することを目的とする。授業は端末を使用した演習を多く含み、担当教員や教育補助員（Teaching Assistant等）が演習をサポートする。DS教育の一環として情報科学に関する基本情報の収集手法や収集したデータの統計学的見方の基礎を学ぶ。さらにDS分野における応用例の現状、ビッグデータが活用されている社会の状況、数理データサイエンスAIによる分析が一般社会活動で必要不可欠になっている現状についても学ぶ。					
学習目標	(1)コンピュータの概要を理解し、基本操作を修得する。(2)情報倫理および情報セキュリティに関して十分な知識を修得する。(3)ネットワーク上のマナーを身につけ、電子メールによる情報交換やWWWを利用した情報収集・検索ができる能力を修得する。(4)文書作成、表計算、プレゼンテーションアプリケーションの基本機能を学習し、効果的に使用できる能力を修得する。(5)数理データサイエンスの基礎知識を修得する。(6)獲得知識を総合的に発揮し、課題解決に対応できる能力を修得する。					
成績評価	課題（小テスト等も含む）の総合評価（100%）で評価する。 ただし、総合評価には2/3以上の出席および2/3以上の課題提出を必要とする。	受講要件	特になし			

2-1. グローバル教育科目

授業科目名	英語 I A (E L A I)	担当教員	2-1. グローバル教育科目	科目形態	開講区分	単位
		金岡正夫 他	英語	講義	毎週	1
授業概要	ELAコースは、高校レベルから大学レベルの英語にむけた、スムーズな移行的役割をもつ。「大学ならではの英語」「大学生に必要な英語」としてとらえ、学習を通して教養を深め、人格形成に努めていく。それらに役立つ内容（多様なものの見方、価値観、歴史的変遷、社会情勢、異文化に関する問題など）を理解し、考えを深める習慣を身につけ、大学1年間を通して視野の拡大と個の確立をめざす。前期のこの科目では、(1) 大学生としての自己発見と自己覚醒 (Self-Discovery and Self-Awareness) [Stage 1] (2) 大学生としてのアイデンティティ構築 (Self-Identity Development) [Stage 2] というプロセスで進めていく。					
学習目標	〔英語力〕(Reception – Interaction重視のスキル獲得) ※その他詳細はWebシラバスを参照					
成績評価	詳細はWebシラバスを参照			受講要件	詳細はWebシラバスを参照	

授業科目名	英語 I B (E G A P I)	担当教員	2-1. グローバル教育科目	科目形態	開講区分	単位
		金岡正夫 他	英語	講義	毎週	1
授業概要	EGAPコースはELAコース同様、高校レベルから大学レベルの英語にむけた、スムーズな移行的役割をもつ。EGAPでは大学生での所属（学部、学科）を軸に、専攻分野や学術上の専門領域に対する関心を、英語学習を通して高めていく。前半にあたるこの科目では、最初から専門性に目を向けるのではなく、その周辺・関連領域にまづ目を向け、広い視点から自分自身の所属（学部、学科）と専攻について考えていく学際的な視点を養う。「使う英語」「自己表現のための英語」を意識し、ライティングとスピーキング能力を統合的に習得し、内容と論理性にすぐれたコミュニケーション能力を獲得し、高めていく。同時にELAコースで習得するリーディング（音読）、リスニング（シャドウイング）のスキルをEGAPコースで活用していく。					
学習目標	〔英語力〕(Production重視のスキル獲得) ※その他詳細はWebシラバスを参照					
成績評価	詳細はWebシラバスを参照			受講要件	詳細はWebシラバスを参照	

授業科目名	異文化理解入門	担当教員	2-1. グローバル教育科目	科目形態	開講区分	単位
		大野克彦 他	異文化理解	講義	毎週	2
授業概要	目的：グローバルな時代に生きていることを改めて認識し、英語圏以外の多様な文化を理解し受容する態度、自文化をより深く知ろうとする姿勢、ものごとを複眼的に考察・判断できるような素地を涵養することを目的とする。なお、学部学科によっては初修外国语學習への動機付けも図る。内容：日本語、日本文化・日本事情、日本人のものの見方や考え方などと比較対照しながら、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語およびイスラーム圏の言語（クラスによりアラビア語またはトルコ語）の特徴やあいさつことばなどの日常表現、英語文化圏以外の地域の文化・風習・現代事情、各文化圏に住む人々のものの考え方・価値観・生活習慣、各文化圏に対する一般的なイメージ・固定観念・ステレオタイプの思考とそこから生じる偏見や誤解、授業担当者自身の異文化体験（当該言語文化を学ぶようになったきっかけ、異文化に触れて、あるいは異なる文化背景の人々と付き合う中で経験した驚き・感動・困惑・トラブルなどの実例）などを授業内容とする。方法：独語文化圏、仮語文化圏、中国語文化圏、韓国・朝鮮語文化圏、イスラーム文化圏に関する授業を各3回ずつの総合講義形式で行う。なお、今年度はコロナウィルス感染防止のため対面授業ではなく、遠隔（オンライン方式）で授業を行う。					
学習目標	1. グローバル化が進行する現代社会において、異なる文化・価値観・思考方法等を理解することの意義を認識することができ、かつ、その意義を説明することができる。2. 複眼的な視点からものごとを考え判断する力や、多様性を受け入れ異質性を楽しめる感性を身につけることができるとともに、異質な文化を持つ人々が共存することに対して積極的な態度をとることができる。3. 異文化理解を通して、自国の文化に関心を持ち理解を深めることができる。					
成績評価	毎回の授業の中で課すミニッペーパー（授業の理解度を測る小テスト、または、授業の要旨・感想・疑問点等を記入したもの）等で評価し、授業担当者5名の合計（20点×5=100点）を評点とする。※その他詳細はWebシラバスを参照			受講要件	全学部必修の授業です。必ず受講してください。	

3-1. 日本語・日本事情

授業科目名	日本語I	担当教員	3-1. 日本語・日本事情	科目形態	開講区分	単位	
		和田礼子 他		講義	毎週	1	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 第1、4、5回は対面で実施し、他の回は遠隔（リアルタイム）方式で実施する。 <p>目的：大学での勉学の土台となるアカデミックスキルを身に着ける。 内容：レジュメや課題作成に必要な、要約、引用、コメントシート作成等について学ぶ。 方法：外国人留学生が、第二言語としての日本語力を伸ばしながらスキルを身につけられるよう、実践的な課題に多く取り組む。</p>						
学習目標	1) アカデミック文章の特徴を理解し、説明することができる。 2) 日本の大学の講義形式や受講に必要な情報を確認し、説明することができる。 3) 情報検索の方法や特徴を理解し、情報を読み解くためのスキルを身につける。 4) 要約、引用、コメントシート作成等、日本語での記述スキルを身につけ、課題を作成することができる。 5) 論理構成の基礎となる論理性や根拠の提示について理解を深め、課題を作成することができる。						
成績評価	各回の課題40%：各授業で学んだ事を復習・練習する課題。運用力を評価。 期末課題30%：他者に伝わるアウトラインの作成を行う。適切さを評価。各授業の振り返り30%：各授業での学びをメタ的に振り返る課題。理解度を評価。	受講要件			原則として学部留学生・1年生を対象とする。（ただし、特別聴講学生は要相談） プレースメントテスト後、指定されたクラスを受講すること。		

授業科目名	日本語II	担当教員	3-1. 日本語・日本事情	科目形態	開講区分	単位
		中島 祥子 他		講義	毎週	1
授業概要	この授業では大学の学業生活に必要な日本語の技能の中から、レポートを書く技能をとりあげ、レポート作成に必要な様々な日本語の表現を学ぶことを目的とする。 授業は、基本的に教科書にそって行い、レポートの各構成部分で多用される文型を紹介し、使い方を説明したのち、練習問題や補足プリントにより表現の使い方を学ぶ。さらに、教科書の各課でとりあげた表現を利用した課題（宿題）を課す。豊富な練習と添削を通して、レポート作成に必要な表現を身に付けて行く。					
学習目標	(1)「課題の提示」を行なうことができる。(2)「目的的提示」を行なうことができる。 (3)「定義と分類」を行なうことができる。(4)「図表の提示」を行なうことができる。 (5)「変化の形容」を行なうことができる。(6)「対比と比較」を行なうことができる。 (7)「原因と考察」を行なうことができる。(8)「列挙」を行なうことができる。 (9)「引用」を行なうことができる。(10)「同意と反論」を行なうことができる。 (11)「帰結」を行なうことができる。※その他詳細はWebシラバスを参照					
成績評価	各課の宿題70%、最終レポート30%で総合評価する。	受講要件			原則として学部留学生の1年生を対象とする。	

授業科目名	日本事情A	担当教員	3-1. 日本語・日本事情	科目形態	開講区分	単位
		新内康子		講義	毎週	2
授業概要	全授業、遠隔形式（リアルタイム方式：Zoom）で行う。 1. 授業の目的は、留学生が日本の大学、日本社会で円滑な学生生活を送り、自分の目標を達成できるように、日本語能力を強化し、日本理解を深め、基本的な自己発信ができることがある。 2. 授業の内容は、日本の経済・金融・政治・行政・社会・生活に関するニュースを聞き取りその概要を理解するとともに、日本の状況と比較し自国の状況について口頭発表を行うことを主とする。 3. 授業の方法は、Zoomを用いた遠隔授業で、配布資料による講義・聴解、グループワーク、口頭発表（複数回）、小レポート・小テスト（複数回）などを行うことにより、総合的な学習能力の強化を図る。					
学習目標	(1)日本の文化・社会の諸相について説明できる。 (2)日本と自国と友人の国の文化・社会について、適切な日本語で説明ができる。 (3)日本と自国の異文化間摩擦の問題解決策を考えることができる。					
成績評価	小テスト:20%、宿題（小レポートなど）:30%、クラス活動（口頭発表を含む）:20%、最終レポート:30% の合計で総合評点とする。	受講要件		特になし		

4-1. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	初級独語I	担当教員	4-1. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位	
		大野 克彦 他	人文社会科学分野(初修外国語)	講義	毎週	2	
授業概要	授業の目的：ドイツ語の発音、初步的な語彙・文法・構文、挨拶・定型表現等を修得することを目的とする。 授業の内容：ドイツ語の音声を聞き発音の練習を行ったり、動詞の変化や冠詞の格変化等といった基本的かつ重要な文法事項について学習する。 授業の方法：教科書に基づいた講義、練習問題の実施と発表、及び、課題レポートを組み合わせた形式で行う。						
学習目標	(1) 文法・語彙など言語の構造的側面に関する基礎知識を身につける (2) 発音・聴解など言語の運用的側面に関する知識を身につける (3) 短い日常会話を聞き取って理解し、自らも話すことができるようになる						
成績評価	授業時の試験(複数回)と期末試験において、文法事項と語彙がどの程度まで習得されたか、コミュニケーション能力がどの程度まで獲得されたか、を確認し、評価します。また、つづりの読み方等に関して発音テストを実施し、その正確さを確認します。※その他詳細はWebシラバスを参照	受講要件	特になし				

授業科目名	初級仏語I	担当教員	4-1. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位	
		信友建志 他	人文社会科学分野(初修外国語)	講義	毎週	2	
授業概要	授業は遠隔形式で実施する。これはフランス語の基本的な知識を習得するための授業ですので、フランス語の発音、文法、基礎語彙などを、簡単な会話文と本文を通して学習することが授業の中心となります。またこれは入門の授業ですので、教室においてはまずなによりも、音声の聞き取り、口頭によるやりとり、文字による書き取りなどに馴染み、次の学習ステップである「初級仏語II」へ備えます。言語の学習は当然それが担う文化について学ぶことを含みます。フランス語は国際社会における有力言語の一つであり、「フランス語文化圏」という「英語文化圏」と並ぶ大きな世界を形成しています。世界がグローバル化という名の下に英語一極主義に陥る危険に曝されている現状において、多面的に世界を見るためのきっかけを学生に与えます。						
学習目標	フランス語の発音、基本語彙、基本文法、基本文型を習得し、フランス語による基礎的な読み書きと口頭による基礎的な意思疎通ができるようになる。						
成績評価	1. 小テスト 2. 前期、後期の二回の期末試験(平均60点以上) 3. 以上の2要件を頭に入れて試験前に何度も問い合わせないで済むようにすることの3要件を満たすこと	受講要件	なし				

授業科目名	初級中国語I	担当教員	4-1. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位	
		寺西光輝 他	人文社会科学分野(初修外国語)	講義	毎週	2	
授業概要	・対面授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド形式で実施する予定(ただし続く2限目の授業形態や学生の希望、感染状況、授業進行上の必要性などによって変更する場合がある)。【目的】基礎的な語彙や日常的で平易な会話表現を学びながら、初步的な中国語コミュニケーション能力(CEFR A1レベル)および、社会のグローバル化に対応できる資質や能力を育成することを目指す。【内容】「聞くこと」「話すこと(やりとり)」を中心しつつ、中国語の総合的能力を身につけていく。また、中国語圏の文化や社会についても取りあげる。【方法】各課で示された到達目標(Can-do)を目指し練習を進めていく。授業では、とりわけペアやグループでの練習を重視し、情報差を埋める活動や、インタビュー、ゲームなどを通してクラスメートとつながっていくなかで、実践的な中国語コミュニケーション能力を身につける。						
学習目標	・自分や他人を紹介することができ、姓名、年齢、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物、趣味、能力などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 ・もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれたり、翻訳ツールを用いたりすれば、簡単なやり取りをすることができる。 ・これらの能力を用いて、クラスメートや中国語母語話者、中国語圏の社会・文化とつながることができる。						
成績評価	中間試験・期末試験60%、パフォーマンス課題20%、授業への取り組み(ドリルやミニッツペーパー、授業内のパフォーマンス)20%で評価する。	受講要件	中国語母語話者の受講は不可。				

授業科目名	初級韓国語I	担当教員	4-1. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位	
		鄭芝淑 他	人文社会科学分野(初修外国語)	講義	毎週	2	
授業概要	この授業はすべて対面授業で行う。この授業の目的は、韓国語の運用に必要な知識と技能の基本を学習すると共に、日本語および日本文化との対比の観点から韓国韓国に対する理解を深めることにある。授業内容としては、ハングル(韓国文字)の創字原理を理解してその読み書きに習熟し、簡単な韓国語文の組み立て方、使い方について学習する。また、韓国語に反映されていると考えられる韓国の価値観についても随時学習する。教科書に基づいて学習するが、外国語の学習は単なる知識にとどまるのではなく実際に使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するようになり、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。※その他詳細はWebシラバスを参照						
学習目標	・ハングルを正しく確実に読み書きができる。 ・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読みし書くことができる。 ・基本的な日常の挨拶や簡単な自己紹介ができる。 ・韓国・韓国文化に対する理解を深める。						
成績評価	授業への取り組み状況(小テストなど)(20%)、課題(20%)、期末試験(60%: 音読試験20%、筆記試験40%)	受講要件	・韓国語を初めて習うやる気のある学生を対象とする。 ・なぜ韓国語を学びたいのかについて具体的に述べられるようにしておく。 ・授業に積極的に取り組む姿勢が求められる。				

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	アメーバ経営	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		劉美玲	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>授業目的：この講義の目的はアメーバ経営の基本のデザインと導入状況を理解することにある。</p> <p>授業内容：京セラ(株)は創業以来一度も赤字を出したことなく、成長性と収益性を両立してきた。その理由の一つは「アメーバ経営」にあると言われている。この講義は、主に管理会計の観点から、アメーバ経営を解説する。一方、広義のアメーバ経営は、管理会計的要素、組織的要素、稻盛フィロソフィーを含み、三者が相互補完的に機能を發揮する。アメーバ経営を包括的に理解してもらうために、必要に応じて組織論(組織構造や組織文化)の内容も含む。また、アメーバ経営は、京セラグループだけではなく、多くの日本企業や海外企業にも導入されている。これらの企業へのアメーバ経営の導入状況を理解してもらうために、導入の概要や事例を講義内容に含む。</p> <p>授業方法：パワーポイントを使って講義する。</p>					
学習目標	1. 一般的な管理会計の仕組みが理解できること。 2. アメーバ経営における管理会計の仕組みが理解できること。 3. アメーバ経営の導入状況が理解できること。 4. 管理会計やアメーバ経営の知識を(サイクル活動など)活用できること。					
成績評価	フィードバックレポート(40%) 小課題(30%) 期末レポート課題(30%)		受講要件	経営学に興味を持っていること。特にアルバイト、サークル活動などにおいてリーダーや責任者を担当する方に役立つかと考える。		

授業科目名	医学・行動心理学入門	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		柏谷英樹	人文社会科学分野(選択科目)	講義	集中	2
授業概要	<p>授業の目的は、実験動物の脳の仕組みを学ぶことを通じてヒトを含めた動物に共通な心理・行動の生物学的基盤を理解することである。</p> <p>授業の内容は、同じ日に同じ教室で開講される実験医学・行動心理学を受講するに当たって必要な基礎知識である。合計4単位が取得できる。</p> <p>授業の方法は、教員による講義と学生自身によるプレゼンテーションである。</p>					
学習目標	実験行動心理学研究で多用される基本的な実験手技の原理が説明できる。仮説設定・検証実験・修正した仮説の再設定というサイクルで行われる科学研究の基本方法が実行できる。実験から得られた結果を基に自ら立てた疑問を解決できる。					
成績評価	レポート(50%)と授業への参加態度(50%)		受講要件	医学・行動心理学に興味を持ち、実験を体験したい学生。高等学校の生物習得程度の基礎知識を持っていることが望ましい。		

授業科目名	稻盛和夫の経営哲学(I)	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		吉田健一	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 全15回の授業を対面形式で実施する。 <p>1. 授業の目的は、経営のベースとなる経営哲学について、現代日本の代表的経営者であり、本学工学部の卒業生である稻盛和夫氏の思想を理解することである。経営哲学の意義と、そのるべき内容を理解することが本講義の目的である。</p> <p>2. 授業の内容は、稻盛氏の経営哲学の集成である『京セラフィロソフィ』を熟読し、経営学、思想、宗教、人間観の知識を総動員し、担当者が解説を加えていく。</p> <p>3. 授業の方法は、毎時間、『京セラフィロソフィ』を担当者が解説し、受講生にはフィードバックシートを提出して頂く。次の時間にフィードバックシートの代表的な意見を紹介し双方方向性を高めた講義を行う。</p>					
学習目標	1.なぜ、経営に哲学が必要なのかを説明できる。 2.経営哲学とは、どのようなものでなければならないのかを説明できる。 3.経営者は、いかにあるべきかを説明できる。 4.経営哲学を、組織内で共有するためにどうすればいいのかを説明できる。 5.経営哲学がいかなる可能性を開くかを説明できる。					
成績評価	毎回のフィードバックシートの提出(50%)、期末レポート(50%)。		受講要件	経営哲学及び稻盛氏の経営思想に関心をもっていることが望ましい。なお、後期開講の「稻盛和夫の経営哲学(II)」は本講義の続きの内容である。後期の「II」もセットで受講してくれることが望ましい。		

授業科目名	稻盛和夫のベンチャー企業論	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		吉田健一	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 全15回の授業を遠隔形式で実施する。 <p>この授業の目的は、将来、起業または企業経営を目指す学生に、どのようにして会社を経営し成長させていくか、企業経営に必要なマインド及び会社経営の考え方について、基礎的な理解を図ることである。本講義では本学工学部の卒業生である稻盛和夫氏(京セラ株式会社名誉会長、日本航空名誉顧問)と盛和塾(稻盛氏に学ぶ経営塾)の塾生との間答録をテキストとして使用する。授業内容としては、稻盛和夫氏の経営観を学習するとともに、企業経営を超えた基本的な人間観についても学習する。授業は配布資料等による講義を中心とし、毎時間、講義の後にA4、1枚のフィードバックシートを提出していただく。本講義は稻盛アカデミーの専任、特任教員である吉田、牧原、劉の3人が共同で担当する。</p>					
学習目標	1. 企業経営者に求められる資質への理解を深めること。 2. 企業を成長させるためには、何を構築していくかを理解すること。 3. 起業の意義と大義ある目的を掲げることの重要性を理解すること。 4. 起業の意義を経済活性化に及ぼす影響についての観点から理解すること。					
成績評価	毎回のフィードバックシートの提出(50%)、期末レポート(50%)。レポート提出の要件は3分の2以上の出席。		受講要件	企業経営に関心があることが望ましい。眞面目に全ての回を受講する意思のある方。		

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	鹿児島探訪－歴史－	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位	
		日隈正守	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 授業は遠隔形式で実施する。 <p>現在の鹿児島県域における古代から近世にかけての歴史的展開を、史・資料を読み解きながら講義形式で概観する。</p>						
学習目標	<p>今日、常識とされていることでも、歴史的由来をたずねると案外その根拠が乏しいことが多い。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 虚心坦懽に史料から先人の残したメッセージを読み取ることが出来る。 (2) 鹿児島の歴史的歩みを理解する。 (3) 現代の諸問題に対応する能力を身につけることが出来る。 						
成績評価	授業への参加態度(3割)と学期末試験(7割)で評価する。	受講要件		特になし			

授業科目名	韓国語入門I	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位	
		鄭芝淑	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	1	
授業概要	<p>この授業はすべて対面授業で行う。この授業の目的は、韓国語の運用に必要な知識と技能の基本を学習すると共に、日本語および日本文化との対比の観点から隣国韓国に対する理解を深めることを目的とする。授業内容としては、ハングル(韓国文字)の創字原理を理解し、その読み書きに習熟すると共に、簡単な韓国語文の組み立て方、使い方について学習する。また、韓国語に反映されていると考えられる韓国の価値観についても随時学習する。教科書に基づいて学習するが、外国语の学習は単なる知識にとどまるのではなく実際に使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。※その他詳細はWebシラバスを参照</p>						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ハングルを正しく確実に読み書きができる。 簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。 基本的な日常の挨拶や簡単な自己紹介ができる。 韓国・韓国文化に対する理解を深める。 						
成績評価	授業への取り組み状況(小テストなど)(20%)、課題(20%)、期末試験(60%)	受講要件		初修外国语が必修の学部学生は、初修外国语と異なる言語のみ履修可能。・韓国語を初めて習うやる気のある学生を対象とする。・なぜ韓国語を学びたいのかについて具体的に述べられるようにしておく。・授業に積極的に取り組むこと。			

授業科目名	韓国語入門II	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位	
		鄭芝淑	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	1	
授業概要	<p>この授業はすべて対面授業で行う。この授業の目的は、韓国語の運用に必要な知識と技能の基本を学習すると共に、日本語および日本文化との対比の観点から隣国韓国に対する理解を深めることにある。授業内容としては、簡単な韓国語文の組み立て方、使い方について学習する。また、韓国語に反映されていると考えられる韓国の価値観についても随時学習する。教科書に基づいて学習するが、外国语の学習は単なる知識にとどまるのではなく実際に使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。※その他詳細はWebシラバスを参照</p>						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。 日常よく使われる簡単な單語や文を使うことができる。 韓国語の学習を通じて、その背景にある韓国事情・韓国文化を理解することができる。 						
成績評価	授業への取り組み状況(小テストなど)(20%)、課題(20%)、期末試験(60%: 音読試験20%、筆記試験40%)	受講要件		初修外国语が必修の学部学生は、初修外国语と異なる言語のみ履修可能。・「韓国語入門I」を履修したか、それと同等の韓国語能力を有すること。・授業に積極的に取り組むこと。			

授業科目名	教育社会学入門	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位	
		小林 元氣	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2	
授業概要	<p>・全15回の授業は原則的に対面形式で実施する。・コロナウィルスの感染拡大により対面実施が難しい場合は、Zoomによるリアルタイム配信にて行う。教育社会学は、教育に関する様々な現象を、社会的背景と関連づけながら分析的に捉えようとする学問である。その分析対象は、例えば教育が個人や社会にもたらす利益(社会的に権威のある大学を卒業すれば良い仕事に就ける?)や教育をめぐる格差(なぜ鹿児島県の女子の大学進学率は低くなる?)、学校空間での権力関係(「リア充/陰キャ」というカテゴリーはなぜ生じる?)、若者の逸脱行動(ヤンキーはなぜ反抗する?)など、非常に多岐に渡る。私たちが教育というテーマについて考えるとき、これまでの人生において誰もが教育をすでに経験しているために、自分の経験や身近な人たちの価値観に基づいて理解しがちになる。この講義では、教育社会学の基礎的な理論や概念、分析事例について学ぶことで、現代社会における教育に関わる現象に対して多角的・批判的に考察する力を身につけ、教育をめぐる社会的公正について考察することを目的とする。※その他詳細はWebシラバスを参照</p>						
学習目標	<p>(1) 教育に関する諸事象に対して、多角的・批判的に考察することができる。 (2) 自身の生活圏の外部にいる異質な他者の存在を理解し、鳥瞰的視点から社会的公正について考察することができる。</p>						
成績評価	毎回の事前・事後課題等(50%)、最終レポート(50%)により評価する。	受講要件		<ul style="list-style-type: none"> 全学部の1~2年生を受講対象とする。 再履修は不可とする。 専門的な知識は不要である。社会のあり方や自身と異なる価値観を有する他者に対して関心を持ち、講義の中で積極的にコミュニケーションを取り意志のある 			

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	現代の日本政治	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		吉田健一	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>・全15回の授業を対面形式で実施する。1. 授業の目的は、我が国の戦後政治史の知識を得た上で、今日の課題への理解を深めることである。2. 授業の内容は、大きく2期に分かれる。1回目「はじめに-政治とは？」から7回目「利益団体・社会集団・ネットワーク」までは、基本的な知識を伝授する。8回目から15回目までは、戦後の我が国の政治史を、主要政党の歴史に焦点を当てて概観する。本講義は「現代の日本政治」であるが、現在起こっている事の時事解説を直接的に行うものではない。現在起こっていることへの理解を深めるためにはある程度、歴史的な視点が必要であるという観点から、本講義では、前半では、政治を見る際の視点に触れた、後半では、我が国の現代政治について学ぶ。3. 授業の方法は、配付したオリジナルテキストを使いながら解説していくが、随時、補足資料も配付する。本講義では、発表や討論は予定していないが受講生のフィードバックシートに書かれた意見を紹介しながら、検討する時間を何回かは設けたい。</p>					
学習目標	<p>1. 政治学の基本概念をある程度まで解説できる。 2. 戦後の我が国の政治史の流れの概略を解説できる。 3. 現代日本政治の抱える政策課題についての意見を表明できる。 4. 日々の政治ニュースを独自の視点で見ながら、自身の見解を周囲に解説できる。 5. 民主社会の一員として、主体的に世の中を作りに行くことの意義を考え、結果として、自ら公共の課題について自分なりの価値観によって政策を判断できる。</p>					
成績評価	毎回のフィードバックシートの提出(50%)、期末レポート(50%)。	受講要件	<p>公共政策、現代政治の諸課題に関心をもっていること。選挙、政策、政治思想、政党制、地方自治、国際政治、外交、メディア、官僚制など何でも良いので何か1つ特定のテーマに関心を持っていることが望ましい。※その他詳細はWebシラバスを参照</p>			

授業科目名	行動科学	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		横山春彦	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>授業はオンデマンド形式で進めますが、事情により授業形態を変更する可能性もあります。その際は適宜連絡します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業の目的：生きているヒト・動物の行動について理解と関心を持つ。 授業の内容：ヒト・動物の持つ環境への適応行動やメカニズムを学ぶ。 授業の方法：具体的な行動の例を視覚的な材料を用いてわかりやすく解説。 					
学習目標	<p>以下の3点を目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ヒト・動物の様々な行動について理論的な説明ができる。 ヒト・動物の行動に対する様々な疑問について仮説を立てることができる。 ヒト・動物の行動とその仮説について初步的なデータ収集ができる。 					
成績評価	期末試験の成績(60%)、コメントペーパーへの記載(20%)、受講態度等(20%)の比率で総合的に判断し、評価する。	受講要件	なし			

授業科目名	古代東アジアの王陵	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		橋本達也	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>原則として講義室での対面形式で実施。対面が困難な状況の場合は、Zoomを利用したオンライン形式で行う。その際はmanabaで案内する。目的：1. 大型墳墓を素材として古代東アジアの遺跡・考古学研究の知識を得る。2. 東アジアの墳墓遺跡と国家形成の考古学研究について概要を理解する。3. 日本という国がどのように生まれてきたのか、どのような特徴をもっているのかを理解する。内容：日本列島の古代、西暦3~6世紀には権力者のための墓として巨大な前方後円墳を造る社会が存在した。この前方後円墳はどういった存在だったのかを解説する。日本古代の古墳時代を同時代の東アジア社会と比較する。人類史的に巨大なモニュメントにはどのような意味があったのかを考える。それには王墓の構造や副葬品の考古学研究で明らかにされつつある成果を紹介する。これらを通して日本という国が形成過程に関わる特質を理解する。方法：スライドを中心とした講義。</p>					
学習目標	<p>考古学的な手法で日本古代の国家形成過程について学ぶ。 国家形成過程における東アジア社会との関係性を理解する。 巨大墳墓の比較から日本列島の古代国家と韓国・中国の各地域に形成された古代国家との歴史的特質について理解する。 さまざまな時代の墓を素材とした考古学研究から歴史の復原方法について理解する。</p>					
成績評価	期末試験85%、授業への参加態度15% 試験は講義内容の理解度をはかる記述式。	受講要件	歴史、とくに古代史に興味があること。			

授業科目名	自然学校へ行こう	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		井倉洋二	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>自然学校へ、ようこそ！ 自然体験や暮らしの体験を通じた教育活動をベースにしながら、地域の資源を活かし、新たな価値を創造し、ソーシャルビジネスを興していくことで持続可能な農山村社会をつくっていく一連の活動や組織を「自然学校」と呼ぶ。豊かで持続的な未来社会を創造するための新しい方法として、注目され始めている「仕事」である。この授業では、そんな自然学校の世界を知つてもらうことを目的に、九州各地で活動する自然学校の経営者たちを迎えて、そこでの取組と熱い想いを語ってもらう。この授業は、あなたの人生を変えるかもしれません！ 1. 授業の目的は、自然学校について知り、将来の仕事を考えるきっかけとすること。 2. 授業の内容は、自然学校経営者の話を聞くこと。 3. 授業の方法は、毎回の講義とその感想レポートによる。</p>					
学習目標	<p>1)自然学校について理解できる。 2)豊かで持続可能な農山村社会について考察することができる。 3)自然学校の活動に参加し、持続可能な社会と自らの「仕事」を切り拓いていく意欲を持つことができる。</p>					
成績評価	毎回のレポートと出席態度を80点、期末レポートを20点で評価する。	受講要件	自然体験、環境教育、持続可能な社会作りなどに興味がある人、タイトルを見て面白そうと思った人			

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	自然学校へ行こう 実践編I	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		井倉洋二	人文社会科学分野(選択科目)	実習	集中	2
授業概要	前期講義「自然学校へ行こう」を受講し、自然学校に実際に活動してみたい学生が、「自然学校へ行こう」のゲスト講師等が経営する九州各地または全国各地の自然学校等において、参加・体験活動(原則として7日間以上)を行うものである。なお、本授業を経てさらに深く実践的に学びたい学生は、「自然学校インターンシップ」を受講することができる。 1. 授業の目的は、自然学校での体験を通じて、自然学校の意義や活動内容を理解することである。 2. 授業の内容は、各地の自然学校(教員が紹介します)へ行き、活動に参加すること。 3. 授業の方法は、7日間以上の体験活動と、それをまとめたレポート作成および発表による。					
学習目標	自然学校での体験を通じて、自然学校の意義、活動内容等について理解できる。					
成績評価	受講態度60点、期末レポートおよび発表会40点			受講要件	前期講義「自然学校へ行こう」を受講している者、受講済みの者、もしくはそれと同等の知識がある者	

授業科目名	実験医学・行動心理学	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		柏谷英樹	人文社会科学分野(選択科目)	講義	集中	2
授業概要	授業の目的は、実験動物の脳の仕組みを学ぶことを通じてヒトを含めた動物に共通な心理・行動の生物学的基盤を理解することである。実験を通じて、本を読んだだけではわかり難い医学・心理学の最先端の知識を具体的なイメージを伴って体得する。実験内容は、答えが予想できる実習形式のものから始め、最先端の未知の領域にも挑戦する。同じ日に同じ教室で開講される医学・行動心理学入門を受講することで合計4単位が取得できる。授業の方法は、各自が選択した課題を解決のための実験の遂行である。					
学習目標	実験行動心理学研究で多用される基本的な実験手技を説明し実践できる。仮説設定・検証実験・修正した仮説の再設定というサイクルで行われる科学研究の現場を体験することによって、「未知への挑戦」のが実行できる。各自が選択した課題が解決できる。					
成績評価	レポート(50%)と授業への参加態度(50%)			受講要件	医学・行動心理学に興味を持ち、実験を体験したい学生。高等学校の生物習得程度の基礎知識を持っていることが望ましい。	

授業科目名	障害児教育入門	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		山口浩明	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	全15回の授業をリアルタイム配信(Zoom)の遠隔授業で実施する。 講義資料はmanabaに掲載し、小テストや課題レポートもmanabaで配信する。 1. 講義の目的は、障害児教育における子ども理解と現在の障害者を取り巻く動向や理念を学ぶことを通して、障害児者の人権・インクルーシブ教育・合理的配慮や共生社会について理解を深める。 2. 具体的内容としては、特別支援教育の時代となった現在の障害者を取り巻く変化を、教育面や地域社会、福祉の分野の分野の分野等から説明し、障害児者に対する理解を深める。 3. 授業はリアルタイム配信(Zoom)による講義と自己演習、毎回のアンケートによる学習の振り返りなどを組み合わせた形式で行う。また、毎回障害児者に関する映画や番組などを紹介し、イメージをもって理解を促す。					
学習目標	1. インクルーシブ教育の理念について説明できる。 2. 障害児の理解と支援の概要について説明できる。 3. 障害のライフステージと教育・福祉・保健の概要について説明できる。 4. 障害児とのかかわり方について説明できる。					
成績評価	授業への参加態度・アンケートによる学習の振り返り(30%)、課題レポート(70%)			受講要件	特になし	

授業科目名	貞觀政要を読む－帝王学入門－	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		吉田健一	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	・全15回の授業を対面形式で実施する。この授業の目的は、古来、帝王学の教科書ともいわれた『貞觀政要』を読むことにより、組織のリーダーに必要な資質及リーダーを支える人間に必要な資質について考え、理解を深めることである。『貞觀政要』とは「貞觀の治」(627年～649年)とよばれている中国史上、最も平和な治世を実現した唐の太宗皇帝(李世民: 598～649)と名臣たちの政治問答集である。『貞觀政要』は中国のみならず、日本においても北条政子や徳川家康、近くは明治天皇などに読まれてきた書物であり、組織の上に立つものにとって必要なことが説かれている。また、この書は、リーダーは如何にあるべきかということのみならず、リーダーを支える側近が如何にリーダーに諫言を行うか、人材の登用を如何に行うか、後継者はどのように育成すべきかなどについても論じられている。帝王学という言葉は、たまに聞く言葉であっても、正確に理解されていない言葉でもある。また、社会では誤解されている面もある。本講義で、その誤解を正すことも含め、本当にリーダーに必要な資質について考え、理解を深めるため実際の『貞觀政要』をデキストとして使用する。※その他詳細はWebシラバスを参照					
学習目標	1. 『貞觀政要』という書物の概要を説明することができるようになる。 2. 人を治めるリーダー、組織のトップにとって真に必要な資質を理解する。 3. リーダーを支える立場の人間にとつて真に必要な資質を理解する。 4. 『貞觀政要』を熟読玩味することによって、「人間」というものへの洞察力を深める。 5. 自分なりのリーダー論、側近論を確立する。					
成績評価	毎回のフィードバックシートの提出(50%)、期末レポート(50%)			受講要件	特段の要件はないが、将来、政治家、公務員、経営者などの指導的立場を目指す人や、組織や団体の長を目指している学生には積極的に受講して欲しい。※その他詳細はWebシラバスを参照	

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	スポーツ心理学	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		藤田勉	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	この授業の目的は、スポーツ心理学の基本的な知識を学ぶと共に科学的思考による分析力を養い、実践への応用を考える力を身に付けることである。日常生活にも応用できることもあるため、受講者の競技経験は問わない。スポーツをしたことがない者でも、興味があるならば受講を歓迎する。授業の内容としては、スポーツ心理学の研究データから得られた知見の解説やメンタルトレーニング等の心理的スキルの体験が中心となる。また、授業の主役は受講者であることから、受講者間でコミュニケーションを取り機会を作り、発言や質問をしやすい授業にしたい。授業の内容は、manaba上で配布する資料等による講義、小課題のレポートを組み合わせて行う。授業形式は、全て対面形式で実施する予定であるが、状況に応じて、Zoomによるリアルタイム配信やオンデマンド配信等 (manaba、youtube等) の遠隔形式に変更することがある。					
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ心理学における専門用語の意味を説明することができる。 ・スポーツにおける心理現象を科学的思考に基づき、分析し、説明することができる。 ・身に付けた知識からスポーツへの実践を考えることができる。 					
成績評価	小課題 (50%) 、期末レポート課題 (50%)			受講要件	特になし	

授業科目名	世界の中のイスラーム	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		森田豊子	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>目的：1. イスラームについての基本的な知識の理解 2. イスラーム主義の歴史とその背景の理解 3. パレスチナ問題についての理解 4. 9・11事件以降の世界の動きとイスラームとの関連についての理解 5. 現代世界のイスラーム教徒の移民の問題についての理解 内容と方法：基本的には講義形式を用いる。理解を深めるために映像などを使うこともある。</p>					
学習目標	本講義では、イスラームに関する基礎的な知識を身につけ、現代世界で起きている西洋世界とイスラーム世界との間の様々な事件や問題について考察することを通して、現代の国際社会で起きている問題解決のためには何が必要であるのかについて深く考えることを目標としている。西洋側からだけ見た一面的な見方によって物事を理解するのではなく、多面的な視点を持って、もう一度国際問題について考え直すきっかけにしたい。					
成績評価	学期中のレポート (50%) 、毎回授業で提出する小レポート (50%)			受講要件	なし	

授業科目名	中国語入門 I	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		寺西光輝	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	1
授業概要	<p>【目的】中国語の初学者向けの授業です。基礎的な語彙や日常的で平易な会話文を学びながら、CEFRのpre-A1レベルの初步的コミュニケーション能力の育成を目指します。 【内容】「読む」「聞く」「書く」「話す」といった中国語の基礎的能力を身に着けるとともに、中国語圏の文化や社会についても取り上げます。 【方法】各課で示された到達目標 (Can-do) を目指し練習を進めていきます。授業では、とりわけペアやグループでの練習を重視し、情報差を埋める活動や、インタビュー、ゲームなどを通してクラスメートとつながっていくなかで、実践的な中国語コミュニケーション能力を身につけていきます。</p>					
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ごく簡単な挨拶表現を人や場面に応じて使える。 ・自分や他人を簡単に紹介することができる。日常生活でよく使われる簡単な表現を理解し、用いることができる。 ・中国語の学習を通して、その背景にある文化や生活様式を理解する。 					
成績評価	期末試験 80%、授業への取り組み (授業内のパフォーマンス・ドリル・提出物等) 20%で評価する。			受講要件	初修外国語が必修の学部学生は、初修外国語と異なる言語のみ履修可能。 中国語の母語話者は受講できません。	

授業科目名	中国語入門II	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		寺西光輝	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	1
授業概要	<p>【目的】中国語入門Iに引き続き、基礎的な語彙や日常的で平易な会話文を学びながら、CEFR A1レベルの初步的コミュニケーション能力の育成を目指します。【内容】「読む」「聞く」「書く」「話す」といった中国語の基礎的能力を身に着けるとともに、中国語圏の文化や社会についても取り上げます。【方法】各課で示された到達目標 (Can-do) を目指し練習を進めていきます。授業では、とりわけペアやグループでの練習を重視し、情報差を埋める活動や、インタビュー、ゲームなどを通してクラスメートとつながっていくなかで、実践的な中国語コミュニケーション能力を身につけていきます。</p>					
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や他人を紹介することができ、住んでいる場所、持ち物、趣味、能力などの身近な話題について、ごく簡単なやりとりができる。 ・もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。 ・中国語の学習を通して、その背景にある文化や社会事情を理解する。 					
成績評価	期末試験 60%、パフォーマンス課題 20%、授業への取り組み (授業内のパフォーマンス・ドリル・提出物等) 20%で評価する。			受講要件	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語入門Iを受講済みか、同程度の中国語力を有すること。 ・初修外国語が必修の学部学生は、初修外国語と異なる言語のみ履修可能。 ・中国語を母語とする学生は受講できません。 	

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	東南アジア研究入門	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		難波美芸	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	全15回の授業を対面形式で実施する予定だが状況に応じて変更の可能性がある(「その他」も参照)。この授業は東南アジアに関する広く一般的な知識をただ与えられるだけの内容ではない。履修者の所属学部、専門領域を問わず、現代社会を生きる人間として自ら問い、思考するためのさまざまな理論や視点について「東南アジア」の事例を通して理解していくことを目的としている。扱うテーマとしては、啓蒙思想、人種主義、グローバリゼーション、戦争と平和、開発、ジェンダー、労働など多岐にわたるが、いずれのテーマも、現代東南アジア、そして日本社会を理解し、自らが「どう生きるか」を考える上で必要な思考の基礎を築くものである。一見すると難しいこれらのテーマを、本科目では、東南アジア諸国の人々のさまざまな事例から、学生にとって身近な問題として哲学的に問う視点を提供していきたい。その際に手がかりとするのが文化人類学的な視点である。※その他詳細はWebシラバスを参照					
学習目標	(1) 東南アジア諸国の文化社会について学ぶことを通じて、自らの文化社会を見つめ直す視点を獲得する。 (2) 講義で獲得した文化人類学的な視点が持つ利点と課題をよく理解した上で、それらを用いて、今日の私たちが直面する様々な社会問題について思考する能力を身につける。 (3) グローバル化が進む現代世界において、異なる世界に生きる人々の生へと接近するための想像力を獲得する。※その他詳細はWebシラバスを参照					
成績評価	期末レポート: 40% リアクションペーパー: 30% 授業への積極的参加: 30%	受講要件	共通教育科目前期集中「社会システム・政策研究(タイ研修)」に参加する者は、研修の事前に必ずこの授業を受講すること。また、東南アジアへの留学や海外研修、ボランティア等を希望する学生も、履修を推奨する。			

授業科目名	独語入門I	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		大野克彦	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	1
授業概要	授業の目的: ドイツ語の発音、初步的な語彙・文法・構文、挨拶・定型表現等を修得することを目的とする。 授業の内容: ドイツ語の音声を聞き発音の練習を行ったり、動詞の変化や冠詞の格変化等といった基本的かつ重要な文法事項について学習する。 授業の方法: 教科書に基づいた講義、練習問題の実施と発表、及び、課題レポートを組み合わせた形式で行う。					
学習目標	(1) 文法・語彙など言語の構造的側面に関する基礎知識を身につける (2) 発音・聴解など言語の運用的側面に関する知識を身につける (3) 短い日常会話を聞き取って理解し、自らも話すことができるようになる (4) 短いテキストを読んで理解し、自らも書くことができるようになる					
成績評価	期末試験80%、課題・授業中の発表等20%で評価する。	受講要件	「初級独語I」の受講者、および、「初級独語I」・「初級独語II」・「独語入門I」のいずれかの単位を修得している者の受講は認めない。			

授業科目名	独語入門II	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		大野克彦	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	1
授業概要	この授業は、昨年度後期の「独語入門I」に続き、ドイツ語の基本的な語彙と文法を学習しながら、日常生活で用いられる会話表現を学び、習得することを目的とする。折に触れてドイツの社会・文化に関する話題を提供する。なお、今年度はコロナウィルス感染防止のため、対面授業ではなく、遠隔(オンラインデマンド方式)で授業を行う。期末試験のみ対面で実施する。					
学習目標	1. ドイツ語の基本的表现を理解し、話し、書くことができる 2. ドイツ語の基本的な文法を理解し、それをもとに文を作ることができる 3. ドイツの社会と文化の基本的な事項について説明ができる					
成績評価	授業への取り組みを20%、期末試験を80%とし、その総合で評価します。	受講要件	初修外国語が必修の学部学生は、独語以外の言語を履修した場合に限り受講可能です。			

授業科目名	仏語入門II	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		二村 淳子	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	1
授業概要	【目的】この授業ではフランス語の学習を通して、ヨーロッパ諸語の言語的特徴について知識を身につけ、その思考方式に親しみ、外国語文化一般を学ぶ基礎力を涵養することを目指す。また、国際社会における有力言語であるフランス語を習得することによって、多面的に世界を知るきっかけを与える。 【内容】 基本的な知識を習得するための入門授業なので、発音・文法・基礎語彙の習得が授業の中心となる。 【方法】 基本的には教科書に沿って授業を行うが、視聴覚資料、会話練習も取り入れる。練習問題をこなすことによって理解を深める。					
学習目標	• 旅行で困らない程度の会話ができるようになる。 • フランス語はどんな言葉なのか。その概要を説明できるようになる。 • 学期終了時には、仏語検定5級以上の実力をつけることができる。					
成績評価	原則として試験(期末5割、小テスト5割)で評価する。 また、学期中の小テスト、及び、授業中の積極的な参加も考慮する。	受講要件	初修外国語が必修の学部学生は、初修外国語と異なる言語のみ履修可能。			

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	方言コンテンツを作ろう	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		坂井美日	人文社会科学分野(選択科目)	講義	集中	2
授業概要	<p>この授業では、方言記録保存活動の一環として、フィールド調査に基づいて方言動画を作成し、配信することを目指す。現在、鹿児島県内の方言は、消滅の危機に瀕している。その土地のことばは、その土地の文化財であり、保護し保っていく努力が必要である。</p> <p>この授業では、鹿児島県内の方言を使用した動画を作成し、方言の記録保存（アーカイブ化）をおこなう。まず、フィールドで取材と撮影をおこない、動画の素材を得る。そして、その動画を方言ベースで編集する。方言の録音、標準語訳、方言解説は、ネイティブへの調査に基づいておこなう（方言調査）。</p> <p>これらの作業を通して、言語文化への理解を深めながら、地域課題の解決に向けて自ら行動できる力を身につける。授業のスケジュールは、受講生と取材先と相談のうえ決定する。</p>					
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語文化への理解を深める。 ・言語の記録保存によって研究貢献および地域貢献をおこなう。 ・地域課題の解決に向けて、自ら判断して活動できるようになる。 					
成績評価	授業への参加・課題への取り組み(50%)、成果物(50%)	受講要件		特になし		

授業科目名	日本国憲法	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		渡邊弘	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>日本国憲法を支える基本的な理念である「立憲主義」「民主主義」「平和主義」について、基礎的な知識を獲得すると共に、その知識をもとに課題を解決ができるようになることをめざす。</p> <p>図書館を積極的に活用して学習を進められたい。憲法に関する基本的な知識については、予習段階で多様な参考文献を参照しつつ独習することが求められる。予習・授業・復習のサイクルを重視するので、予習をしてこない学生には出席を認めない。</p>					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国憲法を支える基本的な理念である「立憲主義」「民主主義」「平和主義」について説明することができる。 2. 日本国憲法に関わる基本的な知識について説明することができる。 3. 日本国憲法に関する基本的な知識を用いて、現実の社会が抱える諸課題について、自分なりの解決策を提示することができる。 4. 他者との討議を通じて自らの考えを練り上げ、その成果を効果的に発表することができる。 					
成績評価	小レポート(3回を予定)を実施し、上記の学習目標が達成されているか否かを評価する。小レポートの内容についてはmanabaで指示する。また、日常的な授業への取り組みを評価するため、予習課題プリントやリアクションペーパーの評価も組み入れる。対面しての(教室に集合しての)期末試験は行わない。・小レポート=60%・予習課題プリント・リアクションペーパー=40%	受講要件		旺盛に学習する意欲、授業に集中して取り組む姿勢と規範意識。新聞と書籍を読む習慣を持っている者のみが受講できる。		

授業科目名	人間と環境の心理学	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		園田美保	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>ここで取り扱う「環境」は、家や学校、地域など、日常的な生活環境である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的は、自分を含む人間を理解する際に「環境」という観点を取り入れられるようになることと、また、心理学的な視点から環境をとらえ直し、快適な環境セッティングの構築にいかせるようになることである。 2. 授業の内容は、人の心理・行動と物理的環境とが相互に関係し合っていることを具体的な研究例から学習する。 3. 授業の方法は講義形式で、テキストと配布資料を手元に置き、プロジェクタによる投影と口頭説明によって行われる。各回授業の最後には、各自が自らの環境や環境行動を重ねて考え、表現する小レポートを提出する。 					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> (1)人が環境をとらえる際の特徴を、キーワード・概念を使用しながら理解する。 (2)環境と関連深い人間行動のしくみを理解する。 (3)日常生活や非常時でより効果的もしくは適切な環境行動がとれようになる。 (4)心理学的視点から生活環境を見直すことができる。 (5)環境の心理的意義を知った上での環境設定が行えるようになる。 					
成績評価	毎回の授業におけるrespon及びmanabaでの小レポート(30%) 最終レポート(70%)	受講要件		50名以内		

授業科目名	How Language and Music Influences Society	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		トレイマー・ジョン	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>This course is an introduction to Sociolinguistics. In this course, you will be introduced to the basic concepts of Sociolinguistics, and have the opportunity to study how language use influences certain aspects of society, including cultural norms, expectations, and context. In addition to this, we will look at how this is coupled with the influences of both classical and modern music on society. This may include 19th Century Romanticism and the 1980s. However, after a full discussion with participants the areas under study will reflect their needs and wants. The schedule below is merely an example of what can be studied.</p> <p>* 遠隔授業（オンライン）で実施します。</p>					
学習目標	<p>By the end of this course you will gain a basic understanding of what Sociolinguistics is. You will be able to demonstrate this understanding through a number of discussions and essays throughout the course. ※その他詳細はWebシラバスを参照</p>					
成績評価	Homework and Classroom Assignments 50% FINAL REPORT 50%	受講要件		This is NOT a second language learning class. All lectures and materials are in English only; you need to be competent in English to register for this class. There will be no Japanese spoken in this		

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	美術への誘い	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		和田 七洋	人文社会科学分野(選択科目)	講義	集中	2
授業概要	1. 授業の目的は、絵画・彫刻・デザイン・工芸・美術理論及び美術史・美術教育学の6分野における基礎的知識・技能の習得し、美術への興味・関心を獲得することである。 2. 授業の内容は、美術作品の制作過程・技法・背景、歴史、教育等、6分野の基礎的な箇所を取り扱う。 3. 授業の方法は、6分野を2-3コマごとにオムニバス形式で行うものである。					
学習目標	1. 人間らしく生きるために、また、これから社会人としての資質向上の一途として、美術に関心を持つことができる。 2. 美術を楽しむ契機とすることができます。 3. 美術への入門的内容を6分野にわたり理解することができます。 4. 美術を表現する上の初步的な技術を理解することができます。 5. 美術教育、美術史の初步的な知識を述べることができます。					
成績評価	分野ごとに提出するレポート(100点)	受講要件		人数制限あり(20名)		

授業科目名	簿記入門	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		劉美玲	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	会計は事業の言語と言われ、ビジネスにおいて、英語とともに重要視されている。簿記の基本知識は、企業活動や経営を理解するため、業種・職種を問わずすべての企業人に必要とされている。本講義は簿記の基本知識について学ぶ。日商簿記初級レベルの知識の習得を目標とし、演習問題に取り組みながら進めていく。					
学習目標	日商簿記初級に合格するための基礎知識を身につけること。					
成績評価	小テスト・小課題(50%) 期末試験(50%)	受講要件		なし		

4-3. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	基礎物理学実験	担当教員	4-3. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		伊藤昌和	自然科学分野（実験科目）	実験	集中	1
授業概要	物理をよりよく理解するには実験で確認して納得することが欠かせない。物理現象や法則は実験で確認されて初めて、普遍的な真理として万人に認められ、科学技術の基礎としても花開いてきたのである。その基礎的で代表的な物理の実験をいくつか体験して、納得し、物理に感動し、親しみながら物理の理解を深めてもらう。					
学習目標	1. 実験を通して物理現象を解明し理解する能力を養う。 2. 基本的測定器具の取扱いに習熟する。 3. 測定データの取扱い方、レポートのまとめ方に習熟する。 4. パソコンを使ったプログラミングの初步を体得する。					
成績評価	実験への参加意欲・態度50%： 実験では、出席し、自ら実験を行うことが重要なので、この点について厳しく評価する。各実験毎に提出するレポート点50%： レポートについては、口頭試問を行って理解度を調べる。	受講要件	高校程度の物理は習得していることが望ましいので、高校での物理の学習や理解が不足している人はそれを補うようにすること。			

授業科目名	基礎化学実験	担当教員	4-3. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		横川由起子	自然科学分野（実験科目）	実験	集中	1
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 全8回の授業を対面形式で実施する。 <p>化学の学習は、講義だけでなく実際に実験を行い、現象を観察し、理解を深めることが大切である。理論だけに走り、実験技術をかえりみるのは片手落ちである。逆に機械的に操作するだけでは意味がなく、操作の原理も説明が必要である。反応、定量の原理を学習しながら、実験技術を体得することを目的とする。内容は無機化学、分析化学、有機化学のもっとも基本的な部分であり、各自で実験を行い、結果を観察する。</p>					
学習目標	(1) 高校までの化学の学習において、実験の経験のない場合や、グループ実験しか行ったことがない場合でも、一人で実験を行うことができるようになる。(2) イオンや化合物の反応に関する知識、系統的な組み立てや法則性、定量的な関係を観察し、操作法を理解する。(3) レポート作成、実験マナーを体得する。(4) 排水廃液管理と廃棄物管理の実務に関する環境保全施設教員（公害防止管理者水質1種保持）より、化学薬品、実験廃液の取り扱いや、水質汚濁防止法などについて解説する。					
成績評価	毎回のレポートは、A、B、C、D の4段階で評価し、すべてのレポートの評価を平均して評価する。実験態度が悪い場合は減点する。	受講要件	高校化学の内容は習得していること。			

4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	遺伝のしくみ	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		一谷勝之	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	1. 授業の目的：19世紀後半にメンデルが構築した「仮想的粒子としての遺伝子」に基づく遺伝のしくみから、20世紀半ばに発見された「物質としての遺伝子」DNAに基づく新しい遺伝のしくみまで、遺伝学の基礎を理解する。 2. 授業の内容：細胞分裂、メンデルの法則、連鎖、遺伝子の発現、突然変異など。また、遺伝のしくみに関連する最近の諸問題も学ぶ。 3. 授業の方法：全15回の講義を対面講義および同時にZoomを使用したオンライン講義を行う。小テストおよびレポートはmanabaを使用。					
学習目標	1. 高校程度の遺伝学を理解できる。 2. 最近の遺伝学に関する基本的な内容を理解できる。 3. 遺伝学が生命・生活と関係していることを理解できる					
成績評価	小テスト(1回ごとの講義内容の復習 各5点) と、期末レポート(25%)	受講要件		特になし		

授業科目名	宇宙のすがた	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		半田利弘	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	目的：現代科学が明らかにした宇宙の姿を知ることで、宇宙における地球人という意識を持つための素地となる認識を持つことを目的とする。 内容：現在理解されている宇宙の姿について、全体を概観した上で、地球近傍から順次遠方へと話題を進め、それぞれのスケールでの現代の宇宙観を示すとともに、それらの見方がどのようにして得られたのかについても言及する。 授業形式：パワーポイント等を用いた視覚教材と口頭による解説を組み合わせて行う。適宜、ミニッツペーパーや課題レポートを課す。					
学習目標	(1) マスコミ等で報道される宇宙や天文の話題が理解できる。 (2) 1つの対象でも異なる複数の立場から見ると違いがあることを実感できる。 (3) 「科学的」の本当の意味を実例や科学の歴史を通して考えることができる。 (4) 限定された方法しか使えない場合でも対象の正体に迫る方法を具体例を通じて学ぶ。 (5) 講義内容のノートを取ることで、他人の話の要点を的確に把握・記録することができる。					
成績評価	授業中の小テストやレポートを総合して評価する。原則として再試験等は行わない。	受講要件		特になし		

授業科目名	鹿児島の自然史	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		井村隆介	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	鹿児島の自然環境の大部分は、地球の歴史の中で最も若い地質時代（第四紀）につくられたものである。第四紀は氷期と間氷期の繰り返しによって特徴づけられ、それにともなう氷河の拡大・縮小によって海水準が大きく変化してきた。地球表層部の諸現象（地形・土壤・海洋・生物・人類など）は、この変化に大きな影響を受け、現在みられる地球上の自然で第四紀の変動のあとをとどめないものはほとんどない。鹿児島の自然環境は、これら地球規模の環境変動と鹿児島の地理的位置の組み合わせによって成立したものである。本講義では、15回の授業を通して、日本列島および鹿児島における第四紀の気候変動、海水準変化、地殻変動、火山活動史などとそれがもたらしてきた環境の変化について紹介する。					
学習目標	現在の鹿児島の自然環境は、地球の長い歴史の中で作られてきたことを理解し、鹿児島の自然環境評価や持続可能な開発のためには、過去および現在の環境を科学的に把握しておくことが重要である事を理解する。					
成績評価	期末レポート(70%)、課題提出(30%)	受講要件		特になし		

授業科目名	教養線形代数学	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		伊藤稔	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	数学は世の中の様々な現象を解明する手段として重要であるが、その中でも基礎的なのが線型代数学および微分積分学である。この講義では線型代数の基礎とその応用について解説する。 遠隔形式（オンデマンド配信）で行う。					
学習目標	数学の土台のひとつである線型代数に関して、その基礎と基本的な応用を理解する。具体的な目標は次の通り：数ベクトル、行列の基本的な取り扱いができる。掃き出し法による連立一次方程式の解法。掃き出し法による逆行列の計算。線型変換の基本的な理解。数学、自然科学、人文社会科学への簡単な応用。					
成績評価	期末試験	受講要件		特になし		

4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	教養の物理学入門	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		小山佳一	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>・全15回の授業を対面形式で実施する。(1) この授業の目的は、受講生が基本的な物理現象について理解するとともに、物理学的見方を育成し、客観的事実に基づいて考え、意見や議論ができる素養を身に付けることである。(2) 受業の内容としては、文系理系共に必要な大学教養の物理学入門レベルである。身近にある基本的な物理現象や機器装置、社会インフラ等について、物理学視点から説明される。(3) 授業の方法は、教科書と教科書をもとにした事前配布資料(ワークシート)による講義と、講義後的小テストと授業の振り返り、そして課題レポートを組み合わせた形式で行う。2022年度は対面授業を基本に進める。期末試験は、講義室を利用して実施する予定。コロナウイルス感染症の状況によっては、参加希望者数を確認の上、遠隔授業と併用して講義室における対面での補助的な授業を実施することも検討する。その他、授業に関わることはmanabaのコースニュースを使って発信、公表する。</p>					
学習目標	<p>・受講生が身近にある物理現象や機器装置、社会インフラ等について物理的に理解できる。 ・授業で学んだ物理現象や機器装置、社会インフラ等の物理的関連問題について答えを導くことができる。</p>					
成績評価	評価は10回以上出席が要件とする。期末試験(60%)、課題提出(40%)とし、評価する。原則、指定期日まで提出されたものを評価する。出席確認はmanabaの小テストと授業の振り返りの提出で行う。	受講要件	なし			

授業科目名	暮らしの中のバイオ	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		玉置 尚徳	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>バイオテクノロジー(バイオ)は種々の生物の活動を分子レベルで解析し、理解しながら、それらの成分、産物、機能を最大限に活用して人の生活を豊かにする技術である。これらに関する技術は21世紀を拓く先端技術の1つとして、近年の生物学、生化学、工学、分子生物学の飛躍的な発展により誕生して、社会の認知と理解を得ながら発展し実用化されている。そして、今後一層の進展が期待されている。本講義ではバイオの基礎となる、私たちの食の素材・歴史・科学を学び、そこに込められている人類の経験と叡智に触れ、さらには酵素や遺伝子の働きや利用までをその分野のエキスパートから分かりやすく学ぶ。</p> <p>授業の方法は、多数の非常勤講師が参加するが、各講義において講義終了前にレポート(学習の振り返り)提出を義務づけている。</p>					
学習目標	<p>1. 微生物を利用して作られる乳製品、酒、酢、醤油についての理解を深める。2. 生活の中で遺伝子組換えはどういうに利用されているか学ぶ。3. 遺伝子組換えの原理を知り、この技術について学ぶ。4. 抗菌ペーパーチャーの成り立ちと作用機構および産業への応用について理解を深める。5. カロリー源としての糖質だけでなく機能性食材としての新しい糖質について学ぶ。6. 生体の健康を保つ機能が食品成分によりいかに影響されてるかを理解し、食品の重要性への認識を高める。7. 微生物感染による植物の病気発症のメカニズムとその防御機構を理解する。</p>					
成績評価	授業概要に記した通り、毎回のレポート(学習の振り返り)によって、評価する。 レポート評価の総得点を15で除した値を用いて評価点とする。ただし、2回目からの受講者は14で除す。	受講要件	20分以上の遅刻者は受講は認めるが、欠席扱いとする。			

授業科目名	焼酎	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		高峯和則	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>全15回の授業を遠隔形式(Zoomによるオンライン配信授業)で実施する。</p> <p>1. 授業の目的は、南九州に根ざした食品産業である焼酎に関して理解を深めることを目的とする。 2. 授業の内容は、南九州の重要な地場製品である焼酎について、嗜好品としての特徴は当然であるが、その歴史、文化、経済、製造法、さらに健康関連副産物、環境に関わる後処理技術等の講義を行う。 3. 授業の方法は、パワーポイントで作成したスライドにより講義を進める。</p>					
学習目標	<p>1. 焼酎の歴史、文化、経済、製造法等について幅広い知識が修得できる。 2. 焼酎造りに利用される原料、微生物について理解できる。 3. 焼酎について、地域と関連づけて1時間程度の話ができる。</p>					
成績評価	<p>2/3以上出席した者を評価対象者とする。授業後半の小テストとレポートによって評価する。なお、小テストはresponを用いて実施する。また、レポート課題はmanabaで提示するので、提出は指定された締め切り日時を厳守すること。評価は、小テストとレポートの総得点を実施総数で除した値を用いて評価点を算出する。※その他詳細はWebシラバスを参照</p>					
受講要件	特になし					

授業科目名	初心者のためのサバイバル生物学	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		富山清升	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>授業は、インターネットを用いた遠隔授業で行えるように措置しています。動画の形態で後から再受講できるように措置しています。学外受講生も受講するため、動画配信のオンデマンド講義形式です。</p> <p>授業は、manabaで講義内容を事前に公開します。講義内容は図表を含めてほとんどをmanabaに記載するようになりますが、授業で紹介する全ての写真や図表を掲載することは不可能ですので、manaba公開資料は重要な要点をまとめたものだと理解してください。授業は、プロジェクターを用いた講義で行います。このため、板書は補助的に用います。プロジェクターの映像を筆写する手間がいるないように、内容はすべてmanaba資料に記載しております。ノートは、manaba資料の重要な項目にチェックを入れるか、余談の内容を写す程度で済むと思います。ノートをあまり取る必要のない講義ですので、授業中は講義内容に集中していないと、聴くだけ終わってしまう可能性があります。板書を書き写す形式の講義形態の方が好みの人には向いていない講義形式かも知れませんので、受講の可否の判断材料にしてください。</p>					
学習目標	<p>進化学の基礎的知識を身に付ける事を目標とする。前半は、進化学理解の基礎知識となる遺伝学の復習を行う。生物学における「種」とはヒトの生物界の認識の基本的な単位であるとともに、自然界における生物進化の基本単位でもある。前半は、動物を主題として、個体群・種・進化の基本概念を理解する。T. DobzhanskyやE. Mayrらによって提唱された現代的な生殖隔離に基づく種概念に関して解説する。後半は、主に動物の進化に関して理解する。</p>					
成績評価	成績は毎時間に課す小レポートでつけます。毎回の課題はmanaba上で公開します。manaba上にレポート提出してください。期末試験は行いません。	受講要件	全学部・全学年の学生。遠隔講義を予定しているため、受講人数は無制限。事前に講義内容をmanabaシステムのweb上で公開するため、それを見て予習・復習が各々ができるようにしてあります。※その他詳細はWebシラバスを参照			

4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	生物学入門	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		河邊弘太郎	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	全授業を対面形式で実施する。近年、急速な発展を遂げている生物学を基礎とした科学技術は、新聞やニュースで取り上げられない日は無いといつても良いくらい私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。この授業では、生物学の基本となる事象から現在ホットな研究トピックスを紹介し、教養としての生物学を体系的に身につけることを目的とする。授業内容としては、高校レベルの生物を復習しながら、現在行われている関連した最先端の研究内容を紹介する。					
学習目標	本授業を履修することにより、生物学の発展により明らかとなった知見や、現在起こっている様々な問題について、主体的な判断ができるような基本的な知識を得られることを目指す。					
成績評価	毎回の授業後にManabaから小レポートを提出(100%)。			受講要件	特になし	

授業科目名	動物の病気	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		三好宣彰	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	【授業形態は対面式】動物は生活する環境により、人との関係が強い家畜(産業動物)および伴侶動物と野生動物さらに実験動物とに区別され、これらの動物に発生する病気には動物固有の病気と人にも感染する共通の病気(人獣共通感染症)がある。 1. 授業の目的は、このような動物と人の病気を理解することである。 2. 授業の内容は、様々な動物における体の構造と機能を理解し、動物に感染する病原体による病気や病原体とは関係なく発生する病気の概要や要因を学び、さらに動物の病気の診断法、治療法、予防法についての知識を修得できるように構成している。 3. 授業の方法は、主にスライドを利用した講義形式で、共同獣医学部所属の15名の教員が担当する。毎回、その回の授業に関して、あるいはその回の担当教員が指示する課題や質問について、レポート等を授業中に作成して提出する。					
学習目標	1. 動物の体の構造、機能、反応を理解し、動物の体の仕組みについて説明できる。 2. 動物に感染する病原体を知り、動物の感染症について説明できる。 3. 動物の感染症以外の病気を学び、その特徴や要因について説明できる。 4. 動物の病気の診断、治療、予防を理解し、その方法について説明できる。					
成績評価	毎回の授業において提出するレポートについて、共同担当教員が評価し、その平均を最終評価とする(100%)。欠席あるいはレポートを提出しなかった場合、その回は0点である。			受講要件	特になし	

授業科目名	脳と心の生物学	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		田川義晃	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	脳と心の理解は人類の課題であり、感情、情動など“心の動き”を理解することは、人文、自然科学、工学、医療などいざれの分野においても重要なことです。現在、われわれはみずからのかの心と脳について、どこまで理解できているのか。この授業では、脳と心のはたらき、しくみ、不調について、主に生物学的側面から、最新のトピックとその理解に必要な基礎知識を専門の教員がわかりやすく解説します。授業は配布資料等による講義と自己演習、課題レポートを組み合わせた形式で行います。					
学習目標	(1) “心”を生み出す脳の情報処理のしくみを理解する。(2) 脳と心のはたらきに影響を与える内的・外的要因(例えば自律神経、免疫系、ストレスや薬物の作用など)を知り、また脳と心の発達に影響する遺伝や環境要因について知る。(3) さらに、ヒトの疾患例など心や精神機能の不調について知ることで、脳と心のはたらきについてより深い理解を得る。これらを通して、脳と心の生物学的基盤の理解をめざす。					
成績評価	授業後の課題レポート(100%)で評価			受講要件	特になし	

授業科目名	乗り物の物理学	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		半田利弘	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	鉄道、ロケット、航空機を中心に、それらが機能する基本原理と物理学との関連を解説する。これによって、高校までに習った物理学が実生活ではどのように応用されているかを実例を通じて紹介する。					
学習目標	(1) 身近な機械装置やシステムの背後に物理学があることに考えが及ぶ。 (2) 様々な装置やシステムの動作原理を考慮することに意義を見つけられる。 (3) 高校までに習う物理学が実生活でもいかに役立っているかを納得できるようになる。					
成績評価	出席状況、授業時のレポートを総合して評価する。再試験等は原則として行わない。			受講要件	高校程度の物理学や数学。各種交通機関のしくみについて興味があること。	

4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	ヒトの産み育てを考える	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		中尾 優子	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	1
授業概要	この授業の目的は、ヒトが人らしく生活するためには、基本的生活能力が不可欠であることから、人としての基本的生活の営みについて理解することである。特に、ヒトが子を産み育てるとはどういうことなのか？個人や社会が子を産み育てることについて支援できることは何か？講義を通じて関心を持ち、考える。自分の未来設計、他者への支援に向けてヒトの産み育てが今後、どうあるべきか考える力を養うことを目的とする。授業内容としては、現代の子どもの成長と子育てを学習するとともに、多様な生き方についても配慮し、妊娠から子育てについて学習する。授業テーマから自らの課題を抽出し、自分の考えを展開する。授業は配布資料による講義とグループディスカッション、自己演習、課題レポートを組み合わせた形式で行う。					
学習目標	1. 生殖機能の基本と課題について理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥の生理と生活援助について自分の言葉で説明することができる。 3. 子どもの特徴を理解し、近年の子どもを取り巻く環境を含めた子育ての課題について考えることができる。 4. 現在のヒトの産み育てについて課題を抽出し、自分の考えを展開することができる。					
成績評価	課題レポート提出(60%)、各講義毎のレポート提出、グループ内での発言(40%)	受講要件		特になし		

授業科目名	エッセイから物理学(科学)的な思考を学ぶ	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		藤井伸平	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	この講義の目的は、物理的(科学的)な見方や考え方を身につけることを目的とする。理想的には、主体的に観察や実験に取り組む過程の中で物理的思考力(科学的な思考力)が育成され、その結果として物理的(科学的)な見方や考え方を身につけることになると考える。本講義では、一流の物理学者が書いた科学的エッセイを読むことによって、彼らが実際に実行した観察、実験、思考を疑似体験してもらう。					
学習目標	・問題や疑問を分析する方法を学ぶ・問題や疑問を解決するための観察や実験方法を学ぶ・観察、実験結果を考察し、規則性や因果関係を見いだす過程を学ぶ・仮定や推論を検証する過程を学ぶ					
成績評価	複数回の課題提出(100%)	受講要件		特になし		

授業科目名	理系ジャーナリズム	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		半田利弘	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	現代社会では科学や科学技術と無縁で生活することは不可能である。したがって、科学に関する報道の特性、一般の報道の特性をよく理解して対処することは現代人には必須の素養と言える。いろいろな分野の報道関係者や報道に関連した取材・発信経験を持つ研究者からその体験やそれを通じて得た知識を学ぶ。					
学習目標	1. 科学に関する報道を受ける際に留意すべき点を認識する。 2. 科学や科学技術に携わる者として取材を受ける際に気にすべき点を意識する。 3. 一般的な報道、科学に関する報道の違いと特性を認識する。					
成績評価	平常点(授業中の質問(50%)と担当教員が隨時出す課題レポート等(50%))	受講要件		授業計画とその他に記載した変則時間割に対応できること。		

4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	基礎化学入門A	担当教員	4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		横川由起子	自然科学分野(基礎教育入門科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>・全16回の講義(試験を含む)を対面形式で実施する。化学は、原子のレベルから物質を理解する学問であり、自然科学のあらゆる分野と何らかの関わりをもっている。本講義では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎的な内容を修得することを目標とする。</p>					
学習目標	<p>原子や分子を理解するためのミクロな側面として、原子の構造、軌道の概念と電子配置、結合と分子・集合体の形成、周期表の構成を学ぶ。さらにマクロな側面として、物質の三態、熱力学的変化、化学反応などについて学ぶ。</p>					
成績評価	3回の試験の合計点で評価する。			受講要件	<p>高校時代に「化学」の学習・習得が不十分であったり、大学受験で「化学」を選択しなかった学生を対象とする。</p>	

授業科目名	基礎化学入門B	担当教員	4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		橋本文雄	自然科学分野(基礎教育入門科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>生物は有機化合物によって構成され、生命体内のほぼ全ての反応には有機化合物が関与しているので、生命現象を理解する上で、有機化学を学ぶ事は特に重要である。有機化学の原理を把握し、それによって多くの現象を統一的に理解する。生命現象の基本となる有機化学の基礎を統一的に理解させることを目的とする。本講義では教科書の前半6章、有機化学の最も基礎となる部分を講義し、例題問題を解答して深く理解する。</p>					
学習目標	<p>化学構造式、分子の骨格、基礎化学反応、立体化学を理解する。</p>					
成績評価	毎回、与える課題やレポート、問題の解答(100%)により評価する。また、この不合格者に対しては再試験を行う。			受講要件	<p>特になし</p>	

授業科目名	基礎数学入門	担当教員	4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		郭永明	自然科学分野(基礎教育入門科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>小テストと期末試験は対面形式で実施し、他の回は遠隔形式で実施する。毎回の授業について、レポートをmanabaから提出してもらう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業の目的は、微分積分学の基本定理や積分の基本公式を理解し、計算する力を養うことである。 授業の内容は、微分積分学の基本概念、1変数関数の微分積分学の基本定理や積分の基本公式等である。 授業は講義、レポート、小テストおよび期末試験を組み合わせた方法で行う。 					
学習目標	<p>(1) 関数、関数の極限および連続関数の概念が理解できる。(2) 1変数関数の「微分」、「積分」の概念が理解できる。(3) 1変数関数の微分積分の基本定理、基本公式を十分理解し、それを運用することができる。</p>					
成績評価	小テスト(30%)、採点レポート(20%)および期末試験(50%)で評価する。			受講要件	<p>特に無し</p>	

授業科目名	基礎数学入門	担当教員	4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		須本祐史	自然科学分野(基礎教育入門科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>微分積分学について少しでも親しんでおくことは理系分野では必須である。この科目では、高校数学IIの履修の有無によらず微分積分の基礎的な計算ができるようになること目標とし、三角関数・指数関数・対数関数からはじめて1変数関数の微分積分まで、講義と演習を組み合わせて授業を行う。</p>					
学習目標	<p>1. 三角関数、指数関数と対数関数の実用的な活用ができる。 2. 微分・積分の物理的な意味を理解し、かつ、実用的な活用ができる。</p>					
成績評価	レポート(30点)、期末試験(70点)の評価を行う。			受講要件	<p>なし</p>	

4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	基礎生物学入門	担当教員	4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		坂巻 祥孝	自然科学分野(基礎教育入門科目)	講義	毎週	2
授業概要	高校生物の単元に即して、高校生物の知識を振り返りつつ、生命科学分野の専門教育とのつながりを学ぶ。大学における生命科学的探究のための基礎的学力を養う。					
学習目標	生物を履修していないかった学生も生命科学を独習できるような基礎を涵養する。学生に身の回りの生物や生物現象に関心を持たせ、専門教育の生命科学に主体的・積極的にかかる意欲、問題を見出す力や科学的な思考力や表現力を育成する。					
成績評価	毎回授業出席者に出題される小テストあるいは小レポート(100%)	受講要件		特になし		

授業科目名	基礎統計学入門	担当教員	4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		大野裕史 他	自然科学分野(基礎教育入門科目)	講義	毎週	2
授業概要	自然現象や社会現象の実態を解明するために、観察・実験・調査が行われます。その結果得られる資料(データ)を統計的に処理する必要に迫られる場合が少なくありません。また、社会が複雑さの度合いを増し、人間の自然認識が深まるに連れて、自分たちを取り巻く膨大な情報・資料を分析し、合理的な判断をするためにも事物を統計的に観る目が要求されることになります。統計学はそのための理論と応用を研究する学問です。本講義はその初步的理解を行うことによって、統計的な基本処理能力を培うことを目的としています。					
学習目標	大きな目標は、1) 与えられたサンプルデータに対するデータ処理を行えるようになること。2) サンプルデータの信憑性について判断できるようになること。3) 母集団の特性を理解できるようになること。であります。					
成績評価	授業ごとに課したレポートにより評価します。	受講要件		特になし		

授業科目名	基礎物理学入門	担当教員	4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		中村啓彦・江幡 恵吾	自然科学分野(基礎教育入門科目)	講義	毎週	2
授業概要	この授業では、物体の運動を中心とした物理学の基礎を習得することを目的とします。 授業の内容は、はじめに指定した教科書をもとに身のまわりの物理現象を例として挙げながら説明を行い、次に演習問題を解くことで物理学に対する理解を深めます。 そのため、この授業では教員が板書やパワーポイントなどのスライドを用いながら説明を行う講義形式の方法で行います。					
学習目標	1) 身のまわりの自然現象について物理的側面から考えることができる。 2) 物体の運動に関する数学的表現を理解することができる。 3) 力学の基本的な概念や法則(ニュートンの運動の3法則、力学的エネルギー保存則など)を理解することができる。					
成績評価	期末試験で評価します。(100%)	受講要件		特になし		

5-1. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	稻盛哲学：稻盛研究の最高峰が伝授	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		吉田健一	統合I (課題発見)	講義	集中	2
授業概要	<p>・対面講義を計画している。</p> <p>授業目的：経営哲学、社会哲学としての稻盛哲学（稻盛フィロソフィ）のアカデミックな理解を図ることを目的とし、「社会生活の基盤となる倫理について考えを述べられる」ようになるための学力（とりわけ「思考力・判断力」及び「主体性・協働性」）の拡大を目指す。</p> <p>授業内容：社会哲学、経営人間学、管理会計学の立場から、この分野における国内最高峰の研究者（稻盛アカデミー客員教授）による稻盛哲学理解に資する内容。</p> <p>授業方法：教科書及び担当教員が配布する資料による講義を行うとともに、ワークシート等を介した理解の深化を図る。</p>					
	<p>・稻盛哲学（稻盛フィロソフィ）について、社会哲学、経営人間学、管理会計学（「アメーバ経営論」）の立場から学術的に理解する。</p> <p>・稻盛哲学がなぜ人、組織、社会を動かすことができるのかについて自らの言葉で説明することができる。</p> <p>・稻盛哲学の学びと自らの倫理観の関係を知る。</p>					
学習目標						
成績評価	ワークシート60点、レポート40点			受講要件	特になし	

授業科目名	いのちと地域を守る防災学I	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		松成裕子	統合I (課題発見)	講義	毎週	2
授業概要	<p>授業では、自然災害やその対策について正しい知識を持つとともに、地域自治体や防災組織が現在行っている防災への取り組みや新しい技術を理解し、災害時にはいのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことのできる態度・志向性を獲得することを目的とする。この講義は、自然・人文に及ぶ複合的・総合的な「防災学」のかなりの範囲を網羅するものであり、本学のさまざまな学部・大学院・教育研究施設に所属する「防災学を専門とする教員」がそれぞれ得意分野をオムニバス形式で担当講義する。後期の「いのちと地域を守る防災学II」と対になる構成となつており、前期の本授業では、災害を知り、それに 対応する対処・対策を考えることに重きが置かれている。なお、この授業の概要・性格から本授業は、「防災士」受験資格取得科目の1つとなっていたが、今年度は集合教育、対面授業による実施が難しく、別途レポートを課すことになる。</p>					
	<p>1. さまざまな自然災害の発生のしくみを始めとして、防災にかかる知識や技術などを理解し、災害種ごとに説明できる。2. 災害種ごとに一般的な対策・対処のしかたを理解し、地域の特性に応じておおよそ適当な対策などを選択できる。3. 万が一に災害が生じた場合、いのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことができる態度・志向性を獲得する。</p>					
学習目標						
成績評価	各担当教員によるレポートの成績（評点）を集計し、評価する。別途レポートを課すこともある。			受講要件	後期に開設される「いのちと地域を守る防災学II」も併せて受講することを基本的な要件とする。 今年度はすべての授業を遠隔講義にて実施していることから受講の際の注意事項（manabaコンテンツにアップ）を確認し、受講すること。	

授業科目名	Intercultural Understanding and Acceptance	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		難波 美芸	統合I (課題発見)	講義	毎週	2
授業概要	<p>・本授業は全15回を対面で行う。This course will be fully held in-person. ・履修を検討している学生は初回のイントロダクションに必ず出席すること。Students who consider to register this course MUST attend the introduction of the course. 本授業では、日本人学生・留学生両方の履修者が、英語によるプレゼンテーションやディスカッションを通して協働し、各自が調査を行ふ。（新型コロナウイルスの影響により、本年度の留学生の受講はごく少ない可能性が高い。）2022年度のテーマは「多文化共生」である。授業前半では、文化人類学において発展してきた文化相対主義的な視点を中心に、異なる背景を持つ人々との向き合い方にについて学び、「自らを異化し、他者を親和化する」姿勢を身につける。その上で、各自が国内外在住の外国人を対象とした調査を行い、そこで得られた知見を元にプレゼンテーションを行い、学期末には報告書を提出する。※その他詳細はWebシラバスを参照</p>					
	<p>・学習目標1. 文化相対主義的な視点を理解し、異なる価値観を持った多様な人々とコミュニケーションをとれるようになる。2. グローバル化が進む現代社会において、多様な人々と協働し、共に問い合わせ、課題に取り組む姿勢を身につける。3. インタビュー調査の基礎的な技術を学び、質的データを収集し、分析することができるようになる。※その他詳細はWebシラバスを参照</p>					
学習目標						
成績評価	授業への積極的参加（30%）、最終口頭発表（30%）、最終レポート（40%） Class participation (30%), Oral Presentation (30%), Term Paper (40%)			受講要件	特になし 日本人学生も留学生も歓迎する。This course encourages both local and international students to join.	

授業科目名	かごしま教養プログラム	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		岩船昌起	統合I (課題発見)	講義	集中	2
授業概要	<p>この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を生かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローカルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行う。また、地域の特色ある分野について対象としていることから、特に、地域社会での活躍を目指す学生にとっては、充実した内容となっている。3日間の夏季集中授業で、対面形式で講義とグループ学習を通じて学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習して、グループテーマについて取りまとめと発表を行う。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮して、Zoom等による「遠隔授業」形式に変更される場合もある。</p>					
	<p>(1)講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業、防災、食と観光などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。 (2)グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考え方と方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。 (3)テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出できる。</p>					
学習目標						
成績評価	発表内容30%、ポスター完成度15%、グループ活動15%、レポート内容40%として評価を行い、それらを集計して最終評価とする。なお、発表及びレポートを合わせて評価するため、どちらか一方が欠けた場合は、評価対象外とする。また、提出期限までにレポートを提出しなかった場合、評価対象外とする。			受講要件	連続開講する「かごしまフィールドスクール」を原則として受講することを、基本的な受講要件とする。 ただし、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて「かごしまフィールドスクール」が中止となる場合もある。	

5-1. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	キャリアデザイン	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		藤村一郎	統合I (課題発見)	講義	毎週	2
授業概要	1) 授業の目的は、鹿児島大学生がおかれている状況や働くことに関する基礎知識について学ぶとともに、人生を通して柔軟にキャリアを形成していくうとする姿勢を養い、社会人となるための基礎力を身に付けることである。 2) 授業では、自分自身の適性や価値観の気づきに加え、他者との違いや多角的なものの見方について考えることを重視する。 3) 授業の内容は、座学および多彩なゲストスピーカーによる講話である。					
学習目標	1) 自己を客観的に見つめ直し、適性について考えることができる。 2) 社会人となるための基本的態度やマナーを身につける。 3) 多様な働き方や価値観について考え、自身や他者の考えを尊重することができる。 4) 働くうえで必要な資源や情報とは何かを考え、獲得するための行動に移すことができる。					
成績評価	期末レポート(30%)、小レポート(30%)、授業への参加態度およびコメントペーパーの提出(30%)、投書課題(10%)とし、評価する。(※3分の2以上の授業参加、および小課題2つ以上、期末レポートの提出を必須とする)	受講要件	授業中に「manaba」を利用する。			

授業科目名	九州学	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		渡邊弘	統合I (課題発見)	講義	集中	2
授業概要	この授業の目的は、九州各県・各地域の特色を活かし、それらの魅力について多角的に学習することである。自分が学生生活を営んでいる場がどのような背景を持つ土地であるのかを知るとともに、九州各県についても「歴史・文化」の視点から知識を得ることで、地域に対する魅力を探る。また、地域や世界の視点から「九州」について考えることで、「九州で九州を学ぶ」ことの意義を見出す。※その他詳細はWebシラバスを参照					
学習目標	1. 自身が興味を持った九州各県の「歴史・文化」の特徴や現状、課題について説明できる。2. 授業で取り上げた事物について、多角的に捉えて説明できる。3. 九州の魅力を様々な視点から考え、自己の考えを表現できる。					
成績評価	小レポート 12.5%×6回=75%最終レポート 25%×1回=25%※最終レポートを必ず提出すること。	受講要件	特になし。本科目は、特定の曜日・時限を指定しない。従って、他の科目との重複を考慮することなく履修することができる。			

授業科目名	自然体験活動入門講座	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		福満博隆	統合I (課題発見)	講義	集中	2
授業概要	農学部高隈演習林に隣接し、垂水市と鹿児島大学が提携している垂水市立大野ESD自然学校（旧大野小中学校跡）をベースキャンプにして、高隈の森の自然を利用した野外活動を通して、自然とのふれあいを深め、仲間と協力して成し遂げる喜びを体験し、自分の可能性について見つめ直す学習をする。					
学習目標	1) 自然の中での生活を通して、自然と人間(自分)との関わりについて理解を深めることができる。 2) 仲間との共同生活を通して、人間(自分)と人間(他人)との関わりについて理解を深めることができる。 3) すべての活動を通して、自分自身について見つめ直し、自分の可能性について気づくことができる。					
成績評価	1. 出席状況及び活動に対する取り組み姿勢(80%) 2. 活動に対する振り返りレポートの内容(20%)	受講要件	2泊3日の集団宿泊（テント泊）が可能であること。簡単な山歩きが可能であること。			

授業科目名	進取の精神を学ぶ	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		劉美玲	統合I (課題発見)	講義	毎週	2
授業概要	本授業の目的は、鹿児島大学教育目標に則り、向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度（進取の精神）を養い、地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養うことである。本授業の内容および方法は、以下の通りである。(1) 本学の歴史や日本の近代化を推進する過程で多くの困難に果敢に挑戦した鹿児島の若者について学び、本学が先人より引き継ぐ「進取の精神」を理解する。(2) 鹿児島で社会の発展のために活動を開拓している団体等の中で、現代社会が抱えている諸問題のうち、国際協力、平和問題、地域農業について実践する講師による講義によって、その問題を取り組む内容について理解を深める。この講義を受けた後、受講した学生が休日や休業を活用してこれらの活動への自主的参加を決断する行為や、地域社会の現場での活動に積極的に参画するなかで、進取の精神と行動力を涵養する。					
学習目標	(1) 「進取の精神」の概要について理解し、説明することができる。 (2) 「進取の精神」を継承し、困難な課題にも果敢に挑戦できる。 (3) 「持続可能な社会」の構築に貢献できる行動力を養う。					
成績評価	フィードバックシート：30% 小課題：30% 最終レポート：40% 学期末試験は行わない。なお、最終レポートの提出がない場合は評価対象外とする。	受講要件	特になし			

5-1. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	大学で学ぶ	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		出口英樹	統合I (課題発見)	講義	毎週	2
授業概要	*この授業は遠隔（オンデマンド配信）授業として実施する。 この授業の目的は、現代の大学が置かれている状況を理解したうえで、それらが抱える諸課題に対して自分なりの考えを論理的に述べられるようになること、そして、自身の今後の学びを設計するための基本的視座を獲得することにある。 高校までと大学では様々な違いがあり、その点については日々の学生生活を通じて実感することとなるだろう。その違いはどのような背景に基づくものか、また、様々な背景に基づき成り立っている制度がどのような課題を抱えているかについて、まずは考えたい。そのうえで、今後大学で学んでいく自分自身を振り返り、具体的な学びのプロセスを設計するための手掛かりを得てほしい。					
学習目標	・現代の大学が抱えている課題について、論拠を示したうえで論理的に自分の考えを述べることができる。 ・現代の大学の仕組みを理解したうえで、自分に適した学び方を考え出すことができる。					
成績評価	毎回の授業の振り返り（40%）、課題レポート（20%×3）をもとに評価する。		受講要件	特になし		

5-2. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	奄美の民俗文化	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		財部めぐみ	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	全15回の授業を遠隔形式で実施する。本授業の目的は、鹿児島県の奄美群島に暮らす人々の歴史や民俗文化、暮らしの現在について理解することにある。授業内容は、1) 奄美的歴史、2) 奄美的民俗文化、3) 奄美的現在の3つで構成し、奄美という地域性とその民俗文化が有する経済的指標では捉えられない「豊かさ」について考える。授業は配布資料等による講義と自己演習（復習や予習）、課題レポート等を組み合わせた形式で行う。					
学習目標	1. 奄美的歴史についての基礎的知識を修得する。 2. 奄美的自然や民俗文化、また人々の独特的世界観や生活観について理解する。 3. 奄美の島々がおかれてきた過去と現在の諸問題について理解する。					
成績評価	期末試験、中間レポート計2回(60%)、授業への参加態度(40%)をもとに評価する。			受講要件	特になし	
授業科目名	稻盛和夫のリーダー論	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		吉田健一	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	・全15回の授業を対面形式で実施する。2018年度のNHK大河ドラマは『西郷どん』で全国的にも明治維新や西郷隆盛への関心は高まった。だが、西郷の政治思想や人間観またはその背景となった儒学思想などを正確に理解している人は決して多いとはいえない。西郷への理解を深めるためには『南洲翁遺訓』を熟読することが最も良い方法である。西郷隆盛、稻盛和夫氏の二人に興味のある学生の受講を歓迎する。1. 授業の目的は『西郷南洲翁遺訓』にまとめられた西郷南洲の教えから、リーダーとしての生き方・考え方をまとめた稻盛氏の著書『人生の王道』をテキストとして取り上げ、稻盛和夫氏の生き立ちや生き方を通しながら、眞のリーダーシップを学ぶことである。2. 授業の内容は『人生の王道』を章ごとに読み解いていく。その際に、本来の『西郷南洲翁遺訓』そのものの内身を熟読玩味しつつ(つまりは、西郷隆盛の人間観、政治観、リーダー観などをまずは理解する)、その『遺訓』を稻盛氏が自らの人生と経営に如何に生かして来たかの両方の視点から解説する。3. 授業の方法は、指定したテキストを使いながら解説していくが、予め配付する要約資料も活用する。					
学習目標	1. 西郷南洲のリーダーシップに対する考え方を解説できる。 2. 稲盛和夫氏の生き立ちや生き方からリーダーシップを学び、その神髄を解説できる。 3. その生き方・考え方から、自分なりの人生観・リーダーシップ観を構築してそれに基づいた行動ができる。 4. 自分の属する組織内で、眞のリーダーシップの発揮ができる。					
成績評価	毎回のフィードバックシートの提出(50%)、期末レポート(50%)。			受講要件	指定された教科書を必ず購入すること。また、第3回以降は、事前に次の時間に説明する部分(本と要約した冊子の両方)を一説してくること。西郷隆盛とリーダーシップの本質、人間学に关心をもっていることが望ましい。真面目に全ての回を受講する覚悟のある	
授業科目名	海外研修基礎コースinカリフォルニア	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		中谷純江	統合II (課題解決)	講義	集中	2
授業概要	【目的】この授業では、グローバル化が加速する世界における共通課題である「1.多文化主義」「2.経済格差と社会福祉」「3.グローバリゼーションへの地域の挑戦」について学ぶ。アメリカ合衆国・カリフォルニア州にあるサンノゼ州立大学(SJSU)の学生とオンラインによる協働学習を通して、上記テーマについてディスカッションをおこなう。2021年度に実施を予定している海外研修(カリフォルニア)の事前学習科目として位置づける。第1に、これらの課題について米国地域社会の現状と対応を学ぶことで、日本の問題についてもグローバルな視点で捉え、マイノリティを含む、あらゆる人が住みよい社会について具体的に考えることを目的とする。第二の目的は、日本語および英語を駆使して自身の考えを伝え、コミュニケーション力を強化する。【内容】前半は、オンライン授業を中心に、教員による講義および学生プレゼン、SJSU学生との意見交換をおこなう。後半は対面式のワークショップ、および国内フィールドワーク(硫黄島、高隈演習林を候補地として検討中)を予定している。※その他詳細はWebシラバスを参照					
学習目標	・鹿児島地域の問題について、グローバル化世界における共通課題「1.多文化主義」「2.経済格差と社会福祉」「3.グローバリゼーションへの地域の挑戦」という視点で捉え、大学も含めた地域社会に自分がどんな貢献ができるかを考えることができる。 ・アメリカの現状について関心を持ったテーマを今後の専門教育の学びに活かすことができる。 ・英語のコミュニケーション力を向上させ、国際的に視野を広げて人生や勉学に対する目標を考え続けることができる。					
成績評価	講義の小レポート(20%)、COILへの取り組み(50%)、最終報告(30%)で評価する。			受講要件	2021年度の海外研修(カリフォルニア)への参加を考えている者を優先する	
授業科目名	鹿児島探訪－文化－	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		丹羽謙治	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	鹿児島は、中央の文化の影響と琉球口などから流入する外からの文化の影響を受け、独自の文化を創り上げてきた。本講義は、鹿児島の文化、とりわけ文学・美術・工芸、出版、教育、文化、醸造のテーマについて、担当教員が総合講義形式で講義を行う。本講義の目的は、鹿児島の過去・現在の文化の様相とその特徴をよく理解することにあり、そのうえで、未来の地域文化の創造について考えることを期待する。					
学習目標	1 地域を直視する現実感覚を身につける。 2 鹿児島の過去・現在の文化を正しく理解する。 3 自己の文化の認識を通して異文化への理解ができるようになる。					
成績評価	原則として毎回小レポートを課すが、丹羽(単独)担当分については期末レポートを課す。各担当教員の出した課題に対する評点を集計して最終評価とする。			受講要件	特になし	

5-2. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	かごしまフィールドスクール	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		岩船昌起	統合II (課題解決)	講義	集中	2
授業概要	地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らし、防災などに関する地域や施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や課題について実践的に学習して、課題を解決する方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考える。このような活動を通して、鹿児島の特徴と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローカルな素養」を身につけるとともに、自己開発の能力を身につける。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図る。なお、コースにより、3千5百円～5千円程度の宿泊経費等が必要となる。					
学習目標	(1)指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区的住民生活、商業活動、文化活動、防災等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を調査できる。(2)同地区等のさらなる活性化や安全のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表できる。(3)実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成できる。					
成績評価	地域学習を通して指定地区等の独自性を調査・認識し、グループ討論・発表とレポート作成を行う。発表内容30%、授業への取り組み30%、レポート40%として評価を行い、それらを集計して最終評価とする。なお、発表及びレポートを合わせて評価するため、どちらか一方が欠けた場合は、評価対象外とする。また、提出期限までにレポートを提出しなかった場合、評価対象外とする。	受講要件	直前に開講される夏季集中科目のかごしま教養プログラムを履修した学生を対象とする。			
授業科目名	環境と進化の科学	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		富山清升	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	授業は、インターネットを用いた遠隔授業で行います。動画の形態で後から再受講できるように措置しています。地球上に生息している生物がどのように環境に適応しているのか、どのようなメカニズムで進化してきたのか理解します。環境への生物の適応や進化を理解するために、生物を構成する細胞の話から生物学の基礎的分野の解説を重視します。また、人間が環境をどのように利用し、変化させてきたか、現状の把握と今後の課題について理解します。					
学習目標	地球上に生息している生物がどのように環境に適応しているのか、どのようなメカニズムで進化してきたのか理解する。					
成績評価	毎回の授業で課題として出す小レポートで評価します。期末試験は行いません。	受講要件	全学部の1年生、および、2年生以上のすべて学生が対象です。受講時の予備知識は特に定めません。高等学校で生物学を履修していないにも判りやすく解説します。			
授業科目名	がんはなぜおこるのか	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		郡山 千早	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	医学部の基礎、臨床の教員、それぞれの分野の専門家が分担して行うオムニバス授業です。悪性腫瘍(がん)は、日本人の死因の第1位で、2人に1人が罹患すると言われており、誰もがかかる可能性がある病気です。がんとはどんな病気でなのかを理解し、がんの予防、診断、治療について適切な知識を得るために、1.がんはどのように発生するのか? 2.がん細胞と正常な細胞は何がちがっているのか? 3.がん細胞はどのように進展し、死をひきおこすのか? 4.適切な予防、発見および治療法にどのようなものがあるのかなどについて、学びます。また、本学で行われている先進的な研究についても一部紹介します。受講に当たり、細胞、遺伝子などの理解があることが望されます。					
学習目標	1.がん細胞の生物学的、形態学的特性について説明できる。 2.がん細胞の発生機序の概要を理解する。 3.がんの予防、発見、診断、治療法および社会復帰についての概要を理解する。					
成績評価	manabaでの小テストによる。共通教育科目等試験規則にしたがい、試験を受けるには出席が確認のために小テスト3分の2以上の提出が必要です。小テストの提出率 30%+小テストの成績 70%で評価します。	受講要件	生物基礎 生物あるいは生物学 I, II の知識を習得していることが望ましい。特に、遺伝情報にもとづくタンパク質の合成、細胞などの基礎的な理解があることを前提として講義が進みます。			
授業科目名	口と顔の科学	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		教育委員長	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	口腔は消化器の入口として生命維持の要であり、その機能は多岐にわたる。身体各臓器の疾病に対しては日頃から関心を持っていても、口腔疾患に関しては痛みを感じ始めてその重要性に気付くことが多い。授業では、顎顔顔面の構造および働きから、歯・口腔・顎・顔面領域の各種疾患の診断・治療・予防に至るまで基礎的なならびに臨床的知識習得に重点を置き、歯科医学と生命科学との関連性についても自由な形式の講義が行われる。歯学部の専門教員により総合講義形式で行われるので、歯科医学に関する幅広い一般教養の知識が習得できる。					
学習目標	歯科医学を学ぶ初心者に対して予めその広がりと深さ、位置づけの概念を知らせるための講義である。歯学部以外の学部の学生にとって歯科医学についての最近のトピックスに触れる絶好の機会となるであろう。内容は、歯科医学を構成する基礎歯科医学および歯科臨床科目について総合講義形式で行われ、複数の歯学部基礎、臨床系教員が担当する。講義内容は、歯科医学にとどまることなく、広く基礎医学全般に関して、近年問題となっている口と顔の科学に関する広領域にわたって講義がなされる。					
成績評価	授業態度および各回の小テスト(100点)の内容を総合的に評価する。	受講要件	特になし			

5-2. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	グローバル人材育成（米国ノースダコタ）	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		中谷純江	統合II（課題解決）	講義	集中	2
授業概要	本授業は北米の大学に実際に留学したときと同じ環境を体験し、大学で授業や生活を通して、将来国際社会で活躍するために自分に何が欠けているか「気付き」を得ることを目的とする。本学と協定関係にあるノースダコタ州立大学（NDSU）に3週間滞在し、英語特訓クラス、グローバル・スタディーズ基礎科目及び、各自の専門科目の授業への参加などを通じて自立的に学ぶ。NDSUのキャンパスでの授業や野外での活動に参加することによって、受講生は米国での学生生活を体験し、友人を作り、非常に高いレベルの教育効果を上げることができる。					
学習目標	短期ではあるが、海外のすぐれた大学での留学体験を通じて、グローバルに活躍するために必要な能力を理解し、事後の学生生活における具体的な目標を見いだすことができる。また、海外研修を通して向上したコミュニケーション能力や自信を持続させ、向上させるため自主的に活動することができる。					
成績評価	事前学習(30%)、海外研修(40%)、事後学習(30%)で評価			受講要件	本海外研修は「進取の精神グローバル人材育成プログラム（P-SEG）」の一環として開設している。原則として、本海外研修に参加した学生は、研修終了直後の学期に開設される「グローバル・イニシアティブ概論」を受講するものとする。	

授業科目名	最先端医療を創出するバイオ研究	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		小賀健一郎	統合II（課題解決）	講義	毎週	2
授業概要	1. 授業目的：政府は医療における成長戦略（日本再興戦略）をかけ、がん等の難病克服の革新医療、あるいは再生医療や遺伝子治療といった全く新しい革新医療の開発に繋がるバイオ研究と実用化の促進を最重要目標の一つと定めました。このように、自然科学研究と医療の発達は単に目覚ましいだけでなく、両分野は個別に進むのではなく、基礎研究、臨床応用、社会での実用化を一体として進める新時代に突入しました。このようなバイオと先端医療の基本事項の理解はどの学部の生徒にも重要です。さらにこれから最先端医療の発展は、様々な学部出身者の創造的なバイオ研究に掛かっています。そこで、これらバイオ研究の技術を理解することを目的として授業を行います。2. 授業内容：最先端医療を創出するバイオ研究の技術、その臨床応用から実用化まで、各専門の講師がわかりやすく講義します。3. 授業方法：PowerPoint等によるスライドを中心とした講義を行います。					
学習目標	1) 最先端医療を創出するバイオの研究と技術の概要を理解する。 2) 幹細胞（iPS細胞など）の研究と技術の概要、それを基盤とした革新的なバイオ・医学技術開発と再生医療応用の現状と展望を理解する。 3) がん等の難病に革新的な医療や医療が新たな取り組みで開発・実用化されている現状を理解する。 4) 医薬品を実用化するための患者さんでの治験、その規制・規則、医療イノベーションの概要を理解する。					
成績評価	授業への参加態度(50%)、およびレポート(50%)により評価。 レポートについては、講義最終日に詳細を連絡します。			受講要件	高等学校の生物習得程度の基礎知識を持っていることが望ましい。	

授業科目名	自然学校インターンシップI	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		井倉洋二	統合II（課題解決）	実習	集中	2
授業概要	前期講義「自然学校へ行こう」を受講し、続けて「自然学校へ行こう・実践編」を受講して実際に自然学校での活動を体験したことで、自然学校の企画や運営も含めてさらに深く実践的に学びたい学生が、「自然学校へ行こう」のゲスト講師等が経営する九州各地の自然学校等において、夏季休暇中または冬季・春季休暇中にインターンシップ（原則として10日間以上）を行うものである。 1. 授業の目的は、自然学校での体験を通じて、持続可能な社会と自らの仕事を切り拓いていく意欲を持つこと。 2. 授業の内容は、各地の自然学校（自分で選ぶ）で職場体験をすること。 3. 授業の方法は、10日間以上の職場体験と、それをまとめたレポート作成および発表会による。					
学習目標	1)自然学校での職場体験を通じて、自然学校の仕事内容と地域社会との関わりを理解できる。 2)自然学校での職場体験を通じて、コミュニケーションスキルを向上できる。 3)自然学校での職場体験を通じて、持続可能な社会と自らの仕事を切り拓いていく意欲を持つことができる。					
成績評価	受講態度（インターンシップ先での行動）を60点、事後レポートと発表内容を40点で評価する。			受講要件	「自然学校へ行こう」および「自然学校へ行こう・実践編」を受講した者、もしくはそれと同等の知識と経験を有する者	

授業科目名	島のしくみ	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		山本宗立	統合II（課題解決）	講義	集中	2
授業概要	鹿児島県の特徴として鹿児島市とそれ以外の自治体の規模の違い、それと離島の存在があげられる。鹿児島県では鹿児島市への人口集中に伴い、郡部の過疎化と高齢化が進み、大きな不均衡が生じてしまった。この状況は離島ではさらに著しいものとなっている。鹿児島県の多くの離島は自治体の合併によっても効率化は期待できないであろう。しかし、環海性、隔絶性、狭小性などの制約の中で、離島では優れた自然環境の中で貴重な歴史文化を育てており、地域の多様性が保全されている。また、離島の地域社会では伝統的な共同体が地域活性化の原動力となり、自らの英知と努力により多種多様な地域おこしの取り組みが行われている。鹿児島大学も直接・間接にかかわっている。この授業では与論島の経験豊かな実務者による講義が中心となっており、与論島の現況や取り組みについて理解するとともに地域社会の在り方や活性化について考える。					
学習目標	1)与論島の特性を理解する 2)与論島で実施されている企画や試みについて学ぶ 3)与論島をはじめとする離島の状況について理解する 4)島嶼域の振興施策について学ぶ 5)自分が居住している地域と関係づける					
成績評価	与論島での講義や施設見学を踏まえた地域活性化の方策に関するレポートを提出する。レポート90%、受講態度5%，時間外学習5%。			受講要件	特になし	

5-2. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	社会システム・政策研究（タイ研修）	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位		
		難波 美芸	統合II（課題解決）	講義	集中	2		
授業概要	<p>本科目では、タイでの12泊13日の海外研修を実施する。必ず「受講要件」と「その他」を確認すること。</p> <p>ASEAN第2位の名目GDPを誇るタイには、新興国として確実に経済成長を遂げる中で、産業公害を含む環境汚染の問題や近代化の影響を受けながらも、創意工夫を通して逞しく日常を送る人々の生活が存在している。本研修の目的は、そのようなタイ社会の現状を多角的に理解することを通じて、全球的に直面している諸課題を、自分自身と関わる現実的な問題として捉える視点を養うことにある。研修内容は以下の3点にまとめられる。（1）大学訪問・学生交流：ブルーバー大学を訪問し、現地学生と共同で、今日の日本とタイが抱える共通の、あるいは異なる諸問題について学習し、持続可能な社会のあり方に関して意見交換を行う。（2）市街地、工業地帯、農村地帯でのフィールドワークを行う：バンコクでは寺院等を訪れる、タイの文化歴史についての基本的学習を行なう。工業地帯においては環境問題に関するフィールドワークを行う。農村地帯では環境に根ざした生活のあり方と近代化に伴う変化についてのフィールドワークを行う。（3）帰国後に報告書を作成し、報告会を開催する。</p>							
学習目標	<p>(1) 異文化や異なる価値観を体験することで、国際的な広い視野を身につける。 (2) 現地大学生との意見交換と共同作業を通じて、直面した課題に対し自ら主体的に思考し、行動する習慣を身につける。 (3) タイの現状を通して日本の問題を照射し、グローバル化の進む地域社会に即した解決策を立案できる力を養う。 (4) フィールドワークを通じて、生身の人間とのコミュニケーション能力を育み、問題発見のセンスを磨く。 (5) 報告書の作成を通じて、自らの体験を言語化し、他者に伝える技術を磨く。</p>							
成績評価	事前学習の小レポート(20%) 研修への取り組み意欲と態度など(30%) 研修後の報告書(50%)	受講要件	(1) P-SEG Intensive English 等、語学学習コースの受講生を優先する。 (2) 事前の共通教育科目「東南アジア文化入門」受講を原則とする。 (3) 事後の共通教育科目「グローバルイニシアティ	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
授業科目名	進取の精神海外研修inベトナム		山口明伸	統合II（課題解決）	講義	集中	2	
授業概要	<p>本授業の目的は、鹿児島大学教育目標に則り、向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度（進取の精神）を養い、グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育むことである。授業では、まず、本学が先人より引き継ぐ「進取の精神」を理解するために、本学の歴史や日本の近代化を推進する過程で多くの困難に果敢に挑戦した鹿児島の若者について学ぶ。日本と同様に中国より仏教や文化が伝播したベトナムでは、ベトナム国民は長い間、中国、フランスによる長期間の侵略やベトナム戦争に堪えた後、現在、国土の復興と産業等の振興に懸命に取り組んでいる。さらにベトナムを直接訪問し、農業、産業、工業などベトナムの様々な取り組みを実際に体験し、様々な立場で国の発展を支えている多くのベトナム国民と交流する。また、稻盛アカデミー・ベトナム事務所で日本語・日本事情を学び本学への留学に果敢に挑戦する若者や、ベトナム支援活動等を行っている日本人の若者とも交流する。これらの事前事後の講義や現地での体験学習を通じて、ベトナム文化、歴史、産業の実態を深く理解し、進取の精神を涵養とともに、グローバルな視点を持った実践力を育む。</p>							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムの文化、歴史、産業の実態を現地見学と体験学習により、深く理解する。 ・ベトナムの同世代の若者との交流を通じ、進取の精神を涵養する。 ・ベトナムでの海外研修での経験を通じて、グローバルな視野を持つ実践力を育む。 							
成績評価	事前授業、研修事業、事後授業の参加姿勢(70%)及びレポート(30%)で評価する。	受講要件	特になし					
授業科目名	地域環境論		担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位	
			中川亜紀治	統合II（課題解決）	講義	毎週	2	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・全15回の授業を対面形式で実施する。（1）授業の目的は、地域の様々な環境問題およびそれらと連動した社会問題からいくつかの事例を選び、多角的な視点から学んで論じ、受講生と教員がそれらの問題の全体像と本質を考えることにある。関連図書も紹介するので、それらを読んで学ぶ事もまた目的に含まれる。 （2）授業の内容は、環境問題や社会問題が題材とした実在する諸問題の提示である。具体的な事例として、諫早湾干拓事業などの沿岸開発、原子力発電所、水俣病事件などを取り上げる。このような、身近でありながらも普遍性を備えた問題に焦点を当て、それらの問題を考えるために必要な基礎的知識を学んで整理する。環境問題が引き起こされる背景としての様々な地域社会の問題や政治についても論じ、複数の側面からのアプローチがあることを理解する。講義は複数の学部に所属する5名の講師が分担し、自然科学と社会科学の両方の視点から問題を論じる。※その他詳細はWebシラバスを参照 							
学習目標	<p>この授業では、特に以下の項目の獲得を重視する。</p> <p>(1) 個々の問題について、自分自身の頭で考えることができる (2) そのためには幅広い学問が必要であることを気づくことができる (3) 安易に周りの意見に流されない自由な精神をもつことができる (4) 世代を超えた長期的な視点で物事が考えられることができる ※その他詳細はWebシラバスを参照</p>							
成績評価	・毎回の授業最後に行なうミニレポート(50%) ・15回の授業終了後に課す、期末のまとめレポート(50%)	受講要件	なし					
授業科目名	農家民泊体験講座		担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位	
			井倉 洋二	統合II（課題解決）	講義	集中	2	
授業概要	<p>この授業の目的は、進取の精神を修得するためには、体験活動が不可欠であることから、農村地域に出向きそこで暮らす人々の実態について理解するとともに、問題解決能力を身につけることを目的とする。</p> <p>授業内容としては、農家の生活と生業を学習するとともに、子供たちとの交流を図り、学ぶ意欲を高めるための支援をする。</p> <p>授業は配布資料等による講義と体験、自己演習、課題レポートを組み合わせた形式で行なう。</p>							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・農家民泊体験と子供たちの学習援助のための様々な事柄を理解し、適切に対応することができる。 ・体験を通して身につけるべき学習目標を立て、行動することができる。 ・農村の実態を自分の言葉で説明することができる。 							
成績評価	受講態度(30%)、期末レポート課題(70%)とし評価する。	受講要件	特になし					

5-2. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	派遣留学I	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		畠田谷桂子	統合II (課題解決)	講義	集中	1
授業概要	1) 授業の目的は、協定校への派遣留学の準備をさまざまな角度から行うことである。 2) 内容と方法は、派遣前ガイダンス（留学準備全般の注意・講義）、留学の価値を高めるための自己分析及び目的の意識化と改善、留学生とのタンデムラーニング（協定校からの留学生とのペアワーク協働学習）、派遣先言語による自国等紹介パワーポイント原稿の作成・発表・相互評価（一部協働学習）、留学ポートフォリオ（前半）の作成、グローバルランゲージベース外国語学習への参加などによる。（今学期は全てZOOMによる遠隔授業を行う）					
学習目標	1) 留学のための物質的、精神的準備を自律的に行うことができる。 2) 自身にとっての留学の目的と意味を再考し、他者と比較し、留学の価値を高める準備ができる。 3) 留学派遣国、あるいは派遣大学からの留学生とのタンデムラーニングやグローバルランゲージベース外国語学習により、派遣先言語でコミュニケーションができ、派遣先の文化がより深く理解できる。 4) 派遣先言語による自己紹介、自国や専門についてのプレゼンテーションができる。※その他詳細はWebシラバスを参照					
成績評価	自己振り返り等、授業での課題への取組みや提出状況20%、他者への積極的なフィードバック発言5%、タンデムラーニングおよび「グローバルランゲージベース外国語学習」30%、パワーポイント発表原稿作成および発表35%、留学ポートフォリオ10%	受講要件	学術交流協定校への派遣留学生として選考された者			

授業科目名	派遣留学II	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		畠田谷桂子	統合II (課題解決)	講義	集中	1
授業概要	1) 授業の目的は、留学体験を総括し、人生とその生き方を表すライフキャリア（個人の成長や発展、職業生活の歩みを表すワークキャリアを含む）の中での位置づけを考察し、自己の確立および将来ビジョンの形成に役立てることである。合わせて、留学体験の総括と成果をレポートにまとめ、他者（後輩）に効果的に伝えるためのコミュニケーション能力を磨くことも目的とする。 2) 内容は、留学体験を総括し、ライフキャリアの中での位置づけを考察し、自己の確立および将来ビジョンの形成に役立てることである。また、留学体験の総括と成果をレポートにまとめ、他者（後輩）に効果的に伝える。 3) 方法は、留学体験の総括を補助する講義と自己振り返り・ディスカッション、派遣留学レポートの作成、プレゼンテーションの準備と実施、留学ポートフォリオ（留学中・帰国後）の完成である。（2020年度は、COVID-19のため、遠隔授業受講に変更）					
学習目標	1 留学体験を自省して総括することができる。 2 ライフキャリアという視点が持て、その中で留学体験の位置づけができる。 3 留学体験の位置づけから発展して、将来ビジョンについて考えることができる。 4 留学の総括、成果を他者に効果的に伝えることができる。					
成績評価	授業中の振り返り作業や他者への積極的なフィードバック等への取組み状況10%、提出物10%、HP用派遣留学報告掲載35%、留学報告発表30%、留学ポートフォリオ15%	受講要件	学術交流派遣校への派遣留学生として選考、派遣された者			

授業科目名	ヒトの身体の仕組みと働き	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		沖利通	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	1. 授業の目的は、人体を構成する代表的な器官(臓器)、すなわち循環器系、呼吸器系、消化器系、脳神経系、泌尿・生殖器系、筋骨格系などについて、その解剖学的仕組みと働きを理解することである。2. 授業の内容は、身体の基本的な営みである血液循環、呼吸、消化吸収、ホルモン作用、神経機能、生殖妊娠、分娩、免疫、睡眠などについて、ヒトの健康や疾病と関連付けながら解説する。3. 授業の方法はスライド、プリントなどの資料を用いて、講義形式の授業を行う。					
学習目標	1. 肉眼レベル、細胞・組織レベルでの人体の器官(臓器)の構造の特徴と、生理機能の関連が理解できる。2. 正常な身体の仕組みと働きを学ぶことにより、病気を器官の仕組みや働きの異常と関連付けて考えることができる。3. 身体についての自らの知識を拡大させ、日常的に健康保持や増進に務めることの重要性が理解できる。					
成績評価	授業を担当した全教員が授業内容に基づいて出題する期末試験により評価する(100%)。	受講要件	なし			

授業科目名	ヒトの病気の成り立ちと予防I	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		岡本 裕嗣	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	ヒトの病気には原因があり、症状や障害をもたらす仕組みがある。これを知ることによって病気の予防が可能となる。ここでは広く日常的にみられる病気や関心を集めている病気について、それぞれの領域の専門医が分かりやすく解説する。方法は、通常の板書による講義に加え、必要に応じてスライドやプリントなどを用いて教授する。					
学習目標	1. 日常的にみられ、関心を集めている代表的疾患病の徴候・症状について理解し、健康維持に役立てる。2. 代表的疾患の原因と起り方について理解を深め、病気の発生予防について理解する。3. 生活習慣や老化による健康障害について理解する。4. 身近に病気で悩んでいる人がいたら医療機関を適切に受診することを勧める技能を身につける。5. 病気を抱えている人の問題解決に関わるような人間性豊かな人材を育成する。					
成績評価	本来ならば、授業を担当した全教員が授業内容に基づいて出題する試験により評価する(100%)予定であったが、全ての授業がレポート課題やリアルタイム:zoomでの授業であるため、レポート、小テスト、出席状況を踏まえて評価を行う。	受講要件	なし			

5-2. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	南太平洋多島域	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		河合渓	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	東南アジア島嶼部を含む南太平洋多島域は、文化的、自然的に連なるスペクトラムである。この多島域は大小様々な島々から成り、自然環境は変化に富み、人々の生活ぶりはその自然および歴史に根ざした文化環境と深く結び付いている。他方、日本も太平洋に面し、多くの島々からなる島国で、南太平洋多島域と、自然的、文化的に深く結びついている。私たちの住む地域と隣接した位置にあるこの多島域の正解について、多面的に理解し、科学的に深い洞察力を養うことを講義は目指している。					
学習目標	1) 南太平洋への人々の移動および歴史を説明できる。 2) 日本ならびに世界全体と南太平洋多島域のかかわりについて説明できる。 3) 南太平洋多島域の人々の生活と社会の特徴について述べることができる。 4) 島嶼域の先史人類の歴史と特徴について理解する。 5) 日本から南太平洋に至る島々とそれを取り巻く海域の特徴を列挙できる。					
成績評価	各担当者ごとにレポートを提出			受講要件	特になし	

授業科目名	屋久島の環境文化II—生き物—	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		藤田志歩	統合II (課題解決)	講義	集中	2
授業概要	授業形態：対面形式（現地実習） 屋久島は日本で最初の世界自然遺産で、樹齢数千年のヤクスギをはじめ、多くの固有種や希少種を含む生物相など、世界的に特異な生態系とすぐれた自然景観を有する島である。本授業では、屋久島特有の自然、特に動物、昆虫、野鳥などを現地で観察するとともに、また、ヤクシカ、ヤクシマザル、ウミガメなどの野生動物の保護や管理、人間との軋轢問題などについて実地体験を通して学ぶ。現地研修から得られた知見をもとに、人と自然の両者の視点から、屋久島におけるこれから地域づくりについて課題と解決策を考える。					
学習目標	(1)屋久島における生き物の特徴と生態系のしくみを説明できる。 (2)屋久島の人々の暮らしと自然との関係について、歴史的観点も含めて理解するとともに、そこに生じる様々な課題の解決策を提案できる。					
成績評価	現地調査およびグループ討論の取り組み20%、発表の成果40%、個人レポート40%として評価を行い、それらを集計して最終評価とする。			受講要件	履修登録後に履修登録者対象説明会に参加すること。	

授業科目名	屋久島の環境文化III—産業—	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		奥山 正樹	統合II (課題解決)	講義	集中	2
授業概要	世界自然遺産は人類共通の宝として、自然環境を将来世代にわたって保全する地域である。屋久島は日本最初の世界自然遺産に登録された島で、世界的に特異な植生の垂直分布や多くの固有種や希少種を含む生物相がみられ、ヤクスギの森や滝など美しい自然景観を有している。世界自然遺産の島として、自然環境と観光に注目が集まっているが、屋久島には島の資源を活かした独自の産業が息づいている。 本授業では、屋久島の自然環境を概観した後、世界自然遺産の保全と地域社会の持続可能な発展という視点で、農業、漁業、製造業、サービス業などを実践的に学習する。自らが体験し、自らが考え、チームで議論することを通じて、国際社会の中で自己開発の能力「グローバルな素養」を身につける。世界自然遺産の島で、人と自然の共生とは何かを考え、自らの生き方を感じることがこの授業の目的である。					
学習目標	(1)屋久島における地域産業の独自性を知るとともに、それが直面している様々な問題を理解する。 (2)様々な視点で地域産業の持続可能性を考察する。 (3)屋久島の人々の暮らしと地域産業の在り方の関係を考察する。 (4)屋久島の現状を踏まえた地域産業・経済の発展を考える。					
成績評価	地域学習を通して屋久島の地域産業の現状を認識し、グループ討論とグループ毎の取りまとめおよびそれらの発表を行なうほか、各自で課題レポートを作成します。成績は、実地等調査・グループ討論・発表の成果70%、個人レポート30%として評価を行い、それらを総合的に判断して決定します。			受講要件	なし	

授業科目名	有機農業I 新しい食と農のかたち	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		高山耕二	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	“農的暮らし”、“半農半X”、“食農教育”といった言葉を最近、よく耳にします。“農”的魅力が再認識される一方で、わが国の食料自給率は約40%と低迷し、農業、農村に目を向ければ、いずれも崩壊の危機に瀕しています。この授業では、私たちが生きる上で不可欠な“食と農”的あり方をもう一度見つめ直し、その再生に向けた新しい方向性を皆で考えていくたいと思います。受講にあたって、専門的な知識は必要としません。授業は、大学の先生だけではなく、実際に食と農の現場に携わっている有機農家や有識者が農の魅力や食の本来あるべき姿を写真などを交えて、分かりやすく紹介していきます。					
学習目標	1. 日本の農業と食の現状を深く理解し、課題を列挙することができる。 2. 農の持つ多面的価値（食糧生産、環境保全、教育力など）や魅力について、理解を深める。 3. アイガモ農法や有機農法など安全な農作物の生産技術について、知識や理解を深める。					
成績評価	1) 毎回、授業終了時に提出する感想 (50%) 2) 受講態度+最終レポート (50%)			受講要件	特になし	

5-2. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	留学生のための異文化理解	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		畠田谷桂子	統合II（課題解決）	講義	毎週	2
授業概要	今学期は、コロナの状況によって可変するが、ZOOMによる参加型遠隔授業を計画している。授業は英語と日本語で行い、文化とは何かについて理解し、文化の相対性、多様な価値観の存在、異文化適応のモデル等について自らの経験を分かち合いながら学ぶ。方法は、グループ討論、ゲーム、VTR視聴、ロールプレイ、ケーススタディ、プレゼンテーションなどである。					
学習目標	1. 文化の相対性を認識し、文化とはどのような諸側面を持つかについて説明できる。2. 自文化について深く分析し、さまざまな側面について説明できる。3. 異文化間で生じるトラブルについて、原因を分析考察し、解決に向けて提案や行動ができる。					
成績評価	授業における発言など積極性 40% 学期中の提出物20% 期末レポート 40%	受講要件		学術交流協定校への派遣留学候補生として選考された学生に限る。また、その中でIntercultural Communication for Global Citizens の既習者を除く。		

6. 学芸員資格科目

授業科目名	生涯学習概論	担当教員	6. 学芸員資格科目	科目形態	開講区分	単位
		小栗有子		講義	毎週	2
授業概要	<p>生涯学習という概念は、歴史的に形成されてきたものであり、その理解をめぐっては様々な立場や考えがある。そこで、本講義は、生涯学習の概念との意味を理解するために、国際的な文脈のなかで概念が登場する背景について探り、日本における受容のされ方とその特徴、課題について論じる。また、生涯学習の現代的意義を考えるために実践と結びつけながら、学習理論、内容、方法、指導者等について扱い、生涯学習社会の今後の姿を確認していく。</p> <p>なお、本講義はすべてZOOMミーティングを用いた解説・小グループ討議、manaba機能を用いた課題レポートなどを活用して遠隔授業として実施する。</p>					
学習目標	<p>1. 生涯教育・生涯学習の概念について理解する。 2. 日本における生涯教育・生涯学習の特徴について理解する 3. 生涯学習の現代的意義を実践と結びつけて理解する</p>					
成績評価	毎授業のmanaba課題・レポート 75% 最終レポート 25%			受講要件	学芸員資格取得を目指す者のみ。必ず5期までに修得し終えること。	

授業科目名	博物館概論	担当教員	6. 学芸員資格科目	科目形態	開講区分	単位
		山西健夫		講義	毎週	2
授業概要	博物館学の目的・方法・構成、博物館の定義、日本および諸外国の博物館の歴史と現状、学芸員の役割、博物館関連法令、博物館倫理について学ぶ。					
学習目標	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。					
成績評価	中間と学期末確認レポートで評価する。			受講要件	学芸員資格取得を目指す者のみ。必ず5期までに修得し終えること。	

授業科目名	博物館経営論	担当教員	6. 学芸員資格科目	科目形態	開講区分	単位
		佐久間美明		講義	毎週	2
授業概要	<p>対面授業を予定している。本授業は以下の三つの内容から成り立つ講義である。</p> <p>1)博物館の経営基盤：行政制度、財務、施設・設備、組織・職員の現状を示す(1~5回) 2)博物館の経営管理：使命、計画、評価、倫理、危機管理、利用者との関係等に関わる管理手法を示す(6~12回) 3)博物館における連携：市民参画、博物館ネットワーク、博物館と他機関・地域社会との連携について現状と課題を示す(13~15回)</p>					
学習目標	博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営に関する基礎的能力を養う。					
成績評価	出席数が2／3以上の者に対して期末レポートを課す。中間レポートと、期末レポートを3：7の割合で総合的に評価する。			受講要件	学芸員資格取得を目指す者が受講可能である。必ず5期までに履修すること。	

授業科目名	博物館資料論	担当教員	6. 学芸員資格科目	科目形態	開講区分	単位
		渡辺芳郎		講義	毎週	2
授業概要	博物館が所有する資料は人類共有の財産であり、その資料を探求して次世代に伝えていくことが博物館の社会的責務である（日本博物館協会、2003）。本授業では、博物館資料が将来にわたって役立て活用されるために、博物館における資料の種類や収集・整理・活用方法等について知るとともに、それらの基礎となる博物館の調査研究活動について理解する。					
学習目標	博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。					
成績評価	授業に臨む姿勢（100%）			受講要件	学芸員資格取得を目指す者のみ。必ず5期までに履修すること。	

6. 学芸員資格科目

授業科目名	博物館資料保存論	担当教員	6. 学芸員資格科目	科目形態	開講区分	単位
		荒田邦子		講義	集中	2
授業概要	博物館が所有する資料は人類共有の財産であり、その資料を探求して次世代に伝えていくことが博物館の社会的責務である（日本博物館協会、2003）。本授業では、博物館資料が将来にわたって役立て活用されるために博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を学ぶ。					
学習目標	博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う。					
成績評価	試験はレポートでおこなう。		受講要件	学芸員資格取得を目指す者のみ。必ず5期までに履修すること。		

学 部	学 科 等	組	学 簿 番 号	氏 名